

学術交流レポート

— 2019 —



桐蔭横浜大学

学長挨拶



桐蔭横浜大学
学長 溝上 慎一

大学の社会に対する大きな責務は、教育と研究です。教育と研究を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性、そして主体性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献ができるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学への期待に応え、大学の存在感を一段と大きいものとすることに連なるでしょう。

「学術交流レポート2019」は、単年間の専任教員による教育活動と学術研究をまとめたものです。本学は、法学部、医用工学部、スポーツ健康政策学部の3学部体制であり、また、3つの大学院と1つの専門職大学院（法科大学院）がその上に配置されております。そこから生まれるところの教育研究活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、学内外にわたり幅広い知的交流の機会が増大し、そのプロセスの中で、教育と研究の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

自然を愛し、平和を愛する国際人たれ。

目次

法学部	法律学科	1
医用工学部	生命医工学科	38
	臨床工学科	63
スポーツ健康政策学部	スポーツ教育学科	101
	スポーツテクノロジー学科	128
	スポーツ健康政策学科	149
教育研究開発機構		173
大学院	工学研究科	187
大学院	スポーツ科学研究科	193
法科大学院		204
先端医用工学センター		215

法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

麻妻和人 (あさづま かずひと) 教授



出生年 : 1969 (昭和44) 年
在籍 : 2005 (平成17) 年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
学位 : 法学修士
学位論文 : 捜査の規律に関する一考察 - 盗聴 -
専門分野 : 刑事訴訟法
前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略

引き続き、刑事裁判の諸制度について、アメリカ合衆国の例を参考にしながら検討を行った。憲法の求める裁判の公正さについての検討。比較法研究所米国刑事法研究会への参加および報告 (Shoop v. Hill, 586 US _ (2019), Moore v. Texas, 586 U.S. ____ (2019))。刑法学会・被害者学会大会参加。

○著書・論文等

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
米国刑事判例の動向VII	共著	2020年3月6日	中央大学出版部	椎橋隆幸 編	[14][27]を担当
(総説・論説)					
Weaver v Massachusetts, 582 U.S. ____ (2017).	単著	2019年9月30日	比較法雑誌(日本比較法研究所)第53巻第2号		393-406頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(研究報告) Shoop v. Hill, 586 US _ (2019)	2020年1月25日	米国刑事法研究会(中央大学市ヶ谷キャンパス)	
(研究報告) Moore v. Texas, 586 U.S. ____ (2019)	2020年1月25日	米国刑事法研究会(中央大学市ヶ谷キャンパス)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

阿部 憲二 (あべ けんじ) 教授



出生年 : 1964 (昭和39) 年
 在籍 : 2002 (平成14) 年9月～
 最終学歴 : サンフランシスコ大学教育学部博士課程
 国際化に伴う社会教育学科修了
 学位 : 教育学博士 (Ed. D.)
 学位論文 : Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野 : 国際社会病理
 前職 : 北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
 学内役職等 : 国際交流委員 (2012～)
 留学 : アリゾナ州立大学 (1984. 6～1985. 5)
 サンフランシスコ大学 (修士 : 1990. 6～1991. 5、博
 士 : 2000. 1～2001. 12)
 資格 : 中学1級・高校2級教員免許、英検1級
 上級心理カウンセラー、サイコパス診断資格
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
ラジオ日経「大人のラジオ」社会と犯罪コーナー担当 (2012年9月～現在)

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者及び満期出所者オリエンテーション担当講師 受刑者心理カウンセリング
全国篤志面接員連盟理事	2015年4月～現在	

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年 : 1958 (昭和33) 年
 在籍 : 1993 (平成5) 年4月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
 学位 : 法学修士 (中央大学)、LL.M /N. Y. U.
 学位論文 : 勧告的意見の機能について
 専門分野 : 国際法
 前職 : 日本学術振興会特別研究員
 学内役職等 : 法学部学部長 (2016～)
 留学 : New York University, School of Law
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(2) 法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。 ・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実に生起しうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
法主体の範囲が制限されている現代国際法は、地球的諸問題に対処することができないばかりか、現行の国際法秩序の修正でさえ容易ではない。主体の範囲を拡張できる新たな法体系の模索が必要とされている。そこで、世界的規模で妥当性を有する法体系構築を可能とする法思考様式を創造しなければならない。2019年度においては、地球的規模で共有されている価値と科学的知見により必要であることが示されている対応との連携による規範創造の可能性を考察し、検討した。残念ながら、現在の世界では十分に共有されている価値が乏しく、発展可能性が低いことが判明した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

江 口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出 生 年 : 1958 (昭和33) 年
在 籍 : 2007 (平成19) 年4月～
最 終 学 歴 : 神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : 企業の社会的責任について—フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史的変遷を通じて
専 門 分 野 : 商法、会社法、手形法小切手法、金融商品取引法
前 職 : 平成国際大学法学部助教授
学 内 役 職 等 : ハラスメント対策委員会委員長
法科大学院 教務委員長
留 学 : ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部 (1987～1989)
資 格 :
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、日本経済法学会

笠原毅彦 (かさはら たけひこ) 教授



出生年 : 1957 (昭和32) 年
 在籍 : 1993 (平成5) 年4月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位 : 法学修士 (慶應義塾大学)
 学位論文 : 法判断権の所在
 専門分野 : 民事法、法情報学
 前職 : 常磐大学短期大学部講師, Wuerzburg大学訪問教授
 学内役職等 :
 留学 : ドイツ連邦共和国ザールラント大学 (1984～1986, 1994～1995)
 資格 :
 非常勤講師 : 国土館大学大学院総合知的財産法学科, 早稲田大学法学部
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間、学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開、教材として呈示しながら講義を展開。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材ダウンロードサイト。
https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2004年4月～現在	講義資料ダウンロードサイト
AI時代の法学入門 — 学際的アプローチ	2020年6月	弘文堂

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
<p>従来からの研究である情報化社会が法制度に与える影響の研究を続けた。2019年度は、特にAIとの関係での仕事の依頼が多かった。</p> <p>Würzburg大学での講義終了後、International Conference: Digitisation, AI and the Law (Uni. Würzburg) で、Electronically Recorded Monetary Claimsの講演をした。</p> <p>AIに関する様々な領域の専門家を集めて、「AI時代の法学入門 — 学際的アプローチ」を出版することになり、月に一度検討会を開いた。法学入門というには専門性の高いものになったが、2020年6月に出版した。</p> <p>日本司法書士連合会の依頼で、「ドイツ・スペイン法制のIT化事情」の題で講演。10月に機関誌「市民と法」に「民事裁判のIT化の基本視点」の題で掲載。さらに、簡易裁判所のIT化についての原稿依頼を受け、2020年7月に「国民目線で考える裁判のIT化—簡裁のIT化から」の題で、同誌掲載。</p> <p>11月: 「2019年人工知能学会国際シンポジウム法情報学部門 (Jurisin 2019)」をSteering Memberとして慶應義塾大学 (日吉) にて開催。日本大学で行われたドイツ憲法判例研究会で行われた、ドイツ連邦共和国カッセル大学ロスナーゲル教授の講演「Verfassungsrechtliche Grundlagen des Datenschutzes」(日本大学)の翻訳・通訳を担当。</p> <p>12月: ラスベガスで開催された The 2019 International Conference on Computational Science & Computational Intelligence (コンピュータ科学, コンピュータ知能国際シンポジウム) での金澤政和氏の報告「New Switchless and Free Positioning Gesture Recognition System Using RNN and CTC Loss Function」の共同執筆。2020年1月 Infocommunications Journal, Nr. 3に「Method to Predict Confidential Words in Japanese Judicial Precedents Using Neural Networks With Part-of-Speech Tags」として掲載。和文「判決文の匿名語の検出方法 — 裁判のIT化に向けて—」を電子情報通信学会に、投稿。判決文の匿名語の自動化の方法を論じた。</p> <p>同月、慶応大学通信教育集中講座 (三田) で「IT化社会が裁判に与える影響」を講じた。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
民事裁判のIT化の基本視点	単著	2019年10月	市民と法119号		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所		
ドイツ・スペイン法制のIT化事情	2019年4月	日本司法書士連合会研修会	司法書士会館		
Verfassungsrechtliche Grundlagen des Datenschutzes（講演通訳）	2019年11月	日本大学			
IT化社会が裁判に与える影響	2019年12月1日	司法書士連合会			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1985年 9月～現在	手続法研究所（慶應大学）理事	
1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員 2016年よりアドバイザー	
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員	
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員	
2006年 9月～現在	Japrico Club（キャンパスツール普及促進組織）運営委員	
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー	
2013年11月～現在	人工知能学会法情報学国際ワークショップ運営委員	
2014年2月～現在	国立情報学研究所共同研究員	
（主な活動内容）		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員（現アドバイザー）	1999年4月～	

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 教授



出生年 : 1973 (昭和48) 年
 在籍 : 2005 (平成17) 年4月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単
 位取得退学
 学位 : 法学修士
 学位論文 : フランス労働法上の非典型協定
 専門分野 : 労働法
 前職 : 東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師
 学内役職等 : 法学研究科長
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
『社会保障法第5版』(有斐閣、2016)、レ ジюме(社会保障法)	2009年～	
西村健一郎『社会保障法入門』(有斐閣、 2017)、レジюме(労働法)	2017年～	
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、 2012)、レジюме(労働法)	2012年～	
『アクチュアル労働法』(法律文化社、 2015)、レジюме(労働法)	2015年～	

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
働き方改革推進法に基づく諸改正による労働現場への影響について、文献および実地調査を行った。その後の経過も含め、近日中に成果を公表したい。また、労働法令の改正に伴う自治体の周知啓発活動に協力した。					
○著書・論文等					
著書・論文等 の名称	単著・ 共著の別	発行または発表 の年月日(西 暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名 称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
有期契約と試用期間	単著	2019年4月30日	旬報社『労働六法 2019』	石田眞、武井寛、浜村 彰、深谷信夫編	1001-1002頁

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
中期労働講座 「賃金、労働時間Ⅰ」、 「労働時間Ⅱ」	2019年9月26日、 10月3日	神奈川県かながわ労働セン ター、厚木市	アミューあつぎ
中期労働講座 「労働契約の基礎、賃 金・労働時間①」、「同②」	2019年10月4日、 15日、29日	神奈川県かながわ労働セン ター、小田原市	小田原合同庁舎
多摩労働カレッジ 基本講座「労使関係 法」、「労使関係法・労働紛争処理法」	2019年9月30日、 10月2日	東京都労働相談情報セン ター	国分寺労政会館
多摩労働カレッジ 専門講座「労使関係 法」	2019年11月29日	東京都労働相談情報セン ター	国分寺労政会館
「職場におけるハラスメントの防止～パ ワーハラスメント対策の法制化、裁判例 の動向等～」	2019年12月3日	神奈川県かながわ労働セン ター、平塚市	ひらつか市民活動センター
「職場におけるハラスメントの防止」	2020年1月29日	愛川町環境経済部	愛川商工会館
○その他			
(その他特記事項)			
東京都労働相談情報センター発行冊子『どうなる？こんなトラブル!』 監修			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本労働法学会、日独労働法協会

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年 : 1960 (昭和35) 年
 在籍 : 1993 (平成5) 年4月～
 最終学歴 : 京都大学法学部博士後期課程満期退学
 学位 : 法学修士
 学位論文 : アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野 : 法社会学
 前職 : 京都大学法学部助手
 学内役職等 : 副学長 (2016～)
 留学 : パリ第2大学博士課程
 資格 :
 非常勤講師 : 一橋大学法科大学院・早稲田大学法学部
 受賞・表彰 : 第六回日本法社会学会奨励賞
 著書 「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞 (2005年5月)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
科研費による、訴訟利用者調査の結果分析を続行、刑事施設について一般向けの啓蒙書を執筆した。平成30年間の刑事政策と社会変化 について法務省からの依頼でまとめた。そのほか、国際学会で、ゴーン事件についてと、日本社会の法治国家化について英語で報告した。ネット上の雑誌で、性犯罪についての訴訟、表現の自由問題、恩赦、アダルトビデオ業界の自主規制などについて多様なメディアにて報告。また、例年に引き続き、人事院の国家I種採用者初任者研修、矯正局の職員研修などの研修講師を務めている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「もしも刑務所に入ったら - 「日本一刑務所に入った男」による禁断解説」	単著	2019年12月10日	ワニブックス		
(学術論文)					
性犯罪無罪判決、本当の問題点は何か 司法関係者の犯罪者と被害者に対する洞察力の欠如こそ問題だ	単著	2019年5月15日	『論座』		https://webronza.asahi.com/national/articles/2019051300006.html
「6361本の作品を配信停止… 「AV出演強要問題」のその後」	単著	2019年7月16日	『現代ビジネス』講談社		https://gendai.ismedia.jp/articles/-/65760
「表現の不自由展」中止で「平和の少女像」が有名になったという現実 テロ予告への対応と表現の自由	単著	2019年8月10日	『現代ビジネス』講談社		https://gendai.ismedia.jp/articles/-/66467

「平成30年間の刑事政策と社会変化『令和元年版犯罪白書』を読む」	単著	2019年12月1日	『罪と罰』第57巻1号		16 - 25頁
コロナ危機で「受刑者釈放」…いま世界で起きている現実感染症と刑務所をめぐる論点	単著	2020年3月31日	『現代ビジネス』講談社		https://gendai.ismedia.jp/articles/-/71471
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「刑事司法における市民参加の展開」	2019年5月12日	2019年度日本法社会学会学術大会（千葉大学/千葉県千葉市）			
「被害者学理論構築の可能性」	2019年6月22日	日本被害者学会第30回学術大会（桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市）			
「Japanese Style of Rule of Law in the Field of the Death Penalty Occidental Appearance and Japanese Practice.」	2019年11月8日	International Symposium on Social Governance and the Development of Rule-of-Law, Nanjing Normal University, China			
「Substantive Decision-Making in the Ghosn Case and the Traditional Approach to Public Prosecution in Japan: A World Perspective」	2019年12月14日	Asian Law and Society association(ALSA) 4th Annual Meeting, Osaka University, Japan			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所		
「犯罪・治安対策」	2018年5月7日・11日	人事院公務員研修所平成30年度 初任行政研修Aコース 政策課題研究：基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）	人事院公務員研修所（入間市）		
「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」	2019年12月23日	矯正研修所 任用研修課程 高等科研修 第51回	矯正研修所（昭島市）		
○その他					
（補助金・助成金等）					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金（日本学術振興会）	2016年4月～2021年3月	基盤研究S「超高齢社会における紛争経験と司法政策」 研究分担者			
（海外出張）					
用件	出張期間	出張先			
南京師範大学主催、国際シンポジウムで発表、同大学と西南政法大学にて、学部間の提携交渉し学生への説明会を実施した。	2019年11月7日～14日	南京師範大学、西南政法大学			
（雑誌・新聞記事等掲載）					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「元AV女優・森下くるみ×法社会学者・河合幹雄対談」第1回. 私の出演したAVは消せるのか? 文筆家・森下くるみが語る「契約書もなかった現役時代」	2019年5月24日	Business Journal			
「元AV女優・森下くるみ×法社会学者・河合幹雄対談」第2回. AV出演強要問題と新制度設計…文筆家・森下くるみが出演作品の販売停止申請をしたワケ」	2019年5月25日	Business Journal			

「元AV女優・森下くるみ×法社会学者・河合幹雄対談」第3回. AVにおけるエンタメ性とは…文筆家・森下くるみと考える「健全化されたあとのAV業界」	2019年5月26日	Business Journal
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」 「天皇即位時に罪人が減刑される悪しき制度」という誤解…恩赦という“救済装置”を考える」	2019年10月28日	Business Journal
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」 「恩赦こそが理想の刑罰である」実は日々運用されている「個別恩赦」の有効性と厳罰化」	2019年10月30日	Business Journal
「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」 「カジノ日本導入」に見え隠れする20兆円の巨大パチンコ産業…「外圧に負けて」のまやかし」	2019年12月19日	Business Journal
(その他特記事項)		
NHK BSプレミアム「ダークサイドミステリー[新]」 「迷宮入り連続殺人事件 切り裂きジャックの謎」にゲスト出演 (2019年4月4日)		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2012年5月1日～現在に至る	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2012年5月1日～現在に至る	日本法社会学会理事	
2005年10月～2014年10月	日本犯罪社会学会常任理事	
2007年4月1日～2009年3月31日	横浜刑務所視察委員会委員長代理	
2009年4月1日～2010年3月31日	横浜刑務所視察委員会委員長	
2006年4月3日～2014年3月	警察大学校嘱託教員	
2009年4月1日～2014年	日本学術会議特任連携委員	
2012年5月1日～現在に至る	全国篤志面接委員連盟評議員	
2012年5月1日～現在に至る	日本学術振興会 博士課程教育リーディングプログラム委員会専門委員	
2013年6月～現在に至る	日本被害者学会理事	
2017年10月～現在に至る	AV人権倫理機構理事	
2017年10月21日～現在に至る	日本犯罪社会学会理事	
2014年～2015年	日本学術振興会 特別研究員等審査会 専門委員	
2019年6月28日～現在に至る	公益財団法人矯正協会評議員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

韓 寧 (かん ねい) 教授



出生年 : 1974 (昭和49) 年
 在籍 : 2007 (平成19) 年4月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位 : 法学博士
 学位論文 : 中国における調停に関する理論及び実証的な検討—
 日・米法との比較の視点から
 専門分野 : 紛争処理法、比較法、中国法
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 : 群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研
 究科博士後期課程
 資格 : 中国弁護士
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
メディアーションロールプレイ	2019年～現在	法律演習のゼミでは、授業で習得した交渉とメディアーションの技法を学生に身につけるために、メディアーションのロールプレイを行っております。学生は自ら事例の紛争を処理することで、紛争処理のプロセスを体験し、紛争処理の能力を高めることができます。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
2019年度において、司法アクセス、電子訴訟、オーストラリアの調停制度等の課題について、取り組んでおりました。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「关于电子诉讼的几点思考」(中国語)	単著	2019年10月	中国法学会民事訴訟法研究会2019年年会論文集	中国法学会民事訴訟法研究会	55-61頁
Access to Justice in the Process of Social Governance (英語)	単著	2019年11月9日	Conference Proceedings of International Symposium on Social Governance and the Development of Rule-of-Law	Nanjing Normal University	35-47頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
Mediator Cultural Competence and Continuing Professional Development: Mediating Effectively with Chinese	2019年4月17日	2019 Australia National Mediation Conference (in Canberra)	
Access to Justice in the Process of Social Governance（口頭発表）	2019年11月9日	International Symposium on Social Governance and the Development of Rule-of-Law (in Nanjing)	
○その他			
（海外出張）			
用件	出張期間	出張先	
2019年オーストラリア国家調停大会参加	2019年4月12日～2019年4月20日	オーストラリア国家会議センター、オーストラリア国立大学	
中国法学会民事訴訟法研究会2019年大会参加	2019年10月9日～2019年10月15日	中国・南昌大学、中国江西省九江中級人民法院	
編入学試験、入試説明会、国際交流に関する協議	2019年11月7日～2019年11月14日	中国・南京師範大学、中国・西南政法大学	
（その他特記事項）			
<翻訳>河合幹雄「日本在死刑領域中的法制状況」、単訳、2019年11月9日、『社会治理与法治发展』国際シンポジウム論文集（南京師範大学）、603-610頁			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、中国民事訴訟法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年10月～2006年10月	中国研究所研究会員
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員
2018年6月～現在	中国民事訴訟法学会理事
2019年12月～現在	中国政法大学日本校友会副秘書長

竹内明世 (たけうち あきよ) 教授



出生年：1969（昭和44）年
在籍：1998（平成10）年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
学位：法学修士
学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
専門分野：商法、銀行取引法、民法
前職：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学内役職等：
留資格：
非常勤講師：明治学院大学法科大学院（2006年4月～9月）、横浜国立大学経済学部（2013年10月～2014年3月）、横浜国立大学経営学部（2014年4月～現在）

受賞・表彰：

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
「税理士にちょっと知っておいてほしい民法・商法・会社法」～改正についても解説～そもそも美しい法律とは？	2019年4月5日	東京地方税理士会横浜南支部	上大岡ウィリング横浜12階
模擬裁判劇「覚せい剤取締法違反被告事件（再犯）」	2019年12月9日	神奈川県社会保険労務士会横浜南支部	ホテル横浜ガーデン

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会

竹村典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957（昭和32）年
 在籍：1993（平成5）年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨（中央大学）
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長（2014～）
 留学：チュービンゲン大学（ドイツ）（2002年8月～2003年3月）
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞（2002年1月）

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開（いわゆるソクラテスマETHODを実践）することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2) 授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	1993年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる（横浜刑務所、府中刑務所、千葉刑務所、網走刑務所、美祿社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、愛光女子学園、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター）。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる（博物館網走監獄、月形権戸博物館、旧釧路集治監）。
(3) ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>2019年度は、新たな科研費研究「南北統合グローバル・グリーン犯罪学の生成と国際環境裁判所の創設に関する調査研究」に基づいて、第一に、ナイル川流域における水資源をめぐる紛争と協力、第二に、コンゴ民主共和国におけるコバルト採掘・取引における人権侵害・環境破壊・違法取引、の2つの調査研究を行った。</p> <p>第一に、「ナイル川流域国間における水資源をめぐる紛争と協力、および、エチオピアにおけるグラント・エチオピア・ルネサンス・ダム（GERD）の建設と水資源ヘゲモニーの変化」について調査研究を行った。ナイル川流域は水資源の慢性的な不足が重大な問題となり、気候変動がこれに拍車をかけている。過去十年における流域国の協力関係の構築の試みは失敗に終わり、再び水資源をめぐる紛争が激化しつつある。エチオピアが単独でGERD建設プロジェクトを進めた結果、下流のエジプトと上流のエチオピアとの政治的緊張が高まった。エジプトは過去に締結した条約の順守を、エチオピアは新しい地域関係を構築しようとしている。この問題を解決するためには、流域諸国が自国優先の利益ではなく水資源の共有を目指す持続可能な協力を発展させることが必要である。</p> <p>第二に、「コンゴ民主共和国におけるコバルト採掘をめぐるカオス状況、および、人権侵害・環境破壊・グローバルな違法取引による三幅対の奈落状況」について調査研究を行った。コンゴ民主共和国と国内・国外企業連合は、コバルト採掘において重大かつ構造的な人権侵害と環境破壊を惹起している。過去20年以上にわたって、紛争が繰り返され、天然資源の組織的な搾取が続いている。人々は採掘の奴隷的労働に従事することを余儀なくされ、武力集団は採掘から最大限の利益を得、反政府組織と軍隊は採掘場の統制を巡って争っている。コバルトの採掘と取引において、汚職と暴力が「暴力的強奪システム」に制度化されている。各国政府は、倫理にかなわない、人権侵害や環境破壊と無関係な生産・取引を行うように、各国企業に責任のある行動を求めなければならない。</p> <p>外部への発信として、アメリカ犯罪学会第75回大会（2019年11月13～16日、サンフランシスコ）で、研究成果の発表を行った（タイトル「Intensifying Natural Resource Conflicts, Climate Change, and Introducing International Environmental Court」）。新科研費研究テーマは今後さらに発展展開させる予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（著書）					
Current Problems of the penal Law and Criminology/ Aktuelle Probleme des Strafrechts und der Kriminologie Volume 8	共著	2019年12月	Wydawnictwo C. H. Beck	Emil W. Plywacewsky et al.	pp. 753-771
（学術論文）					
Astro-Green Criminology : A New Perspective against Space Capitalism : Outer Space Mining may make the Same Mistakes in Space as we have on Earth	単著	2019年6月	Toin University of Yokohama Research Bulletin, No.40	Noriyoshi Takemura	pp. 7-16
Drought and Flood (Climate Change) - Social-Ecological System Destabilization - Conflict -Nexus in East Africa: Climate Change-induced Environmental Degradation, Food Insecurity, Migration and Violence around Mt. Kilimanjaro	単著	2019年12月	Toin University of Yokohama Research Bulletin, No.41	Noriyoshi Takemura	pp. 5-12

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
南北統合グローバル・グリーン犯罪学の生成と国際環境裁判所の創設に関する調査研究 (研究代表者)	2019年4月～2023年3月	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)
用件	出張期間	出張先
アメリカ犯罪学会第75回年次大会での発表	2019年11月12日～18日	サンフランシスコ・マリオット・ホテル (アメリカ合衆国)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 教授



出生年 : 1974 (昭和49) 年
 在籍 : 2005 (平成17) 年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位 : 修士 (法学)
 学位論文 : 抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限
 専門分野 : 刑法
 前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 : 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
刑法 I・II	2007年～現在	講義用レジュメの作成および授業での活用 双方向授業の実践 スマート・キャンパスの活用
社会科学特別講義III	2015年～現在	テーマについて学生の理解を促進させるためのパ ワーポイントや映像教材の活用 スマート・キャンパスの活用

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
1. 「美容師法における『美容の業』と『無免許営業罪』の検討」を桐蔭論叢42号 (7～16頁) に発表した。 2. 引き続き、故意と錯誤およびこれに関連する問題点についても研究し、さらに発展させていきたい。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 教授



出生年 : 1972 (昭和47) 年
 在籍 : 2004 (平成18) 年4月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位 : 博士 (法学) (慶應義塾大学)
 学位論文 : 占領期司法改革における法継受とA・C・オプラー
 専門分野 : 日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職 : 桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 学内役職等 : 法学研究科専攻長 (2016～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 : 慶應義塾大学法学部
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『團藤重光研究——法思想・立法論、最高裁判事時代』昭和28年刑事訴訟法改正と團藤重光 (第7章)	共著	2020年2月29日	日本評論社	福島至編	152-174頁
(学術論文)					
「戦後体制」のなかの沖縄——1950～60年代の刑事裁判権をめぐる問題から	単著	2019年9月25日	『桐蔭法学』26巻1号		109-133頁
「戦後憲法学」と憲法学史研究——「憲法学説」の射程	単著	2020年3月1日	『法律時報』92巻3号		98-100頁
司法制度改革審議会を「歴史化」する——「戦後体制」と司法制度改革	単著	2020年3月10日	『法社会学』86号		120-131頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
司法制度改革審議会を「歴史化」する——「戦後体制」と司法制度改革	2019年5月12日	法社会学会2019年度学術大会 (千葉大学西千葉キャンパス)	出口雄一		
Reception and transformation of the German Criminal Jurisprudence in Japan: Continuity and the “Japanese Character” before and after World War II	2019年11月20～21日	Max Planck Institute for European Legal History (Frankfurt am Main, Germany)	出口雄一		

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金基盤研究(C)：「戦後体制」の形成過程に関する近現代法史の観点からの実証的再検討	2017年4月～2020年3月	日本学術振興会
研究助成金：戦前期の司法部の人的構成と山岡萬之助	2018年4月～2021年3月	一般財団法人山岡記念文化財団

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、日本法社会学会、日本法哲学学会、公法学会、同時代史学会、占領・戦後史研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年12月～2019年12月	占領・戦後史研究会事務局
2013年4月～現在	法文化学会理事
2018年6月～2020年9月	法制史学会事務局
2019年12月～現在	占領・戦後史研究会代表
2020年7月～現在	法制史学会理事

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年 : 1955 (昭和30) 年
 在籍 : 1993 (平成5) 年4月～
 最終学歴 : 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 :
 専門分野 : 政治思想史
 前職 : 長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等 : 法律学科学科長 (2016～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4. その他教育活動上特記すべき事項		
(1) 「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直す内容。近代のアカデミズム一般が前提する「中性的な人間」ではなく、リアルな「性的存在としての人間」が作る現実について学修するという意味で、稀少な機会を提供している。
(2) 「比較政治制度論Ⅰ」を担当	2017年4月～現在	社会科学としての法律学を学修するには、自分がどのような歴史の終点に立っているかという歴史認識が不可欠である。そのような認識を個々の学生が形成するために、人類の誕生から定住・農耕社会の形成と権力の始まり、農業革命・産業革命を経た主権国家および国民国家の形成、資本主義の変遷とそれを支える社会諸制度の形成と変遷などを、「くに」とは何かという視点から学修する科目である。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
2018年度から着手し、シンポジウムなどで口頭発表してきたテーマである「産み」および「自己所有」に関わる問題を、論文の形にまとめ、刊行した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「フェミニズムと自己所有」『ジェンダー・暴力・権力』所収	単著	2020年2月20日	晃洋書房	鳴子博子	147-164頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
中村敏子報告「女性差別思想的前提：西欧と日本」コメンテーター	2019年6月2日	中央大学経済研究所公開研究会 中央大学駿河台記念館			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本政治学会、政治思想学会、日仏女性研究学会

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出 生 年 : 1958 (昭和33) 年
 在 籍 : 1997 (平成9)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
 学 位 : 法学博士
 学 位 論 文 : J. S. ミルの自由主義思想
 専 門 分 野 : 欧州政治思想史
 前 職 : 立教大学文学部非常勤講師
 学 内 役 職 等 : 法学部長 (2020～)
 留 学 : ドイツ・チュービンゲン大学 (2000年9月～2001年3月)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
19世紀イギリスでのAgnosticismを軸に、科学と宗教との関係性について。・・・現在、科学と宗教は対極にあるものと考えられがちだが、科学革命の時代に両者は密接な関係を有し、その関係は19世紀終わりまで続いていた。このことをハクスレー、スペンサーなどの議論を通じて検討した。そしてこのことは、同時期の明治日本での宗教と科学との関係にも直接に影響を及ぼしている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
沖縄、複相性、グローバル化	単著	2019年9月	桐蔭法学26(1)		135-161頁

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出生年 : 1961 (昭和36) 年
在籍 : 2003 (平成15) 年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学

学位 : 法学修士
学位論文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
専門分野 : 憲法
前職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
学内役職等 :
留学 : ドイツ チュービンゲン大学 (2008年9月～2009年3月)

資格 :
非常勤講師 : 中央大学経済学部、国立音楽大学
受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
憲法裁判制度、とくにドイツおよびオーストリアにおける抽象的憲法裁判制度の研究を行なった。 日本国憲法における国民主権。民主主義の研究を行なった。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、青森法学会、ドイツ憲法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～	ドイツ憲法判例研究会運営委員

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出生年 : 1956 (昭和31) 年
 在籍 : 2009 (平成21) 年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程教育研究科社会科コース修了

学位 : 教育学修士 (筑波大学)
 学位論文 :
 専門分野 : 教科教育学 (社会科教育・公民教育)
 前職 : 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部
 総括研究官

学内役職等
 留学 :
 資格 : 中学校教諭一級普通免許状 (社会)、高等学校教諭一級普通免許状 (社会)

非常勤講師 : 東京学芸大学、東洋英和女学院大学
 受賞・表彰 : 日本教育研究連合会表彰 (2010年12月)

I 教育活動

2. 作成した教科書、教材、参考書		
「小学社会」(日本文教出版)	2020年4月より供給中	
「中学社会」(日本文教出版)	2016年4月より供給中	
「高等学校 現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給中	執筆者代表
「高等学校 新現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給中	執筆者代表
「高等学校 政治・経済」(第一学習社)	2013年4月より供給中	

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
科学研究費補助金基盤研究 (B) 「新科目「公共」を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究」のまとめをおこなった。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
新科目「公共」を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究研究成果報告書	共著	2020年3月		谷田部玲生	130頁
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
新科目「公共」を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究	2017年3月～2020年3月	科学研究費補助金 基盤研究 (B)			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1998年4月～現在	日本社会科教育学会常任委員	
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員	
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事	
2014年4月～現在	中等社会科教育学会理事	
2018年4月～現在	日本公民教育学会事務局	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
教科書研究センター調査研究企画委員会委員	2014年4月～現在	公益財団法人教科書研究センター
品川区立学校校区教育協働委員会委員長	2011年4月～現在	品川区教育委員会

秋 田 知 子 (あきた ともこ) 准教授



出生年 : 1973 (昭和48) 年
 在籍 : 2005 (平成17) 年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 : 文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
 専門分野 : 民事法
 前職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) 裁判法 I	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(4) 民事訴訟法	2014年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(5) 民事執行保全法	2015年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
権利保護保険が発売された当時の状況から現在の状況までをシンポジウムで報告をした。今後は権利保護保険を巡って、依頼者と受任弁護士間や協定保険会社と受任弁護士間で紛争が生じた場合にどのように処理していくのか、2018年1月に開始した弁護士保険ADRを含めて、検討していきたい。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

高瀬 武志 (たかせ たけし) 准教授



出生年 : 1986(昭和61)年
 在籍 : 2014(平成26)年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了
 学位 : 体育学修士
 学位論文 : 武士道思想における死生観に関する研究
 専門分野 : 武道学・日本思想史・死生学・剣道
 前職 : 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助手
 学内役職等 : 大学剣道部監督・高校男子剣道部コーチ・法学部体育科主任・学務部委員・スポーツ施設委員・学生部委員・地域連携生涯学習センター委員・おもしろ理科実験教室委員・桐蔭学園もえぎの寮管理人
 留資格 :
 留資格 : 剣道錬士六段・中学校・高等学校教諭専修免許(保健体育)
 非常勤講師 : 東京都市大学・文教大学
 受賞・表彰 : 神奈川県スポーツ優秀選手表彰・神奈川文化賞スポーツ賞・筑波大学体育専門学群長賞・桐蔭横浜大学法学部エクセレントティーチャー賞(2016・2020)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
体育実技科目におけるアクティブ・ラーニングの導入と三者共学システムの構築	2017年～	体育実技(剣道)におけるアクティブ・ラーニング型授業を行い、経験者、未経験者、教員の三者共学システムの構築
剣道形の授業におけるAL型授業	2018年～	剣道形の授業におけるAL型授業として、タブレット端末を使用して、授業を実践、創作課題を通して、魅力ある授業作りを学生と模索している。
視聴覚教材を活用した授業実践	2018年～	日本人の生活や思想を形成する事柄についての視聴覚教材を活用し、学生の興味関心を保持しつつ、知識の獲得とレポート作成を通じて思考のまとめと文章化する訓練を通じて、インプット、アウトプット、自分の生活、将来へのトランジションを考察する。
剣道の授業におけるICT教育の展開	2018年～	ビデオカメラ等のICT機器を活用して、授業内で撮影し視聴することによって、グループワークの活性化と議論の深化をはかっている。
剣道の授業におけるモバイルラーニングの実践	2019年～	モバイルラーニングを実践し、授業内における学生の理解を促し、興味・関心・探求心を持たせるような工夫を施している。また、予習復習をやり易くする工夫もしている。

2. 作成した教科書、教材、参考書		
武道概論－現代武道とその周辺－	2019年	現代武道に関する内容を俯瞰的に解説したテキスト
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
私情協 教育イノベーション大会 発表	2019年	武道教育におけるアクティブラーニングの模索－剣道形におけるICT活用の事例－として実践報告を行った。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>武士道思想における死生観について文献学的手法を用いて研究をすすめている。 剣道指導について実践的経験的手法において研究をすすめている。 体育実技科目におけるアクティブ・ラーニングの導入と三者共学（経験者・未経験者・教員）システムの構築へむけた研究をすすめている。 地域連携型教育としてサービスマーケティングを取り入れた課外活動における教育法の研究をすすめている。 被災地支援を通じた学生における意識調査や指導体験を通じた人間教育への研究もすすめている。 体育実技科目の授業におけるタブレット端末を活用してのアクティブラーニング型授業の推進。 地域や教育委員会など学外組織との連携による学生への「深い学び」の環境、システム構築。 武道、武士道に関する教材開発と研究。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（著書）					
武道概論－現代武道とその周辺－	単著	2019年	三恵社		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
私情協 教育イノベーション大会	2019年9月	私立大学情報教育協会	高瀬武志		

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
全日本学生剣道選手権大会	2019年7月	大阪府	男子個人戦出場（二神）
全日本学生剣道オープン大会	2019年12月	宮城県	男子二段以下の部準優勝（岸）

中野 邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年 : 1976 (昭和51) 年
 在籍 : 2005 (平成17) 年4月～
 最終学歴 : 名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 : 行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野 : 民法
 前職 :
 学内役職等 :
 留資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) ソクラテスメソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。
(2) レジュメ・レポートの指導	2005年度～2013年度、2019年度～	担当するゼミの報告前に、授業時間外で(毎週10時間程)、報告する学生一人一人に対し、個別にレジュメの作成方法、教科書の読み方、まとめ方等を指導している。 2019年度は、民法Ⅲにおいても、レポート提出者1人1人に対して添削・コメント等を付した。
(3) プレゼンの実施とプレ検対策	2019年度～	汎用的能力(とくにコミュニケーションスキル・プレゼン能力に重点を置き)の育成のために、2年次の名著において、PPTを利用したプレゼンを行うとともに、プレ検準2級の対策指導を行っている。
(4) ディベート	2019年度～	学士力育成のために(とくに論理的思考力・問題解決力・情報リテラシーに焦点をあて)、調査編として事前にテーマにつき報告したうえで、討論編として、2コマ連続でディベートを行った。肯定・否定・審判とに分かれ、それぞれの立場から(留学生をも含む)、多様な価値感・考え方にに基づき議論を行った。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 民法入門・総則	2005年度～	全120頁からなる民法入門と総則のレジュメ。
(2) 債権総論	2005年度～	全110頁からなる債権総論のレジュメ。
(3) 契約	2008年度～	全90頁からなる契約法のレジュメ。
(4) 事務管理・不当利得・不法行為	2011年度～	全100頁からなる事務管理・不当利得・不法行為のレジュメ。

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「新たな法学部教育に向けて」	2020年3月	学園新聞120号
4. その他教育活動上特記すべき事項		
(1) 学校と仕事・社会をつなぐ「トランジション」の学びフォーラムへの参加	2019年8月4日	同日開催された「探求・ALのための集団作り」と「『学習法』を作る役割と『続けられるルーブリックを用いた評価』に参加するとともに、基調講演を拝聴した。
(2) SPOD - 四国地区大学教職員能力開発ネットワークへの参加	2019年8月27日～28日	SPODにて行われた3つのセッションに参加した。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>・メディアミックス教材の開発 2019年度の私法学会拡大ワークショップにて報告したように、①動画、②PPT、③教科書等を連動させた複数媒体を用いた教材開発を民間の判例データベース会社と協力して行っている。</p> <p>・以上の他に、私法体系の再編に向けた基礎的研究を継続しているほか、非営利団体制度についての研究と担保法制に関する研究を行っている。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『プロセス講義民法Ⅰ 民法総則』	共著	2020年3月	信山社	後藤卷則＝滝沢昌彦＝片山直也編	「第7章 権利能力なき社団および法人格否認の法理」95-116頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「法学教育とメディアミックス教材の活用」	2019年10月6日	第82回私法学会・拡大ワークショップ（於：立教大学）	加藤雅信・花本広志・中野邦保・吉永一行「法学教育改革と“楽しめる”動画教材開発」		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本法哲学会

長 濱 博 文 (ながはま ひろふみ) 准教授



出 生 年 : 1967 (昭和42) 年
 在 籍 : 2017 (平成29) 年4月～
 最 終 学 歴 : 九州大学大学院人間環境学府発達社会システム専攻博士後期課程修了
 学 位 : 博士 (教育学)
 学 位 論 文 : 「フィリピンの統合科目における価値教育に関する研究」 (博士論文)
 専 門 分 野 : 比較国際教育学、教職論、ユネスコ価値教育
 前 職 : 目白大学人間学部子ども学科准教授
 学 内 役 職 等 : 教職センター委員、教職課程委員、桐蔭論叢編集委員、入試広報委員、入試問題作成委員
 留 学 : サンディエゴ州立大学大学院 (米国) (2009年12月～2010年12月)
 資 格 : (剣道 三段)
 (書道 四段)
 非 常 勤 講 師 : 創価大学教育学部
 受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本比較教育学会、日本国際理解教育学会、日本道徳教育学会、日本グローバル教育学会、ホリスティック教育協会、日本カリキュラム学会、日本道徳教育方法学会、大学教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015年4月～	日本グローバル教育学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
釜石市諸学校における「いのちの教育」の授業実践の参与観察	2018年3月～	釜石市教育委員会

茂木 洋平 (もぎ ようへい) 准教授



出生年 : 1981年10月
 在籍 : 2012年4月～
 最終学歴 : 東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位 : 博士 (法学)
 学位論文 : Affirmative Actionの正当化法理 ～アメリカの判例と学説を中心に～
 専門分野 : 公法
 前職 : 熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科助教
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 : 横浜市立大学 (2013年4月～2018年3月)
 関東学院大学法科大学院 (2016年4月～2019年3月)
 受賞・表彰 : 東北大学男女共同参画奨励賞 (沢柳賞) 研究部門 (2010. 12)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
辺野古新基地移設問題に関わる行政法上の問題点、行政上の義務の司法的執行に係わる問題点、行政主体間の争訟の「法律上の争訟」該当性の問題、行政上の義務の司法的執行に関する法的問題について検討し、成果を公表した。また、Affirmative Actionの憲法上の問題点につき、一連の成果を公表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「厳格審査の変遷-敬讓型の厳格審査とAA」『憲法の普遍性と歴史性』(辻村みよ子先生古稀記念)	共著	2019年8月	日本評論社	佐々木弘通・只野雅人・中林暁生編	
(学術論文)					
行政主体間の争訟の「法律上の争訟」該当性	単著	2019年9月	桐蔭法学26巻1号		1-52頁
国と地方公共団体の争訟：那覇地判平成30年3月13日判決の考察	単著	2019年9月	桐蔭法学26巻1号		85 - 108頁
Affirmative Actionの対象者	単著	2020年3月	桐蔭法学26巻2号		1-57頁
行政上の義務の司法的執行をめぐる法的問題点	単著	2020年3月	桐蔭法学26巻2号		77-125頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本公法学会、憲法理論研究会、全国憲法研究会、日米法学会、東北大学公法判例研究会

青木 仁美 (あおき ひとみ) 専任講師



出生年 : 1980年 (昭和55年)
 在籍 : 2019 (令和元年) ~
 最終学歴 : 早稲田大学大学院法学研究科博士課程修了
 学位 : 博士 (法学)
 学位論文 : 「オーストリアにおける成年後見法制の研究 ―日本およびドイツの法制度との比較のもとで―」 (博士論文)
 専門分野 : 民法
 前職 : 日本学術振興会特別研究員 (RPD)
 学内役職等 :
 留学 : インスブルック大学 (オーストリア) (2007年10月~2009年6月、オーストリア政府給費留学生)
 資格 : Österreichisches Sprachdiplom (オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験) C1
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 第17回尾中郁夫・家族法新人奨励賞 (2016年5月)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
2019年度は、「成年者の法的保護の多様化に関する研究」(科学研究費・若手(B))に基づいて、オーストリアの成年者保護法に関する研究を行った。成果を論文として桐蔭法学に公表した(「代理から援助へーオーストリアの法改正からの一考察(1)」桐蔭法学26(1)、「代理から援助へーオーストリアの法改正からの一考察(2)」同(2))。また、桐蔭法学研究会において、研究発表を行った(「援助から代理へーオーストリア成年者保護法からの一考察」)。					
2020年2月に、インスブルック大学に研究出張を行った。同大学で開催された国際会議「オーストリアとドイツにおける国連障害者権利条約の実現」に参加し、改正法施行後のオーストリアおよびドイツが有する問題意識を把握し、資料収集を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
代理から援助へーオーストリア法改正からの一考察(1)		2019年9月	桐蔭法学第26巻第1号	青木 仁美	53-81頁
代理から援助へーオーストリア法改正からの一考察(2・完)		2020年3月	桐蔭法学第26巻第2号	青木 仁美	59-75頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
代理から援助へーオーストリア成年者保護法からの一考察一	2019年6月27日	桐蔭法学研究会	青木 仁美		

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「成年者の法的保護の多様化に関する研究」研究代表者	2015年4月～2020年3月	科学研究費（若手研究（B））
「比較法研究による後見制度改革に関する具体的提言、特に現行制度の権利条約への対応」研究分担者	2019年4月～2022年3月	科学研究費（基盤研究（C））
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
「特別研究員奨励費」および「科学研究費（若手研究（B））」に基づく研究活動	2019年2月1日～2月28日	ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）
国際会議「オーストリアとドイツにおける国連障害者権利条約の実現」	2020年2月9日～2月15日	インスブルック大学（オーストリア）

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、比較法学会、日本成年後見法学会

箭野章五郎 (やの しょうごろう) 専任講師



出生年 : 1967 (昭和42) 年
 在籍 : 2015年4月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程修了
 学位 : 博士 (法学)
 学位論文 : 「刑事責任能力の研究」
 専門分野 : 刑事法
 前職 : 獨協大学法科大学院特任助教
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 : 明治学院大学法学部、中央大学法学部
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
刑事責任能力についての研究を継続して行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「解離性同一性障害と責任能力——解離性同一性障害の影響により心神耗弱が認められた事例——」 (判批)	単著	2020年2月20日	刑事法ジャーナル63号		107-113頁
「刑事責任能力について——その意義と判断——」	単著	2020年3月1日	「法と精神医療」34号		19-39頁
○その他					
(その他特記事項)					
2019年度【第2回】総合起案演習 刑事系 I (刑法) 問題作成と解説 中央大学エクステンションセンター法職事務室発行					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日本犯罪社会学会、法と精神医療学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2017年4月～現在	日本医科大学多摩永山病院倫理委員会 倫理委員

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年 : 1974 (昭和49) 年
 在籍 : 2001 (平成13) 年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
 学位 : 法学修士
 学位論文 : 若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的な前提
 専門分野 : ヨーロッパ近代法史
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 : チュービンゲン大学 (ドイツ) (2004年7月～2005年3月)
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
ドイツ・プロイセンの法典であるプロイセン一般ラント法 (1794) の成立に至るまでと成立後 (19世紀末に一般法として姿を消す前のポリツァイ法の時代まで) を分けた上で、ポリツァイ法と各州の事情 (ポリツァイ法の施行と実際の貧民層への影響) を調べ、その影響を一般ラント法も受けているのではないかと考え研究を進めてきた。従前の研究を続けるとともに、福祉政策の視点も加えプロイセン一般ラント法の成立前後の変化について研究していきたい。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(口頭発表) 『晩年の村上淳一氏のこと』	2019年3月30日	独法学会主催ミニシンポジウム 『村上淳一氏 (1933-2017) の学問をめぐって』	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日独法学会、青森法学会

大 辻 康 太 (おおつじ こうた) 助教



出生年 : 1990(平成2)年8月4日
 在籍 : 2019(平成31)年4月～
 最終学歴 : 横浜国立大学教育学研究科博士前期課程修了
 学位 : 教育学修士
 学位論文 : 柔道指導者講習会の受講が安全管理に与える影響 -脳震盪に着目して-
 専門分野 : スポーツマネジメント
 前職 : 日本エースサポート株式会社
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 講道館柔道4段
 非常勤講師 : 電気通信大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
4. その他教育活動上特記すべき事項		
地域貢献活動として、近隣の道場を対象とした柔道教室を開催	2019	桐蔭横浜大学の柔道場において、約30名ほどの小学生を対象に柔道教室を開催。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
大学柔道を経営学の視点で捉え、効率的かつ効果的な強化方法について調査を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本武道学会、コーチング学会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
柔道全日本選手権	2019年4月	日本武道館	出場
全日本柔道連盟柔道教室	2019年8月～ 2020年2月	神奈川県、千葉県、 愛知県、愛媛県	小・中・高校生を対象に 柔道指導

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

小寺 洋 (こでら よう) 教授



出生年 : 1962 (昭和37) 年
在籍 : 1988 (昭和63) 年4月～
最終学歴 : 東京工業大学理学部
学位 : 理学博士
学位論文 : Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
専門分野 : 生物化学、タンパク質工学
前職 :
学内役職等 : 研究推進部部長 (2014～2018)
研究推進部副部長 (～2011)
工学研究科医用工学専攻長 (2019)
留資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「Epistatic interaction between Fcgr2b and slam family genes in susceptibility to the defective peripheral immune tolerance and autoimmunity.」	2019年12月11日	The 48th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Hamamatsu, Japan	Hiroyuki Nishimura, Noriko Iida, Mareki Ohtsuji, Yo Kodera, Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, J. Sjef Verbeek, Sachiko Hirose

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

齋 藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年 : 1956 (昭和31) 年
 在籍 : 1990 (平成2) 年3月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程
 学位 : 理学博士、学術修士 (環境)
 学位論文 : Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野 : 有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職 : 通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員 (非常勤)
 学内役職等 : 学生部長 (2010 ～ 2013)
 留学 :
 資格 : (社) ネイチャーゲーム協会初級指導員
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 松籟科学技術振興財団研究助成 (1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金 (2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞 (2002)、(公益社団法人) 日本化学会 化学教育賞 (2015)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
I. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返して学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I, II, および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I, II, において、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレインストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかだいについての小論文をまとめるための演習としてブレインストーミングを実施した 地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と 継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に授与された。
文部省サイエンス・ボランティア (現文部科学省)、(社) 日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁子どもエコクラブ (現環境省) の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及及行事の企画、実施を委員として 行っている。
(8) 公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012年～現在	(7) の活動を継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

2. 作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1, 2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I, II、生命医工学科有機化学I, II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理 科教室テキスト」、「ミニ地球をつくろう」などの資料を作成し、配布した。
生命医工学科用の有機化学基礎、有機化学I, II, 高分子化学(生体高分子)	2010年～現在	臨床検査技師を目指す学生や生命科学志向の学生向けの内容に全面改定した教科書を作成して配布している。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4. その他教育活動上特記すべき事項		
公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020年	本学の学生を出前実験教室のTAとしての活動に参加させて、その活動に対する日本化学会会長からの感謝状の授与が継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
研究室に所属する臨床検査技師を目指す学生、院生、および国家資格取得後進学した院生に対する研究テーマとして、生理活性物質や活性酸素についての従来のテーマに加えて、黄色ブドウ球菌に対する光発育抑制効果についての化学的アプローチによる機構解明に関する研究を行い、BME、日本化学会などの学会で発表した。また、臨床検査技師を目指す学科学生の為の有機、高分子系の基礎教育の内容についても研究的に取り組んでいる。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(国際学会発表)			
Relationship between pigment production and photoinactivation in <i>Staphylococcus aureus</i>	2019年11月16日	The 14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering.	Tomoya NISHIMURA and Kiyoshi SAITO
(国内学会発表)			
<i>Staphylococcus aureus</i> が産生するカロテノイド色素と光発育抑制現象との関係IV	2019年10月16日	第9回CSJ化学フェスタ2019	西村知泰・齋藤 潔・蓮沼裕也
Research on correlation between the carotenoid pigments produced by <i>Staphylococcus aureus</i> and the bacterial photoinactivation phenomenon (III)	2019年3月17日	日本化学会第99春季年会	NISHIMURA, Tomoya; HASUNUMA, Yuya; SAITO, Kiyoshi

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～現在	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～現在	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2011年4月～現在	公益社団法人日本化学会教育・普及部門 普及交流委員会 委員	
2011年4月～現在	公益社団法人日本化学会教育・普及部門 普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
はまぎん子ども宇宙科学館 「水性サインペンのヒミツ？」(遊びも含むクロマトグラフィーの実験)	2019年4月22日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
科学技術館 わくわく実験教室！消えるインクのなぞ？3連発！！	2019年8月2日～4日	公益社団法人日本化学会 令和元年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
南相馬市立中央図書館 わくわく実験教室！ UV？ってなんだ？光らせたりかためたり ふしぎな実験をやってみよう！	2019年8月6日～8日	公益社団法人日本化学会 令和元年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
はまぎん子ども宇宙科学館 夏休み特別企画 色が変わるカレー焼きそばのひみつ！	2019年8月14日、15日	公益社団法人日本化学会 令和元年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
東日暮里ふれあい館、西日暮里ふれあい館 わくわく実験教室！消えるインクのなぞ？3連発！！	2019年8月19日	公益社団法人日本化学会 令和元年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
小松川小学校 わくわく実験教室！消えるインクのなぞ？3連発！！	2019年8月26日	公益社団法人日本化学会 令和元年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))
化学の日関連 はまぎん子ども宇宙科学館 わくわく実験教室！消えるインクのなぞ？3連発！！	2019年10月20日	公益社団法人日本化学会 令和元年度 科研費 研究成果公開促進費(研究成果公開発表(B))

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 教授



出生年 : 1965 (昭和40) 年
在籍 : 2001 (平成13) 年4月～
最終学歴 : 東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
学位 : 博士 (工学)
学位論文 : 界面活性剤水溶液による香料の可溶化
専門分野 : コロイド・界面化学、生体材料工学、光治療工学、薬物送達学
前職 : エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
学内役職等 : 医用工学部 生命医工学科 学科長 / 入試・広報センターセンター長

留資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 : 平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」

2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」

第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」

2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」

SPACC-17 Poster Award, "Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells"

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Presents Poster Session Award, "Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells"

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
①コロイド・界面化学分野 癌の光線力学的療法で利用する光増感剤の新たな送達システム構築を目的に、生体安全性の高いプルロニック系界面活性剤へのプロトポルフィリンIXの可溶化について検討を開始した。今後は、可溶化系を用いて殺癌細胞効果について検討する予定である。					
②生体材料工学分野 マイクロ波オゾン-UV法による新たなガス滅菌装置の開発を検討した。その結果、ガス滅菌の指標となる芽胞菌に対して高い殺菌効力を示すことがわかった。この結果を、日本生体医工学会をはじめ多くの学会で発表した。今後は、生体材料の殺菌への応用を検討する予定である。					
③光治療工学分野 光線力学的療法に変わる新たな癌治療法である超音波力学的療法について、基礎研究を開始した。すなわち、超音波照射の際に、効果的に活性酸素種を生成するための促進剤について検討した。その結果、エチル硫酸ナトリウム塩が超音波照射下において活性酸素種の生成を助長することが明らかとなった。得られた成果は、日本音響学会をはじめ、多くの学会で発表した。					
④薬物送達学分野 インスリンなどの高分子製剤を経皮的に投与するための新たな経皮吸収促進剤について検討している。種々のタンパク分解酵素を経皮吸収促進剤として用いて、モデル薬物として分子量4000の蛍光標識デキストリンを用いて、経皮吸収を行ったところ、トリプシンを併用することによって、デキストリンの経皮吸収が大幅に向上することが明らかとなった。今後は、他のタンパク分解酵素についても同様に検討するとともに、美容皮膚科学の分野で注目されているヒアルロン酸の経皮吸収への応用を予定している。					
⑤その他 キウイフルーツ、古代米およびカカオ豆抽出液のメラニン色素産生抑制効果について検討した。その結果、グリーンキウイおよび黒米抽出液に高いチロシナーゼ活性阻害効果が認められた。キウイフルーツを用いて研究成果を日本油化学会で発表し、化粧品メーカーから大変注目された。今後は、抽出液中の成分を分画し、チロシナーゼ活性阻害成分について同定する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Skin permeation of 5-aminolevulinic acid encapsulated in liposomes	共著	2019年	桐蔭論叢 (Toin University of Yokohama, Research Bulletin), 41	Hayashizaki Reina and Tokuoka Yoshikazu	57-61
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「神奈川県内中小規模病院から分離されたESBL産生大腸菌ST131のクレート」	2019年5月19日	第68回日本医学検査学会(下関市民会館・シーモールパレス / 山口県下関市)	新国駿, 蓮沼裕也, 天野紗希, B. エンフジン, 徳岡由一		
マイクロ波プラズマを用いた UV オゾン発生装置による殺菌能力の評価	2019年6月1日	第58回日本生体医工学会大会	楠元直樹, 平岡茂美, 川島徳道, 渡部篤也, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
「Staphylococcus aureusの色素産生能と白色LED光照射による発育抑制効果との関係性」	2019年9月19日	第29回日本光線力学学会学術講演会(ホテルグランドヒル市ヶ谷 / 東京都新宿区)	バタジャルガル エンフジン, 蓮沼裕也, 徳岡由一		
音響キャビテーションによるヒドロキシラジカルの生成に及ぼす界面活性剤の添加効果III	2019年9月1日	日本音響学会2019年秋季研究発表会	松本大志, 徳岡由一		
キウイフルーツ抽出液によるメラニン産生阻害	2019年9月1日	日本油化学会第58回年会	伊東知南, 山口智子, 徳岡由一		
音響キャビテーションによるヒドロキシラジカルの生成に及ぼす酸化チタンの添加効果	2019年9月1日	日本油化学会第58回年会	松本大志, 池上和志, 徳岡由一		

「市販鶏肉由来および神奈川県内臨床分離ESBL産生Escherichia coli におけるfloR遺伝子の保有状況」	2019年10月18日	第66回日本化学療法学会東日本支部総会(仙台国際センター/宮城県仙台市)	小林 美里, 蓮沼 裕也, 徳岡 由一
「神奈川県内で臨床分離されたqnrS遺伝子保有ESBL産生Escherichia coli株の分子生物学的特徴」	2019年10月18日	第66回日本化学療法学会東日本支部総会(仙台国際センター)	蓮沼 裕也, 徳岡 由一
音響キャビテーションによるヒドロキシラジカルの生成に及ぼす酸化チタンの添加効果II	2019年11月1日	2019年度第28回ソノケミストリー討論会	松本大志, 河野弥佑, 池上和志, 徳岡由一
「健康青年における広域セファロsporin耐性腸内細菌科の保菌率推移と分子疫学的特徴」	2019年11月28日	第40回 日本食品微生物学会学術総会(タワーホール船堀)	東 希実, 蓮沼裕也, 徳岡由一
「マイクロ波プラズマを用いた紫外線-オゾン発生装置による殺菌効果の評価」	2020年2月1日	第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会(石川県立音楽堂 他)	渡部篤也, 蓮沼裕也, 楠元直樹, 平岡茂美, 川島徳道, 徳岡由一
「High-throughput sequencingによるAmpliseqを用いたβ-lactamase遺伝子の網羅的解析」	2020年2月2日	第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会(石川県立音楽堂 他)	蓮沼裕也, 新国駿, 徳岡由一
「マイクロ波プラズマを用いた紫外線-オゾン発生装置による殺菌効果の評価」	2020年2月15日	第35回日本環境感染学会総会・学術集会(パシフィコ横浜)	渡部篤也, 蓮沼裕也, 楠元直樹, 徳岡由一

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会、日本臨床微生物学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
平成8年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
平成13年4月～現在に至る	「材料技術研究協会討論会」運営委員
平成14年4月～現在に至る	材料技術研究協会審議委員
平成15年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会幹事
平成19年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
平成20年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員
平成20年4月～現在に至る	色材協会関東支部審議委員

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年 : 1955 (昭和30) 年
 在籍 : 1994 (平成6) 年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野 : 分子生物学、免疫工学
 前職 : 順天堂大学医学部助教授
 学内役職等 : 工学研究科長 (2014～)
 留学 : Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 資格 :
 非常勤講師 : 順天堂大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) 英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学 I」および「分子生物学 II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文 (A4版1枚相当) を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2) 演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（総説・論説）					
「Monocyte subsets involved in the development of systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis」		2019年4月11日		Sachiko Hirose, Qingshun Lin, Mareki Ohtsuji, Hiroyuki Nishimura, J. Sjef Verbeek	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「Anti-CD11b antibody treatment suppresses the osteoclast generation, inflammatory cell infiltration, and autoantibody production in arthritis-prone Fc γ RIIB-deficient mice.」	2019年4月15日	The 63st Annual General Assembly and Scientific Meeting of the Japan College Rheumatology, Kyoto, Japan	OHTSUJI Mareki, AMANO Hirofumi, OKAZAKI Hieki, NISHIMURA Hiroyuki, HIROSE Sachiko		
「Anti-CD11b antibody treatment suppresses the disease conditions in rheumatoid arthritis (RA)-prone, Fc γ RIIB-deficient mice」	2019年5月9日	IMMUNOLOGY 2019, SAN DIEGO CONVENTION CENTER	Kazuko Takahashi, Mareki Ohtsuji, Qingshun Lin, Hideki Okazaki, Hirofumi Amano, Hideo Yagita, Hiroyuki Nishimura, Sachiko Hirose		
「Contribution of monocyte subsets in autoimmune diseases.」	2019年12月11日	The 48th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Hamamatsu, Japan	Mareki Ohtsuji, Qingshun Lin, Hidehiro Fukuyama, Hirofumi Amano, Hiroyuki Nishimura, J. Sjef Verbeek, Sachiko Hirose		
「Epistatic interaction between Fcgr2b and slam family genes in susceptibility to the defective peripheral immune tolerance and autoimmunity.」	2019年12月11日	The 48th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Hamamatsu, Japan	Hiroyuki Nishimura, Noriko Iida, Mareki Ohtsuji, Yo Koderu, Toshiyuki Takai, Katsuko Sudo, J. Sjef Verbeek, Sachiko Hirose		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年 : 1957 (昭和32) 年
 在籍 : 2004 (平成16) 年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : Studies on Endothelial Cells (東京工業大学1984)
 専門分野 : 生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職 : 東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等 : 工学研究科長, 先端医用工学センター長 (2018～)
 医用工学部長, 工学研究科長, 医用工学部生命・環境
 システム工学科長, 医用工学部生命医工学科長、先端
 医用工学センター長 (～2017)
 留学 : 米国バンダービルト大学医学部 (1987年4月～1988年6
 月)
 資格 : 高等学校教諭二級普通免許状 (教科名生物)
 非常勤講師 : 筑波大学
 受賞・表彰 : 手島科学奨励賞 (1984年)、三越医学賞 (1990年)、東
 京高血圧研究会奨励賞 (1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) 対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方向的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2) ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
Trichloroethylene-related Compound S-(1,2-Dichlorovinyl)-L-cysteine Localized on Mouse Cartilage	2019年5月13日	46th European Calcified Tissue Society Congress (ECTS 2019) (BUdapest, Hungary)	Hiromi HAGIWARA , Nobuaki SHIRAI , Norikazu KOMORIYA , Hiroki TOMISAWA
「Microfabrication of glass-supported thin polymer film for arranging and networking live cells by femtosecond laser processing」	2019年11月16日	14th International Symposium on Biomedical Engineering , Yokohama, Japan	Kazunori OKANO , Kio YAGAMI , Kentarou BABA , Kouki ABE , Naoyuki INAGAKI , Hiromi HAGIWARA , Yoichiroh HOSOKAWA
「Effects of Genistein and Daidzein on Proliferation of Human Prostate Cancer Cell PC-3」	2019年11月16日	14th International Symposium on Biomedical Engineering , Yokohama, Japan	Kensuke TOYODA , Kyoko NAKATA, Hiromi HAGIWARA
「Effects of Soybean Isoflavone on Viability of Human Prostate Cancer Cell PC-3」	2019年11月16日	14th International Symposium on Biomedical Engineering , Yokohama, Japan	Yuki KONISHI , Kyoko NAKATA , Hiromi HAGIWARA

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会, 日本分子生物学会, 日本骨代謝学会, 米国骨代謝学会, 日本心血管内分泌代謝学会, 日本血管生物医学学会, 日本動物細胞工学会, 日本抗加齢医学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事, 評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森 永 茂 生 (もりなが しげお) 教授



出生年 : 1956 (昭和31) 年
 在籍 : 1989 (平成元) 年4月～
 最終学歴 : 東京都立大学大学院博士課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation - Gas Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野 : 環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等 : 学務部副部長 (2014～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0. 177 (1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト (前期)	2010年～2020年	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト (後期)	2010年～2020年	生命医工学科および臨床工学科の工学ワークショップ II 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 I (前期)	2010年～2020年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 III (前期)	2010年～2020年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 III 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
トランス脂肪酸の過剰摂取が、心臓疾患に繋がることから、世界的にも懸念されている中、どの様にしてそれらを分離するか等の検討がなされている。包接化合物の一つである、シクロデキストリン (CD) は、 α -CD、 β -CDおよび γ -CDが知られており、それらによる飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸およびトランス脂肪酸の包接化合物は、白色沈殿を生じることで、その組合せや濃度などの条件の違いにより、分離することが可能であるかどうかの検討をしている。さらに、日本人の脂肪酸摂取量が、食の欧米化により、やや多くなっていることがわかっているが、シクロデキストリンによる脂肪酸の摂取制御を目的に、人工腸液をもとに脂肪酸等の摂取制御を検討している。また、近年、医療現場において、本来身体が持つべき免疫機能が発揮できない易感染宿主が増え、通常病原性を示さない弱毒菌でも感染症を患うケースが増えている。よって、MRSAやVRE感染症を未然に防ぐための院内感染対策が各医療機関で義務づけられている。そのような中、酸化チタン光触媒を用いた、滅菌や殺菌に関する試みがされている。そこで、酸化チタン光触媒を用いたその詳細を検討している。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂 知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年 : 1958 (昭和33) 年
在籍 : 2009 (平成21) 年1月～
最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 医用工学専攻
学位 : 博士 (工学)
学位論文 : フィセチンの脂質代謝と糖代謝に及ぼす効果に関する研究
専門分野 : 臨床検査学、病院経営特論
前職 : 済生会横浜市東部病院
学内役職等 : 医用工学部学部長 (2018～)
留学 :
資格 : 臨床検査技師
非常勤講師 :
受賞・表彰 : 神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰、日韓交流
功労賞

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略

若年者の成長過程における生理機能検査を中心とした疫学的調査。超音波診断装置を用いた甲状腺の器質的形態調査と血中甲状腺ホルモン濃度測定による機能的調査。総頸動脈の形状および血流量に関する調査。承諾を得た一般学生とアスリート系柔道部員の心臓形態調査、心拍数、算出心筋量および心電図波形の比較についての研究。(スポーツ心との関係について)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会・分子生物学会・日本医療機器学会・日本ワシントンヘルスサイエンス学会

吉 田 薫 (よしだ かおる) 教授



出 生 年 : 1970 (昭和45) 年
 在 籍 : 2004 (平成16) 年6月～
 最 終 学 歴 : 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学 位 : 博士(理学)
 学 位 論 文 : ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専 門 分 野 : 生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前 職 : 科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員
 学 内 役 職 等 : 研究推進部部長
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、精囊分泌タンパク質による糖鎖を介した細胞膜流動性と受精能獲得制御機構解明のため、コレステロールによって制御される脂質ラフト構成成分であるガングリオシドGM1、また、精子最外表面をコートしていると考えられるグリコカリックスとその構造の中心を担うβディフェンシン126等、精子の表面に存在する糖鎖への精囊分泌タンパク質の作用について検討を開始した。男性不妊症の臨床研究に関しては引き続き臨床検体の免疫染色による検査症例について、検査結果との関連性について解析を行った。また、学外との共同研究については、カタユレイボヤ精子誘引物質の受容体タンパク質について種の特異性に関する検討とクライオ電子顕微鏡法による分子構造解析のための組換えタンパク質発現について着手した。更に、精囊分泌タンパク質由来ペプチドを人工受精時の精子保護材として用いる目的でマウスを用いた基礎検討を行い、その有効性に関する論文を作成投稿し、受理された。学内では、引き続き、萩原教授とのポリフェノール類の骨形成への影響、トリクロロエチレン代謝物の生体への影響等の共同研究を行い、データ解析および論文作成中である。また、本年度より新しく宮坂特任教授とペロブスカイトの生体への影響についての共同研究を開始した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
月刊「細胞」2019年5月号 受精時に見られる精子運動調節	共著	2019年4月20日	北隆館	吉田薫、吉田学	253-255
保険の科学61巻6月号 男性不妊症における精漿の役割と「精子の質」	共著	2019年9月	杏林書院	吉田薫、岩本晃明	604-608
(学術論文)					
Preclinical evaluation of a new cryopreservation container for a limited number of human spermatozoa.	共著	2019年8月1日	The Journal of reproduction and development 65(4)	Nakata K, Yoshida K, Yamashita N	297 - 304
Deletion of a Seminal Gene Cluster Reinforces a Crucial Role of SVS2 in Male Fertility.	共著	2019年9月4日	International journal of molecular sciences 20(18)	Miyuki Shindo, Masafumi Inui, Woojin Kang, Moe Tamano, Cai Tingwei, Shuji Takada, Taku Hibino, Manabu Yoshida, Kaoru Yoshida, Hiroshi Okada, Teruaki Iwamoto, Kenji Miyado, Natsuko Kawano	on line

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
ヒト精漿タンパク質Semenogelinの Maus 精子運動への影響	2019年6月21-22日	日本アンドロロジー学会 第38回学術大会 大阪国際 会議場	吉田 学、坂口大樹、宮戸健 二、吉田 薫、河野菜摘子
Relationship between the remaining Semenogelins on human sperm and male infertility	2019年7月29-8月2日	Gordon Research Conference: Fertilization and the Activation of Development, Holderness School, Plymouth, NH, USA	Yoshida, K., and Iwamoto, T.
Role of the sperm-specific Ca ²⁺ channel, CatSper on the ascidian Ciona intestinalis- Spermatozoa of the Catsper3 knockdown ascidian are severely reduced their motility.	2019年7月29-8月2日	Gordon Research Conference: Fertilization and the Activation of Development, Holderness School, Plymouth, NH, USA	Kijima, T., Kurokawa, D., Yoshida, K., and Yoshida, M.
CatSperは精子運動の調節のみに関わるカルシウムチャンネルか?	2019年9月12-14日	日本動物学会第90回大阪大 会 大阪市立大学杉本キャン パス	吉田 薫、木島 大雅、吉田 学
ホヤにおける精子走化性の種特異性をもたらす分子基盤	2019年9月12-14日	日本動物学会第90回大阪大 会 大阪市立大学杉本キャン パス	吉田 薫、池永 潤平、荒武 里 衣、吉田 学
ホヤの受精におけるCatSperの役割	2019年9月30-10月1日	生理学研究所 研究会「イ オンチャンネルと生体膜のダ イナミズム：構造生物学の 先にあるもの」 大阪大学 银杏会館	木島大雅、黒川大輔、吉田 薫、吉田学
「精子の質」検査法の開発について	2019年11月7日	第64回日本生殖医学会学術 講演会・総会 神戸国際展 示場	吉田 薫、猪鼻達仁、山崎 一恭、岩本 晃明
尾索動物ホヤ類からみた精子と卵の出会い	2019年12月3-6日	第42回日本分子生物学会年 会（ワークショップ：子ど もの誕生を支える分子基 盤：生物種を超えた成り立 ち・問題点・将来）福岡国 際会議場	吉田 学、吉田 薫
ワークショップ：子どもの誕生を支える分子基盤：生物種を超えた成り立ち・問題点・将来（座長）	2019年12月3-6日	第42回日本分子生物学会年 会福岡国際会議場	吉田薫、宮戸真美
メスの子宮内免疫における補体タンパク質C3の関与	2019年12月3-6日	第42回日本分子生物学会年 会福岡国際会議場	佐藤里奈、坂口大樹、紀藤 圭 治、吉田 薫、吉田 学、宮戸 健二、河野 菜摘子
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
「受精における精漿タンパク質の役割について」	2019年8月24日	第21回横浜ART研究会 ホテル 横浜キャメロットジャパ ン	吉田薫
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
AMED成育疾患克服等総合研究事業	2017年度～2019年度	最適なART選択に寄与する精子の質検査法確立と、精子の質を保全する技術の開発に関する研究 JP17gk0110027、研究分担者	
科学研究費補助金	2019年度～2021年度	基盤研究C、精嚢分泌タンパク質による精子膜ステ ロールレベル調節を介した受精能獲得制御 19K09721、研究代表者	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会、日本受精着床学会	
	学会等における役職等
2020年7月～現在	日本アンドロロジー学会評議員
2020年9月～現在	日本動物学会理事

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 准教授



出生年 : 1972 (昭和47) 年
 在籍 : 2009 (平成21) 年4月～
 最終学歴 : 放送大学 教養学部
 学位 : 博士 (医学)
 学位論文 : IL-6 signal blockade ameliorates the enhanced osteoclastogenesis and the associated joint destruction in a novel Fc γ RIIB-deficient rheumatoid arthritis mouse model.
 専門分野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 学内役職等 :
 留学 : 熊本大学 医学部 免疫学講座 (国内) 2003.4月-2004.3月
 資格 : 臨床検査技師
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
臨床医学、病理学、免疫学の知識をもとに、病態の発症機序を教授する	2010年より現在	内因、外因、環境要因が炎症 (免疫) を惹起したときに、細胞内でおこる変化を病理学の観点から教授し、その結果として病態の進行過程を理解させる。(年次ごとに改定)
病理学、免疫学の知識をもとに、病態の発症機序を教授する	2010年より現在	内因、外因、環境要因が炎症 (免疫) を惹起したときに、細胞内でおこる変化を病理学の観点から教授し、その結果として病態の進行過程を理解させる。年次ごとに改定
2. 作成した教科書、教材、参考書		
病理学、臨床病理学、医学総論	2010年より現在	正常と異常の状態を、ミクロ的マクロ的に対比させた。内容に解剖学を含んでいることから、身体の中で起こる事象についても理解することができるように工夫した。(年次ごとに改定)
生命医工学セミナーⅣ (病理学実習)	2011年より現在	組織学、細胞学、病理技術学について、教科書に載っていない内容も加味した。(年次ごとに改定)
国試でかかれるシリーズ (解剖学、組織学、病理学、免疫学、移植免疫学)	2012年より現在	臨床検査技師国家試験対策用資料集 国家試験の頻出範囲に的を絞った参考書。(年次ごとに改定)
病理学、臨床病理学、医学総論	2010年より現在	正常と異常の状態を、ミクロ的マクロ的に対比させた。内容に解剖学を含んでいることから、身体の中で起こる事象についても理解することができるように工夫した。年次ごとに改定
生命医工学セミナーⅣ (病理学実習)	2011年より現在	組織学、細胞学、病理技術学について、教科書に載っていない内容も加味した。
国試でかかれるシリーズ (解剖学、病理学、免疫学)	2012年より現在	臨床検査技師国家試験対策用資料集 国家試験の頻出範囲に的を絞った参考書。年次ごとに改定。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
自己免疫疾患であるSLEやRAの患者で、単球の活性化が認められる。しかしながら、原因となる単球分画や病因は明らかとなっていない。現在、我々の研究チームで樹立した疾患モデルマウスである、SLE発症B6.Fc γ RIIB $^{-/-}$.YaaマウスおよびRA発症B6/129.Fc γ RIIB $^{-/-}$ マウスを用いて、単球と病態との因果関係について解析を解析をおこなっている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（著書）					
（総説・論説）					
「Monocyte subsets involved in the development of systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis」	共著	2019年4月11日	International Immunology in press	Sachiko Hirose, Qingshun Lin, Mareki Ohtsuji, Hiroyuki Nishimura, J. Sjef Verbeek	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「Anti-CD11b antibody treatment suppresses the osteoclast generation, inflammatory cell infiltration, and autoantibody production in arthritis-prone Fc γ RIIB-deficient mice.」	2019年4月15日	The 63st Annual General Assembly and Scientific Meeting of the Japan College Rheumatology, Kyoto, Japan	OHTSUJI Mareki, AMANO Hirofumi, OKAZAKI Hieki, NISHIMURA Hiroyuki, HIROSE Sachiko		
「Anti-CD11b antibody treatment suppresses the disease conditions in rheumatoid arthritis (RA)-prone, Fc γ RIIB-deficient mice」	2019年5月9日	IMMUNOLOGY 2019, SAN DIEGO CONVENTION CENTER	Kazuko Takahashi, Mareki Ohtsuji, Qingshun Lin, Hideki Okazaki, Hirofumi Amano, Hideo Yagita, Hiroyuki Nishimura, Sachiko Hirose		
「Contribution of monocyte subsets in autoimmune diseases.」	2019年12月11日	The 48th Annual Meeting of Japanese Society for Immunology, Hamamatsu, Japan	Mareki Ohtsuji, Qingshun Lin, Hidehiro Fukuyama, Hirofumi Amano, Hiroyuki Nishimura, J. Sjef Verbeek, Sachiko Hirose		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本免疫学会、アメリカ免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、東京都臨床検査技師会

大 沼 健 太 郎 (おおぬま けんたろう) 専任講師



出 生 年 : 1974 (昭和49) 年
 在 籍 : 2016 (平成28) 年2月～
 最 終 学 歴 : 東京電機大学大学院先端科学技術研究科先端技術創生
 専攻
 学 位 : 博士 (工学)
 学 位 論 文 : Extended-Timed-Automata外科手術モデルの構築と
 Scrub Nurse Robot用リアルタイム視覚認識システムの
 開発に関する研究
 専 門 分 野 : 医用電子工学、医用システム、人工臓器
 前 職 : 国立循環器病研究センター研究所人工臓器部 特任研
 究員
 大阪大学大学院医学系研究科 特任助教
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 : 新渡戸文化短期大学臨床検査学科
 受 賞 ・ 表 彰 : 東京電機大学ME会奨励賞 (2016年3月)
 第36回人工心臓と補助循環懇話会 若手賞 (2008年3
 月)
 丹羽保次郎賞 (2008年3月)
 SICE SI2005ベストセッション賞 (連名) (2005年12
 月)
 バリアフリーシステム開発財団奨励賞 (2003年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
物理系科目の演示	2016年4月～2020年3月	以前より行われてきた演示実験を引き継いで実施、ほかに身の回りの物品等による簡易な演示で随時視覚的に板書を補足
パワーポイント、動画の併用	2017年4月～	一部の講義において、おもに視覚的理解を補足するためPCプレゼンテーションにおいて動画、アニメーションを活用。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
テキスト、プリントの作成	2016年4月～	1年次科目 (物理 I・II、工学WSII) はテキストを作成して配布。演習、小テスト、補足資料等のプリントを適宜作成、配布。2020年度はオンライン配信。
パワーポイント資料の作成	2017年4月～	講義内容の理解をを助けるため、アニメーションや動画を用いたスライドを作成。2020年度は音声と手書き入力を加えて動画として配信。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
<p>・自律的人工心臓制御に関する研究 科研費の助成を受け、生物の適応性・恒常性を表す数理モデルを応用した血液ポンプ制御システムを構築した。これまでに脱血時の吸い付きを自己調節的に解除する制御法を検証するため模擬循環試験を実施して有効性を確認した。</p> <p>・循環器系シミュレータの開発 電気等価回路による血行動態の計算機シミュレータを構築し、動物実験における補助人工心臓心拍同期駆動の報告例と類似した冠血流量慮変化を再現可能であった。同シミュレータの機械的模擬循環装置改良への応用について検討を開始した。</p> <p>・その他 模擬循環装置に関する研究開発において、人工弁形状および素材の物性と、圧力波形との関係性を評価した。また、心拍の引き込み現象に関する新規解析手法について検討した。</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
左心系模擬循環装置における人工弁の設計指標と圧力波形の関係	2019年6月	日本生体医工学学会大会 (58), (宜野湾市)	大沼健太郎、住倉博仁、築谷朋典、巽英介、片野一夫、小嶋孝一、本間章彦
腎血流補助用カテーテル式血液ポンプの流量制御法に関する実験的基礎検討	2019年6月	日本生体医工学学会大会 (58), (宜野湾市)	住倉 博仁, 大沼 健太郎, 花田 繁, 築谷 朋典, 水野 敏秀, 本間 章彦, 武輪 能明, 巽 英介
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
急性心腎症候群の早期腎不全治療を目的としたカテーテル式補助循環装置の実用化研究	2016年4月～2020年3月	科学研究費補助金・基盤研究 (B), (分担)	
生物的適応アルゴリズムによる自律的人工心臓制御の開発と臨床的課題への応用	2017年4月～2020年3月	科学研究費補助金・基盤研究 (C), (代表)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本人工臓器学会、ライフサポート学会、日本生体医工学学会、IEEE、計測自動制御学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2019年12月～2020年3月	ライフサポート学会 第29回フロンティア講演会プログラム委員 (大会中止)
2017年5月～現在	ライフサポート学会評議員
2019年5月～現在	日本人工臓器学会評議員

澤 口 能 一 (さわぐち よしかず) 専任講師



出生年 : 1983 (昭和58) 年
 在籍 : 2018 (平成30) 年4月～
 最終学歴 : 帝京大学大学院 薬学研究科 博士課程修了
 学位 : 博士 (薬学)
 学位論文 : 新生血管を標的とした免疫療法の開発
 ～抗関節リウマチおよび抗肥満効果～
 専門分野 : 薬剤学、免疫学、医用工学
 前職 : 日本薬科大学 臨床薬剤学分野 助教
 学内役職等 : 講師
 留学 :
 資格 : 薬剤師
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 第49回日本薬学会関東支部会 優秀研究発表賞 (2005
 年10月)
 第12回 日本脳神経超音波学会 最優秀論文賞 (2017
 年6月)

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(口頭) 非侵襲的超音波による脳梗塞の再発予防法に関するメカニズムの検討	2019年6月7日	第38回 日本脳神経超音波学会 (奈良春日野国際フォーラム/奈良県奈良市)	澤口能一・山本博之・王作軍・中田典生
(ポスター) Characteristic and mechanism analysis of thrombus-growth model	2019年11月16日	TOIN 14th International Symposium on Biomedical Engineering (桐蔭学園アカデミウム/神奈川県横浜市)	Shota Konishi, Ryo Honda, Yoshikazu Sawaguchi
(ポスター) Elucidation of thrombus growth mechanism by thrombin inhibitor	2019年11月16日	TOIN 14th International Symposium on Biomedical Engineering (桐蔭学園アカデミウム/神奈川県横浜市)	Ryo Honda, Shota Konishi, Yoshikazu Sawaguchi

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本薬学会、日本脳神経超音波学会、日本栓子検出と治療学会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年 : 1972 (昭和47) 年
 在籍 : 2010 (平成22) 年4月～
 最終学歴 : 順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位 : 博士(医学)
 学位論文 : 超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野 : 臨床生理学、基礎生理学
 前職 : 大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 学内役職等 : 講師
 留学 :
 資格 : 臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー
 非常勤講師 : 城西大学薬学部
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○講演会・研究会・セミナー講師			
題目等名	年月 (西暦)	依頼先・研究会等名	開催場所
第30回日本体力医学会スポーツ医学研修会	2019年8月2-3日	日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会	日本体育大学東京世田谷キャンパス, 各教室および中央測定室など
○その他			
(その他特記事項)			
臨床検査技師国家試験問題注解 2020年版 (金原出版) 2019年5月31日			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本看護科学会、日本栄養・食糧学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2014年9月～	日本体力医学会評議員	
2015年12月～	NPO法人ふるさと日本元氣塾 副理事長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
スポーツ大会、連行体操教室などの企画運営、スポーツに関する医学的な調査研究、地域間交流、青少年健全育成、健康長寿に寄与する。	2016年5月～	NPO法人 ふるさと日本元氣塾 副理事
日本体力医学会健康科学アドバイザー実技講師	2018年～	

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助教



出生年 : 1986 (昭和61) 年
 在籍 : 2012 (平成24) 年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程 修了
 学位 : 博士 (工学)
 学位論文 : 神奈川県近隣で分離される広域セファロスポリン耐性腸内細菌科の分子疫学解析
 専門分野 : 臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前職 : 東海大学医学部付属病院 院内感染対策室 技術員
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 臨床検査技師、認定臨床微生物検査技師、2級臨床検査士 (微生物学)、遺伝子分析科学認定士 (初級)
 非常勤講師 : 茅ヶ崎看護専門学校 非常勤講師 (微生物学)
 葵会柏看護専門学校 非常勤講師 (微生物学)
 千葉科学大学危機感理学部 非常勤講師 (微生物・医動物学実習)
 受賞・表彰 : 一般社団法人 色材協会 2014 JSCM Most Accessed Review Award
 IFBLS 2018 Young Scientist Award (KAMT賞)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
臨床検査技師国家試験のための補講	2012年9月～2020年2月	臨床検査技師国家資格取得のため、週5～6コマの補講を実施した。内容は各科目ごとの体系的な解説から、横断的な内容まで及んだ。補講内では、効率的かつ印象に残るよう、独自の表やイメージ像を図示するよう努めた。
臨床検査技師国家試験のための学内試験および問題演習にて○×問題の取り入れ	2012年9月～2020年2月	臨床検査技師国家資格取得のための学内試験には、本番での形式である5択以外に、○×問題を取り入れた。5択の場合、正解にたどり着いた時点で正答となるが、1文ずつ詳細な内容を理解しないままのケースがある。○×問題はその問題点を解決するのに有益であった。また受験直前の冬休み課題として、○×問題演習を行ったことで、記憶漏れや記憶ミスは抽出できた。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
生命医工学実験Ⅱ 臨床微生物学実習 実習の手引き&レポート	2019年4月	
生命医工学セミナーⅠ 輸血・移植学実習 実習書	2019年6月	

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
<p>家畜から分離される抗菌薬耐性菌研究の一環として、健常人および食用肉からの耐性菌分離を行った。また臨床検査センターの協力を得て、神奈川県や東京都の病院から分離される耐性菌ESBLの疫学調査を実施した。本研究は基礎研究と臨床現場をつなぐ橋渡しの研究として、今後神奈川県近郊の耐性菌制御の一助となると確信している。これらの成果については論文執筆、投稿した。</p> <p>また耐性菌制御のため、抗菌薬を用いない感染症治療法として光線力学的療法PDTおよびPTによる抗菌活性について、標準菌株及び臨床菌株を用いて細菌学的立場から検討した。これらの成果の一部は学会発表、または論文執筆による報告を行った。</p>

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「神奈川県内中小規模病院から分離されたESBL産生大腸菌ST131のクレード分類」	2019年5月19日	第68回日本医学検査学会 (下関市民会館・シーモールパレス / 山口県下関市)	新国駿，蓮沼裕也，天野紗希，B. エンフジン，徳岡由一
「Staphylococcus aureusの色素産生能と白色LED光照射による発育抑制効果との関係性」	2019年9月19日	第29回日本光線力学学会学術講演会(ホテルグランドヒル市ヶ谷 / 東京都新宿区)	バタジャルガル エンフジン，蓮沼 裕也，徳岡 由一
「市販鶏肉由来および神奈川県内臨床分離ESBL産生Escherichia coli におけるfloR遺伝子の保有状況」	2019年10月18日	第66回日本化学療法学会東日本支部総会(仙台国際センター/宮城県仙台市)	小林 美里，蓮沼 裕也，徳岡 由一
「神奈川県内で臨床分離されたqnrS遺伝子保有ESBL産生Escherichia coli株の分子生物学的特徴」	2019年10月18日	第66回日本化学療法学会東日本支部総会(仙台国際センター)	蓮沼 裕也，徳岡 由一
「健康青年における広域セファロスポリン耐性腸内細菌科の保菌率推移と分子疫学的特徴」	2019年11月28日	第40回 日本食品微生物学会学術総会(タワーホール船堀)	東 希実，蓮沼裕也，徳岡由一
「マイクロ波プラズマを用いた紫外線-オゾン発生装置による殺菌効果の評価」	2020年2月1日	第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会(石川県立音楽堂 他)	渡部篤也，蓮沼裕也，楠元直樹，平岡茂美，川島徳道，徳岡由一
「High-throughput sequencingによるAmpliseqを用いたβ-lactamase遺伝子の網羅的解析」	2020年2月2日	第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会(石川県立音楽堂 他)	蓮沼裕也，新国駿，徳岡由一
「マイクロ波プラズマを用いた紫外線-オゾン発生装置による殺菌効果の評価」	2020年2月15日	第35回日本環境感染学会総会・学術集会(パシフィコ横浜)	渡部篤也，蓮沼裕也，楠元直樹，徳岡由一
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
臨床分離株から検出される家畜由来薬剤耐性遺伝子のモニタリングとその制御	2019年4月～2021年3月	文部科学省科研費 若手□	
(その他特記事項)			
株式会社 保健科学研究所と共同で、神奈川近郊の病院から検出される耐性菌の疫学調査を実施(2014年12月～現在)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本化学療法学会、日本ワイルドサイエンス学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会

濤 川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年 : 1981 (昭和56) 年
 在籍 : 2011 (平成23) 年4月～
 最終学歴 : 獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 生理学、臨床生理学、
 前職 : 恩賜財団済生会横浜市東部病院
 学内役職等 :
 留学 : 米国 (4年)
 資格 : 臨床検査技師
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
2019年5月下旬にて行われた日本医学検査学会において、若手技師国際フォーラムを開催した。この成果を医学検査へ投稿した。学内では下肢血管超音波検査の技術習得、及びそれに関する学生卒業研究を進めた。下肢動脈超音波に留まることなく下肢静脈にも視野を広げていくことを考えたい。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
若手技師国際対応力向上ワーキンググループ活動報告	2019年10月26日	日臨技首都圏支部・関甲信 支部医学検査学会 (第56 回)	石井脩平他

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床衛生検査技師会、 神奈川県臨床検査技師会、 超音波検査学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2018年度～2019年度	日本臨床衛生検査技師会若手技師国際化対応力向上WG委員
2019年4月～現在	NPO法人つくば臨床検査教育・研究センター理事
2018年度～現在	日本臨床衛生検査技師会国際WG委員
2018年度～現在	日本臨床衛生検査技師会若手技師国際化対応力向上WG副委員長



出生年 : 1973 (昭和48) 年
 在籍 : 2006 (平成18) 年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了
 学位 : 博士 (理学)
 学位論文 : Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野 : 光化学、光電気化学
 前職 : ペクセル・テクノロジーズ (株) 研究開発部博士研究員
 学内役職等 : 大学院工学研究科医用工学専攻 専攻長
 留学 :
 資格 : 甲種危険物取扱者
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特許5172166号
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
ペロブスカイト太陽電池の簡易作製法の研究とその実践	2018年～	シグマアルドリッチ社 材料科学の基礎 第9号「ペロブスカイト太陽電池の基礎」に、本研究室で実践した内容が紹介された。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
<p>塗布法で作製可能であるにも関わらずシリコン太陽電池に匹敵する変換効率が報告されているペロブスカイト太陽電池を、研究室でも再現性より作製するためのスピコーターの設計と試作を、神奈川県産業技術研究所の助成を受けて進めた。ペロブスカイト太陽電池の光電変換層となるペロブスカイト層の成膜は、スピコーターを用いることが一般的であるが、基板の回転中に溶液をタイミングよく滴下しなければ、良質の膜ができないなど、再現性の上で課題があった。そこで、溶液の滴下タイミングの条件を設定しやすくするために、市販のマイクロピペットをマイコン制御で滴下するための装置を試作し、実験を進めた。その結果、変換効率が15%のペロブスカイト太陽電池を安定的に作製することに成功した。さらに、その安定なペロブスカイト太陽電池を、封止材等の周辺部材の評価へ展開した。太陽電池としても用いるペロブスカイト結晶は、放射線やX線の検出素子としても応用が期待されている。そこで、熱プレス機を用いてペロブスカイトの電極ペレットを作製する方法の研究を進めた。実際に、X線、放射線の感度が得られたため、さらなる高感度化に向けた作製法について検討した。</p> <p>JAXAのイノベーションハブプロジェクトによる成果を含めて、本研究室での研究成果は、2020年1月に東京ビックサイトで開催されたナノテクノロジー総合展示会nanotech2020で発表した。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Proton irradiation tolerance of high-efficiency perovskite absorbers for space applications	共著	2019年10月27日	J. Phys. Chem. Lett., 2019, 10,	S. Kanaya, G. M. Kim, M. Ikegami, T. Miyasaka, K. Suzuki, Y. Miyazawa, H. Toyota, K. Osonoe, T. Yamamoto and K. Hirose	6990-6995
Stable and efficient perovskite solar cells fabricated using aqueous lead nitrate precursor: Interpretation of the conversion mechanism and renovation of the sequential deposition	共著	2019年12月	Materials today ENERGY, 2019	Tsung-Yu Hsieh, Tzu-Sen Su, Masashi Ikegami, Tzu-Chien Wei, Tsutomu Miyasaka	100125
Low-temperature synthesized Nb-doped TiO ₂ electron transport layer enabling high-efficiency perovskite solar cells by band alignment tuning	共著	2020年3月9日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 2020, 12	Y. Sanehira, N. Shibayama, Y. Numata, M. Ikegami, and T. Miyasaka	15175-15182
Tetrahydrofuran as an oxygen donor additive to enhance stability and reproducibility of perovskite solar cells fabricated in high relative humidity (50%) atmosphere	共著	2020年3月9日	Energy Technology, 2019	B. Chaudhary, A. Kulkarni, A. K. Jena, M. Ikegami, and T. Miyasaka	1900990
” Performance enhancement of AgBi ₂ I ₇ solar cells by modulating a solvent-mediated adduct and tuning remnant BiI ₃ in one-step crystallization	共著	2019年3月14日	Chem. Comm., 2019, 55	A. Kulkarni, A. K. Jena, M. Ikegami, and T. Miyasaka	4031-4034
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
音響エネルギー式インクジェット法による有機無機ペロブスカイト結晶層の成膜	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	塚本 絢穂、石河 睦生、遠藤 聡人、安井 伸太郎、池上 和志、宮坂 力		
ペロブスカイト太陽電池の電子輸送層に向けたスズ酸塩薄膜の合成	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	實平 義隆、沼田 陽平、池上 和志、宮坂 力		
ハロゲン化鉛ペロブスカイト層のスピンコート成膜における アンチソルベント法の自動化の検討	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	成田 航、池上 和志、宮坂 力		
低温製膜ペロブスカイト太陽電池の変換効率に及ぼす微粒子酸化チタンナノ粒子層の焼成温度依存性	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	阿部 剛志、池上 和志、宮坂 力		
熱プレス法によるハロゲン化鉛ペロブスカイトペレットの作製と光検出素子応用へ向けた電極基板の表面処理の検討	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	八巻 千晶、實平 義隆、池上 和志、宮坂 力		
フィルム型ペロブスカイト太陽電池の熱プレスによる電極作製法	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	白石 円香、池上 和志、宮坂 力		
放射熱を用いたハロゲン化鉛ペロブスカイト層のアニーリングと固定治具の素材および焼成条件の検討	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	大曾根 真輝、池上 和志、宮坂 力		

Double layered perovskites by surface molecular engineering to achieve high efficiency dopant-free P3HT based HTM perovskite solar cells	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	Januardana Hanung Pradita、Kulkarni Ashish、Ikegami Masashi、Miyasaka Tsutomu
MAPbI3ペロブスカイトペレットを用いた光導電素子の電流電圧特性の温度依存性	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	鈴木 遼河、池上 和志、宮坂 力
スピコート法による順構造フィルム型ペロブスカイト太陽電池モジュールの作製に向けた基板表面処理法の改善	2020年3月15日	第67回応用物理学会秋季学術講演会、上智大学	成田 航、池上 和志、宮坂 力
水蒸気流通下での熱処理によるMgドープ酸化スズ電子輸送層の合成	2020年3月15日	第67回応用物理学会秋季学術講演会、上智大学	實平 義隆、沼田 陽平、池上 和志、宮坂 力
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
ペロブスカイト太陽電池の高性能化と実用化動向	2019年12月9日	情報機構	大田区産業プラザ
○その他			
（補助金・助成金等）			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金（日本学術振興会）	2019年4月～2022年3月	基盤研究(C) 放射線検出を目的とするハロゲン化鉛系ペロブスカイト厚膜作製と物性評価	
神奈川県産業技術総合研究所 産学公連携事業化促進研究	2019年4月～2022年3月	省力化・自動化システムを備えたペロブスカイト太陽電池製造及び評価装置の開発	
スガウェアリング技術振興財団	2019年4月～2020年3月	第38回 研究助成 放射線検出用の有機無機ペロブスカイト光半導体厚膜の耐久性評価	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2019年1月1日～12月31日	2019年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員・Chair	
2018年4月1日～現在	応用物理学会論文誌 JJAP/APEX 編集委員	
（社会における活動）		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジーズ株式会社

佐藤敏夫 (さとう としお) 教授



出生年 : 1961 (昭和36) 年
 在籍 : 1997 (平成9) 年12月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位 : 博士 (医学)、博士 (工学)
 学位論文 : Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs (医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究 (工学博士論文)
 専門分野 : 生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職 : (株)東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等 : キャリア情報センター副センター長 (2013～)
 医用工学部臨床工学科学科長 (2018～)
 留資格 :
 留資格 : 第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師 : 千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科
 受賞・表彰 : 科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞 (1992)
 2002年度材料技術研究協会討論会 技術賞
 2003年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2008年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞 (腎臓)
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会, 第16回日本生活支援工学会大会, 日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2017年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年 (2017年度3年次学生) のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>2019年度は、血液浄化療法など臨床工学技士が活躍する臨床現場で必要となる課題に対する研究を進めることができた。まず、血液透析患者のシャント音の変化を用いた新しいバスキュラーアクセス機能評価方法の検討では、従来は臨床現場で医療従事者が経験的に血管狭窄率とシャント音の音響特性の関係を提唱してきたが、実験的に検証した例はなく、我々が初めて実験上で柔軟なチューブを用いたバスキュラーアクセスモデルを作製することで、その関連性を定量的に明らかにした。また、嚙下音から嚙下機能をスクリーニングする新しい評価方法の検討では、飲食物の違いによって嚙下音が変化することや、嚙下機能が低下した患者に提供する食事形態を適切に設定するための指標づくりなど、より臨床・介護現場のニーズに応える研究を行うことができた。これらの成果は、臨床現場でも役立つ研究成果であり、「医工学治療」に原著論文として投稿し、既に掲載されている。また、各学会でも報告しているように血液浄化療法に関連する医療材料の最適化やモニタリング方法の提案も継続して行っており、メーカーや医療現場が必要とするニーズに応える研究活動を今後も実施していきたい。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Computational Fluid Dynamics Analysis of the Optimal Shape for Side Holes in Indwelling Needles for Hemodialysis: Comparisons of analytical and experimental results obtained for each side hole shape	共著	2019年6月	桐蔭論叢第40号	Tomoko Oku, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	pp. 101-107
嚙下音分析に基づく非侵襲的かつ簡便な嚙下機能検査方法の提案 - 冷却炭酸水の嚙下機能改善効果に対する定量評価の試み -	共著	2020年3月	医工学治療Vol. 32 No. 1	可児雅也、奥 知子、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp. 12-25
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
バスキュラーアクセスの狭窄を模擬した擬似血管モデルにおけるシャント音の発生メカニズムの理論的検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	中根紀章、佐々木一真、奥 知子、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
電子聴診器で測定した維持透析患者のシャント雑音分析によるバスキュラーアクセスの非侵襲機能評価	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	関 俊輔、佐々木一真、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、清 千布美、矢嶋博行、坂内 誠、赤松 真、阿岸鉄三		
嚙下調整食の炭酸強度や温度の違いによる誤嚙防止効果の定量的評価方法	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	可児雅弥、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
血液凝固発生の抑圧を目的とした血液透析回路の静脈側エアトラップチャンバの最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	鈴木亮也、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
シャント雑音分析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法の擬似血管狭窄モデルを用いた有効性の検証	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	佐々木一真、関 俊輔、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象評価システムを用いたカテーテル先端形状の最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	鈴木博子、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
体外循環中の血液吸光度の連続モニタリングによる回路内血液凝固検出方法の基礎検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	佐藤敏夫、坂元英雄、本橋由香、奥 知子、山内 忍、阿岸鉄三		
シャント雑音の周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価	2019年6月28日～6月30日	第64回日本透析医学会学術集会総会、パシフィコ横浜他（神奈川県横浜市）	坂内 誠、清 千布美、矢嶋博行、赤松 真、佐々木一真、関 俊輔、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		

嚙下音の時間-周波数解析に基づく嚙下リハビリテーション効果の定量的評価の試み	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会, 立命館大学 (滋賀県草津市)	可児雅弥、佐藤敏夫、奥知子、本橋由香、山内忍
血液透析患者のシャント雑音解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法と超音波エコー法との比較検討	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会, 立命館大学 (滋賀県草津市)	佐々木一真、関俊輔、佐藤敏夫、奥知子、本橋由香、山内忍
Effectiveness of vascular access function assessment by shunt murmur analysis as compared with ultrasonic pulse-echo assessment	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonated water and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
A new method for monitoring blood removal failure through time-frequency analysis of backflow murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuto Moriya, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Usability of numerical computation about mechanism of generating shunt murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Computational fluid dynamics analysis of straight type and high flow type in indwelling needles for hemodialysis -comparison of analysis and experimental results for each type-	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Verification of effectiveness of vascular access function assessment by normalized cross-correlation coefficient from shunt murmur obtained by electronic stethoscope	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Evaluation of post-maintenance misalignment of a pressurization pump in a dialysis patient monitoring device based on vibration measurement and fast fourier transform analysis	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kosuke Sekine, Shinobu Yamauchi, Tomoko Oku, Yuka Motohashi, Toshio Sato
Effect of differing tip shapes of double-lumen catheter on sticking to the vessel wall with system for quantitative assessment of sticking phenomenon	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Construction of chamber for formation of a simulated microcoagulation to determine optimum shape of venous air trap chamber	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Construction of vascular stenosis model with artificial vessels and investigation of a new method for assessment of vascular access function	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunya Ando, Yoshimasa Shine, Yuka Motohashi, Toshio Sato
Investigation of methods for coagulate formation in simulations of hemodialytic blood coagulation	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yukino Noguchi, Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Toshio Sato

(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等 (共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE : Oral Session Award」 Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonated water and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会、日本生体医工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員
2017年5月～現在	日本医工学治療学会 特別理事

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年 : 1959 (昭和34) 年
 在籍 : 1999 (平成11) 年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : 光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野 : 信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職 : 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 学内役職等 : 教務委員 (工学系学部) (2003～2012)
 規程検討委員会委員 (2008～2015)
 おもしろ理科教室実行委員会委員 (2009～) 委員長
 入試・広報センター (2013～2015)、
 アドミッション委員 (2012～2015)
 大学入試センター試験 試験場本部 統括責任 (2012～2015)
 図書館運営委員 (2013～2015)
 ハラスメント対策委員 (2013)
 情報処理教育委員 (2013～)
 インディカフェ (2013～2015)
 (社) 私立大学情報教育協会 (2013～) 窓口
 (電算事故調査委員会委員 (2015))
 学生部長 (2016)、学生委員会 (委員長) (2016～)
 文化教育推進本部 (2016～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 電気学会論文発表賞 (1992)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月 2015年4月 2016年4月 2017年4月 2018年4月 2019年4月 2020年4月	毎年新生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理 I 物理 II	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月 2014年4月および9月 2015年4月および9月 2016年4月および9月 2017年4月および9月 2018年4月および9月 2019年4月および9月 2020年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理 I」、「物理 II」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理 I は静力学、物理 II は電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。

システム工学	2017年4月 2018年4月 2019年4月 2020年4月	生命医工学科および臨床工学科の2年次科目「システム工学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。
医用工学総論Ⅰ、Ⅱサブテキスト	2017年4月および9月 2018年4月および9月 2019年4月および9月 2020年4月および9月	医用工学総論Ⅰサブテキストは、第2種ME試験対策として作成した。また、医用工学総論Ⅱサブテキストは、臨床工学技士国家試験対策として作成した。
力学	2017年4月 2018年4月 2019年4月 2020年4月	臨床工学科2年次科目「力学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。
電磁気学	2017年4月 2018年4月 2019年4月 2020年4月	臨床工学科2年次科目「電磁気学」のテキストである。いままで毎回配付していたプリントを1冊にまとめ、目次や索引をつけた。

Ⅱ 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>血圧測定時に使用されるコロトコフ音には、血管年齢の情報が含まれていると考えられるが、それを利用した血管年齢推定法として、変位と速度の相空間の軌跡を利用した新しい方法を提案し、その検証を行った。その結果、20代と60代について軌跡の形状の特徴を調べており、20代に比べると、60代の方が軌跡がいびつになる傾向を見出したが、まだ、データが少ないので、今後、データを増やすとともに、同期加算平均による軌跡形状の精度向上などを目指す予定である。また、もう一つのテーマとして、非接触による新泊数や呼吸数のモニタに関する研究を行った。心拍数については、脈による皮膚の血色の微妙な変化を検出する方法、呼吸数は、サーモグラフィカメラを用いて、呼吸に伴う周囲の微妙な温度変化を計測する方法で、それぞれアプローチしている。医療関係では、もう一つ、空気圧でなく、音響放射圧を用いた眼圧測定の可能性についても検討をおこなった。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「映像の矩形分割による葉の固有振動数計測法を用いた植物の水ストレス推定」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	佐野元昭，内川千春，大平武征，白川貴志，中川裕，杉本恒美	109-114頁
「画像解析による植物の葉の固有振動数計測」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢 第40号	内川千春，杉本恒美，佐野元昭，大平武征，中川裕，白川貴志	115-119頁
「小松菜を定植した培養土中の音波伝搬速度と体積含水率の検討(Ⅲ)」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	大平武征，杉本恒美，佐野元昭，白川貴志，中川裕，内川千春	129-132頁
「縦挿し型送受信機を用いた土壌中の伝搬速度計測(Ⅳ)」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	白川貴志，大平武征，内川千春，中川裕，佐野元昭，杉本恒美	133-136頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「Study on intraocular pressure measurement using acoustic radiation pressure」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F, Toin University of Yokohama	Margarette Kozuka, Motoaki Sano
「Study on non-contact measurement of respiratory rate」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F, Toin University of Yokohama	Yuki Sogabe, Motoaki Sano
「Study on non-contact heart rate monitor」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F, Toin University of Yokohama	Hajime Nagasawa, Motoaki Sano
「Study on estimation of blood vessel age by video image」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F, Toin University of Yokohama	Ryo Takenami, Motoaki Sano
「音響放射圧を用いた眼圧測定の基礎検討」 Basic study on intraocular pressure measurement using acoustic radiation pressure	2019年11月25日	超音波シンポジウム (USE2019) 明治大学、アカデミーコモン The 40th Symposium on UltraSonic Electronics (USE 2019) Academy common, Meiji University	小塚マーガレット, 佐野元昭
「音響放射圧による眼圧測定の基礎研究」	2020年3月16日	音響春季研究発表会2020年 春季講演発表会 埼玉大学（誌上開催）	小塚マーガレット, 佐野元昭

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会、日本生物環境工学会

竹内 真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年 : 1956 (昭和31) 年
 在籍 : 1994 (平成6) 年4月～
 最終学歴 : 武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻

学位 : 博士 (工学)
 学位論文 : 信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究 (修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging (博士)

専門分野 : 超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学

前職 : (株)トキメック研究開発センター計測電子システム部副主事

学内役職等 : 医用工学部臨床工学科長 (2012～2017)
 学務部副部長 (2010・2011)

留資格 :
 学格 : 第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者 (伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格

非常勤講師 : 日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・理学療法士学科、看護学科、作業療法士学科

受賞・表彰 : 第51回注目発明に選定 (超音波流量測定方法およびその装置)、日本超音波医学会・超音波工学フェロー、電子情報通信学会・シニア会員、2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞、2002年度材料技術研究協会技術賞、2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞、2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞、Japanese Journal of Applied Physics : “Spotlight Paper”, 2015年11月6日、第36回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウムにおいて超音波シンポジウム論文賞を受賞 (2015年11月6日)

I 研究活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
医用超音波工学のテキスト		特に、本年度はテキストと問題集を一冊の冊子にまとめることができた。
システム安全工学のテキスト		
生体計測装置学のテキスト		
生体物性工学のテキスト		

電気工学Aクラス用オンライン講義テキスト 2020年度版	2020年4月	新型コロナウイルス感染対策を目的としたオンライン授業用にパワーポイントのテキストを作成した。電気回路に変形や簡単化、式の変形などを従来よりも丁寧に解説することでオンラインでも受講生がついてこれるように格別に配慮した。
医用超音波工学用オンライン講義テキスト 2020年度版	2020年4月	新型コロナウイルス感染対策を目的としたオンライン授業用にパワーポイントのテキストを作成した。従来よりも丁寧に解説することでオンラインでも受講生がついてこれるように格別に配慮した。受講学生の中に耳の不自由な人がいたこともあり、パワーポイントとオンラインのライブ形式（同期型）だけの授業では不安だったので、事前にパワーポイントをpdf化したファイルと、パワーポイントのレーザーポインタの動きおよび音声付き動画のmp4ファイルを配信した。
システム安全工学用オンライン講義テキスト 2020年度版	2020年4月	新型コロナウイルス感染対策を目的としたオンライン授業用にパワーポイントのテキストを作成した。従来よりも丁寧に解説することでオンラインでも受講生がついてこれるように格別に配慮した。受講学生の中に耳の不自由な人がいたこともあり、パワーポイントとオンラインのライブ形式（同期型）だけの授業では不安だったので、事前にパワーポイントをpdf化したファイルと、パワーポイントのレーザーポインタの動きおよび音声付き動画のmp4ファイルを配信した。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
9群8編 センサ・弾性波・機構デバイス、第2章 超音波トランスデューサ、「2-1 超音波の発生と検出」	単著	2019年1月24日	電子情報通信学会、知識データベース「知識の森」	竹内真一	2-4頁
9群8編 センサ・弾性波・機構デバイス、第2章 超音波トランスデューサ、「2-2 超音波振動子」	単著	2019年1月24日	電子情報通信学会、知識データベース「知識の森」	竹内真一	5-7頁
9群8編 センサ・弾性波・機構デバイス、第2章 超音波トランスデューサ、「2-1 超音波の発生と検出」	単著	2019年1月24日	電子情報通信学会、知識データベース「知識の森」	竹内真一	5-7頁
(学術論文)					
Proposal of Structure of Adhesive Layer-free Hydrophone	共著	2019年6月	Toin University of Yokohama Research Bulletin, No. 40	Kaise Fujimaru, Shiiba Michihisa, Morishita Takeshi and Takeuchi Shinichi	87-91頁
Development and estimation of the adherent cell culture flask with acoustic window film for ultrasound irradiation to glioblastoma cells	共著	2019年6月	Toin University of Yokohama Research Bulletin, No. 40	Iwashiro Sakino, Asaoka Naoki, Onozuka Yoshifumi, Nishimura Hiroyuki and Takeuchi Shinichi	93-99頁

Development of Novel Tough Hydrophone with Sensor Head with Hydrothermally PZT Film Deposited on The Back Surface of Titanium Conical Front Plate	共著	2019年10月	Proceedings of IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2019)WePoS-30.1, October 9th 2019, Glasgow, Scotland,	Fujimaru Kaise, Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeshi Morishita, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi	WePoS-30.1
Low-intensity pulsed ultrasound promotes the expression of immediate-early genes in mouse ST2 bone marrow stromal cells	共著	05 February 2020	Journal of Medical Ultrasonics, Published on line	Yoshiaki Tabuchi, Hideyuki Hasegawa, Nobuo Suzuki, Yukihiro Furusawa, Tetsushi Hirano, Ryo Nagaoka, Shin-ichi Takeuchi, Michihisa Shiiba and Takashi Mochizuki	

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
高強度音場計測用ハイドロホンの校正のための音響導波路を用いた高強度音源の開発	2019年5月	超音波医学、S 555、Jpn J Med Ultrasonics Vol. 46 Supplement (2019)	五十嵐茂, 森下武志, 竹内真一
マウスST ₂ 骨髄間質細胞の最初期遺伝子発現に対する低出力パルス超音波の効果	2019年5月	超音波医学、S 580、Jpn J Med Ultrasonics Vol. 46 Supplement (2019)	田淵圭章, 長谷川英之, 鈴木信雄, 平野哲史, 長岡亮, 竹内真一, 椎葉倫久, 望月剛
堅牢ハイドロホン各部の固有音響インピーダンス、寸法が受波感度の周波数特性におよぼす影響 - 等価回路を用いた数値計算による検討 -	2019年9月	日本音響学会2019年秋季研究発表会講演論文集、pp. 39 -40、2019年9月（立命館大学びわこ・くさつキャンパス、滋賀）	竹内真一、貝瀬不二丸、椎葉倫久、岡田長也
音響キャビテーションが堅牢ハイドロホンに及ぼす影響の検討 - 高速ビデオカメラとレーザーシートを用いた観測 -	2019年9月	日本音響学会2019年秋季研究発表会講演論文集、pp. 41 - 42、2019年9月（立命館大学びわこ・くさつキャンパス、滋賀）	貝瀬不二丸、椎葉倫久、森下武志、岡田長也、黒澤実、竹内真一
音響キャビテーションが堅牢ハイドロホンに及ぼす影響 -高速ビデオカメラを用いたキャビテーションバブルの挙動の観測-	2019年12月	第18回日本超音波治療研究会（JSTU2019）、日本超音波医学会・超音波分子診断治療研究会共催 プログラム・抄録集、P-26、pp. 38-39、2019年12月（東京農工大学 小金井キャンパス、東京都小金井市）	貝瀬不二丸、椎葉倫久、岡田長也、森下武志、黒澤実、竹内真一
Development of Novel Tough Hydrophone with Sensor Head with Hydrothermally PZT Film Deposited on The Back Surface of Titanium Conical Front Plate	October 9th 2019	IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2019) in Glasgow, Scotland, U.K	Fujimaru Kaise, Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeshi Morishita, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
Relationship between front plate shapes of tough hydrophones and behavior of acoustic cavitation bubbles	Nov. 16th, 2019	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2019, Yokohama (2019), Nov. 16th, 2019- Yokohama, Japan	Fujimaru Kaise, Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeshi Morishita, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
Observation of acoustic cavitation bubbles in high-intensity acoustic fields using high-speed camera	Nov. 16th, 2019	TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2019, Yokohama (2019), Nov. 16th, 2019- Yokohama, Japan	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, and Shinichi Takeuchi

Evaluation of Durability of Two Types of Tough Hydrophones with Different Shapes	Nov. 16th, 2019	T0IN International Symposium on Biomedical Engineering 2019, Yokohama (2019), Nov. 16th, 2019- Yokohama, Japan	Michihisa Shiiba, Fujimaru Kaise, Nagaya Okada, Takeshi Morishita, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
Study on Analysis of Wave Propagation on Acoustic Waveguide of Dual Type Transducer Model for Coiled Stator Ultrasound Motor	Nov. 16th, 2019	T0IN International Symposium on Biomedical Engineering 2019, Yokohama (2019), Nov. 16th, 2019- Yokohama, Japan	Seiya OZEKI, Noriaki NAKANE, Toshio SATO, and Shinichi TAKEUCHI
音響キャビテーションを伴う音場内の堅牢ハイドロホンが受ける影響についての検討	2020年3月	日本音響学会2020年春季研究発表会講演論文集、pp. 41 - 42、2020年3月 (埼玉大学、埼玉県さいたま市)	貝瀬不二丸、椎葉倫久、岡田長也、森下武志、黒澤実、竹内真一
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月 (西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
超音波センサの設計 (背板、音響整合層、前面板等)	2019年8月8日	本多電子株式会社社内講演会	本多電子株式会社本社 (愛知県豊橋市)
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子株式会社	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子・奨学寄附金	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年5月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員（基礎領域・領域副責任者）
2008年5月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員
2009年4月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2009年5月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー
2015年8月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員（基礎領域・領域副責任者）
2011年4月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員（再任）
2018年5月～2019年5月	電子情報通信学会・超音波研究専門委員会・委員長
2018年5月～2019年5月	日本音響学会・超音波研究委員会・委員長
2019年4月～現在	日本超音波医学会・超音波分子診断治療研究会・運営委員
2019年5月～2020年05月	電子情報通信学会・超音波研究専門委員会・副委員長
2020年5月～現在	電子情報通信学会・超音波研究専門委員会・顧問
2019年5月～2020年5月	日本音響学会・超音波研究委員会・副委員長



出生年 : 1955 (昭和30) 年
 在籍 : 1994 (平成6) 年4月～
 最終学歴 : 長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位 : 工学博士
 学位論文 : レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能
 専門分野 : 計算科学の最適化アルゴリズム、ヒューリスティック・アルゴリズム、機械学習に興味を持つ
 前職 : 株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等 : 発明評価委員会委員長、英語村実行委員会委員、工学研究科専攻長
 留資格 :
 資 格 : アマチュア無線技士 (電話級)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : Best Paper Award, ISCIA (International Symposium on Computational Intelligence & Applications) 2017, Makala, Malaysia.

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) 学部の一部の担当科目用のホームページを作成し、授業の講義内容等を公開している	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4. その他教育活動上特記すべき事項		
(1) 日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://www.ajape.org/

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
<p>マスタ細胞を用いた免疫アルゴリズムの研究を行って、乳癌の発生の予測用の最良の属性の組み合わせの検索に使用した。また、最適な属性の組み合わせも行った。後者は、心臓病のデータベース、血液検査に基づいた乳癌の診断用の (Coimbra) データベース、細胞のデータに基づいた乳がんの診断用の (Wisconsin) データベースで評価を行って、2020年3月14日受理の2020年6月発行の桐蔭論叢で一部の結果を発表した。</p>

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
（論文）：予測方法用の最良の属性の組み合わせを抽出するマスター細胞を用いる免疫アルゴリズム	2019年6月	桐蔭論叢第40号、pp. 145-151.	鈴木優基、Palacios Pawlovsky Alberto

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE (Senior Member)、電子情報通信学会 (IEICE)、およびACMの各会員		
（社会における活動）		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NP0の日本・ペルー共生協会（東京都）	2002年から現在まで	理事長
NP0の日本・ペルー共生協会（神奈川）	2017年から	理事長

森 下 武 志 (もりした たけし) 教授



出 生 年 : 1967 (昭和42) 年
 在 籍 : 2008 (平成20) 年4月～
 最 終 学 歴 : 横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学 位 : 博士 (工学)
 学 位 論 文 : 小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専 門 分 野 : 医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学
 前 職 : 神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務
 学 内 役 職 等 : 入試広報センター副センター長
 入試広報委員会委員
 学習支援委員会インディカフェ委員長
 図書館運営委員

 留 学 : 東京大学大学院知能機械情報学系研究科 情報システム
 工学研究室 (井上・稲葉研究室) 内地留学(2003)

 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : Best Paper Award, Presented at the 22th
 International Symposium on Artificial Life and
 Robotics (AROB 2017)
 3rd International Micro-Mechanism Contest
 Excellent Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト
 (相撲ロボット自立型部門) 優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型
 サンフランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞
 (1995, 1996, 1997, 1998, 2002, 2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
(1) 資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2) 医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3) 福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
(4) 医療系学生への工作機械を用いた機械加工工学と体験的学習の指導	2013年4月～現在	医療系技術者育成における、工作物が製造されるまでの設計・製図・加工・評価の一連の流れを体験させ実践力を養う指導を実践
(5) 医療系学生への工学的実験検証体験の指導	2014年4月～現在	座学で学ぶ工学的理論を、実験によって確認させることでより深い理解力を養う指導を実践
2. 作成した教科書、教材、参考書		
電子工学テキスト	2017年4月～現在	ME検定試験、国家試験の電子系全般の問題対応力を確実に養うための、わかりやすい解説付き演習テキストの開発
医用電磁気学テキスト	2017年4月～現在	ME検定試験、国家試験の電子系全般の基礎的問題対応力を確実に養うための、わかりやすい解説付き、繰り返し学習を考慮した実践型演習テキストの開発

計測と誤差テキスト	2015年4月～現在	統計手法の原理から実践までを基礎から学べる演習問題付きの実践的テキストの開発
-----------	------------	--

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<ul style="list-style-type: none"> ・医用システム統合工学に関する研究 ・福祉環境工学に関する研究 ・ロボティクス・メカトロニクスに関する研究 					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Proposal of Structure of Adhesive Layer-free Hydrophone	共著	June 2019	Toin University of Yokohama Research Bulletin, No.40	Kaise Fujimaru, Shiiba Michihisa, Morishita Takeshi and Takeuchi Shinichi	pp. 87-91
Development of Novel Tough Hydrophone with Sensor Head with Hydrothermally PZT Film Deposited on The Back Surface of Titanium Conical Front Plate	共著	October 9th 2019,	Proceedings of IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS 2019), Glasgow, Scotland, U.K.	Fujimaru Kaise, Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeshi Morishita, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi	WePoS-30.1
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
動脈フィルター気泡除去装置の揺動振幅が気泡除去効率に与える影響調査	2019年6月6日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'19 講演論文集, 1A1-B11	松戸里紗, 森下 武志		
消化管走行カプセル駆動アクチュエーターの制御分析	2019年11月17日	第62回自動制御連合講演会'19 概要集, 1E1-01	山田 空音, 森下 武志		
動脈フィルター残留気泡除去装置の揺動周波数に関する調査	2019年11月17日	第62回自動制御連合講演会'19 概要集, 1E1-02	松戸里紗, 森下 武志		
人工心臓のローラーポンプ操作を支援する外付け簡易制御装置の試作	2019年11月17日	第62回自動制御連合講演会'19 概要集, 1E1-03	宮澤 悠太, 森下 武志		
Study on vibration frequency of removing device of arterial filter remaining bubbles	16, November, 2019	Abstracts of 14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2019	Risa MATSUDO, Takeshi MORISHITA		
Study on optimization of traveling capsule inside digestive tract	16, November, 2019	Abstracts of 14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2019	Sorane YAMADA, Takeshi MORISHITA		
Automatically controlled attachment supporting roller pump operation of a heart-lung machine	16, November, 2019	Abstracts of 14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2019	Yuta MIYAZAWA, Takeshi MORISHITA		
Development of Self-contained Autonomous lawn mowing robot	16, November, 2019	Abstracts of 14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2019	Hisaaki IIDA, Takeshi MORISHITA		

Evaluation of Durability of Two Types of Tough Hydrophones with Different Shapes” , , Nov. 16th, 2019- Yokohama, Japan	16, November, 2019	Abstracts of 14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering 2019	Michihisa Shiiba, Fujimaru Kaise, Nagaya Okada, Takeshi Morishita, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
--	--------------------	---	--

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本ロボット学会、日本機械学会、日本医療機器学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2017年～現在	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会 審査委員	
2019年9月	日本ロボット学会学術講演会 審査員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
横浜北工業会大学幹事	2015年4月～現在	横浜北工業会委員

石 河 睦 生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年 : 1976(昭和51)年
 在籍 : 2011(平成23)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランスデューサへの応用
 専門分野 : 超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、人間工学
 前職 : 東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助教
 学内役職等 :
 留学 : University of Southern California (USA) (2009年11月～2010年10月)
 資格 : 第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 2003年度材料技術研究協会学生論文賞 (2003年)
 第25回超音波エレクトロニクス基礎と応用に関するシンポジウム奨励賞 (2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
実験系授業における教材	2011年4月～現在	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～現在	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
物理学、電気工学、人間工学におけるそれぞれの教材	2013年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付
数学、微分積分学におけるそれぞれの教材	2018年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付

○その他		
(産学協同研究)		
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称
圧電単結晶を用いたプローブ試作	2018年4月～現在	株) リコー
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
Grant-in-Aid for Scientific Research(C)	2017年4月～2020年3月	科研費基盤C
生体医歯工学共同研究課題	2018年4月～2020年3月	生体医歯工学共同研究拠点

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本音響学会、精密工学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、材料技術研究協会、IEEE、MRS		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
高大連携プロジェクト	2018年11月～2019年11月	桐蔭学園

奥 知 子 (おく ともこ) 専任講師



出生年 : 1983 (昭和58) 年
 在籍 : 2018 (平成30) 年4月～
 最終学歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程修了
 学位 : 工学修士
 学位論文 : 「有限要素法 (FEM) による血液透析患者のシャント音の発生メカニズムに関する理論検討」 (修士論文)
 専門分野 : 臨床工学、生体機能代行装置学
 前職 : 戸田中央医科グループ 医療技術部 医療法人社団武蔵野会TMG宗岡中央病院 臨床工学科
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 臨床工学技士、臨床ME専門認定士、透析技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、医療情報機器コミュニケーター (MDIC)、医療情報技師、透析技能検定2級合格、第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2018 Presents Oral Session Award of Excellence

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
臨床現場で課題となっている問題点を研究テーマとし、新しい方法や器材の開発に取り組むべく基礎実験や理論解析等を実施した。特に、血液浄化療法分野に力を入れ、透析患者の血圧低下を検知するための基礎実験を実施した。また、血液透析用留置針の最適化形状に関する研究においては、留置針内の圧力を測定することを試みた。この実験結果を有限要素法解析で理論的に説明することで、2020年度からは外部に発信できるものと考えている。今後も引き続き、臨床現場に貢献できる研究を行いたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
Computational Fluid Dynamics Analysis of the Optimal Shape for Side Holes in Indwelling Needles for Hemodialysis: Comparisons of analytical and experimental results obtained for each side hole shape	共著	2019年	桐蔭論叢第40号	Tomoko Oku, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	pp. 101-107
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
バスキュラーアクセスの狭窄を模擬した擬似血管モデルにおけるシャント音の発生メカニズムの理論的検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	中根紀章、佐々木一真、奥知子、山内忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
電子聴診器で測定した維持透析患者のシャント雑音分析によるバスキュラーアクセスの非侵襲機能評価	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	関俊輔、佐々木一真、本橋由香、奥知子、山内忍、佐藤敏夫、清千布美、矢嶋博行、坂内誠、赤松真、阿岸鉄三		

嚥下調整食の炭酸強度や温度の違いによる誤嚥防止効果の定量的評価方法	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	可児雅弥、本橋由香、奥知子、山内忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三
血液凝固発生の抑圧を目的とした血液透析回路の静脈側エアトラップチャンバの最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	鈴木亮也、本橋由香、奥知子、山内忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三
シャント雑音分析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法の擬似血管狭窄モデルを用いた有効性の検証	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	佐々木一真、関俊輔、本橋由香、奥知子、山内忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三
ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象評価システムを用いたカテーテル先端形状の最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	鈴木博子、本橋由香、奥知子、山内忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三
体外循環中の血液吸光度の連続モニタリングによる回路内血液凝固検出方法の基礎検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）	佐藤敏夫、坂元英雄、本橋由香、奥知子、山内忍、阿岸鉄三
嚥下音の時間-周波数解析に基づく嚥下リハビリテーション効果の定量的評価の試み	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会、立命館大学（滋賀県草津市）	可児雅弥、佐藤敏夫、奥知子、本橋由香、山内忍
血液透析患者のシャント雑音解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法と超音波エコー法との比較検討	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会、立命館大学（滋賀県草津市）	佐々木一真、関俊輔、佐藤敏夫、奥知子、本橋由香、山内忍
Effectiveness of vascular access function assessment by shunt murmur analysis as compared with ultrasonic pulse-echo assessment	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonated water and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
A new method for monitoring blood removal failure through time-frequency analysis of backflow murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuto Moriya, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Usability of numerical computation about mechanism of generating shunt murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Computational fluid dynamics analysis of straight type and high flow type in indwelling needles for hemodialysis -comparison of analysis and experimental results for each	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Verification of effectiveness of vascular access function assessment by normalized cross-correlation coefficient from shunt murmur obtained by electronic stethoscope	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Evaluation of post-maintenance misalignment of a pressurization pump in a dialysis patient monitoring device based on vibration measurement and fast fourier transform analysis	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kosuke Sekine, Shinobu Yamauchi, Tomoko Oku, Yuka Motohashi, Toshio Sato
Effect of differing tip shapes of double-lumen catheter on sticking to the vessel wall with system for quantitative assessment of sticking phenomenon	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Construction of chamber for formation of a simulated microcoagulation to determine optimum shape of venous air trap chamber	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Investigation of methods for coagulate formation in simulations of hemodialytic blood coagulation	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yukino Noguchi, Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Toshio Sato
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE : Oral Session Award」 Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonatedwater and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本臨床工学技士会、神奈川県臨床工学技士会、日本透析医学会、日本生体医工学会、日本医工学治療学会、日本人工臓器学会

本 橋 由 香 (もとはし ゆか) 専任講師



出 生 年 : 1982 (昭和57) 年
 在 籍 : 2009 (平成21) 年4月～
 最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻博士後期課程修了
 学 位 : 博士 (工学)
 学 位 論 文 : 生体音の時間-周波数解析に基づく非侵襲診断方法に関する研究ーバスキュラーアクセス及び嚙下機能評価への適応ー
 専 門 分 野 : 生体計測、臨床工学
 前 職 : 桐蔭横浜大学職員
 学 内 役 職 等 :
 留 学 資 格 : 第2種ME技術実力検定試験合格 (2002)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 桐蔭工学会賞 (2007)
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会, 第16回日本生活支援工学会大会, 日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2017年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年 (2017年度3年次学生) のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>2019年度は、血液浄化療法など臨床工学技士が活躍する臨床現場で必要となる課題に対する研究を進めることができた。まず、血液透析患者のシャント音の変化を用いた新しいバスキュラーアクセス機能評価方法の検討では、従来は臨床現場で医療従事者が経験的に血管狭窄率とシャント音の音響特性の関係を提唱してきたが、実験的に検証した例はなく、我々が初めて実験上で柔軟なチューブを用いたバスキュラーアクセスモデルを作製することで、その関連性を定量的に明らかにした。また、嚙下音から嚙下機能をスクリーニングする新しい評価方法の検討では、飲食物の違いによって嚙下音が変化することや、嚙下機能が低下した患者に提供する食事形態を適切に設定するための指標づくりなど、より臨床・介護現場のニーズに応える研究を行うことができた。これらの成果は、臨床現場でも役立つ研究成果であり、「医工学治療」に原著論文として投稿し、既に掲載されている。また、各学会でも報告しているように血液浄化療法に関連する医療材料の最適化やモニタリング方法の提案も継続して行っており、メーカーや医療現場が必要とするニーズに応える研究活動を今後も実施していきたい。</p>					
○著書・論文等					
(学術論文)					
Computational Fluid Dynamics Analysis of the Optimal Shape for Side Holes in Indwelling Needles for Hemodialysis: Comparisons of analytical	共著	2019年6月	桐蔭論叢第40号	Tomoko Oku, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	pp.101-107
嚙下音分析に基づく非侵襲的かつ簡便な嚙下機能検査方法の提案 — 冷却炭酸水の嚙下機能改善効果に対する定量評価の試み—	共著	2020年3月	医工学治療Vol. 32 No. 1	可児雅也、奥 知子、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.12-25
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
バスキュラーアクセスの狭窄を模した擬似血管モデルにおけるシャント音の発生メカニズムの理論的検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	中根紀章、佐々木一真、奥 知子、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
電子聴診器で測定した維持透析患者のシャント雑音分析によるバスキュラーアクセスの非侵襲機能評価	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	関 俊輔、佐々木一真、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、清 千布美、矢嶋博行、坂内 誠、赤松 真、阿岸鉄三		
嚙下調整食の炭酸強度や温度の違いによる誤嚙防止効果の定量的評価方法	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	可児雅弥、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
血液凝固発生の抑圧を目的とした血液透析回路の静脈側エアトラップチャンバの最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	鈴木亮也、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
シャント雑音分析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法の擬似血管狭窄モデルを用いた有効性の検証	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	佐々木一真、関 俊輔、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象評価システムを用いたカテーテル先端形状の最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	鈴木博子、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
体外循環中の血液吸光度の連続モニタリングによる回路内血液凝固検出方法の基礎検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター (沖縄県宜野湾市)	佐藤敏夫、坂元英雄、本橋由香、奥 知子、山内 忍、阿岸鉄三		
シャント雑音の周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価	2019年6月28日～6月30日	第64回日本透析医学会学術集会総会、パシフィコ横浜他 (神奈川県横浜市)	坂内 誠、清 千布美、矢嶋博行、赤松 真、佐々木一真、関 俊輔、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
嚙下音の時間-周波数解析に基づく嚙下リハビリテーション効果の定量的評価の試み	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会、立命館大学 (滋賀県草津市)	可児雅弥、佐藤敏夫、奥 知子、本橋由香、山内 忍		
血液透析患者のシャント雑音解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法と超音波エコー法との比較検討	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会、立命館大学 (滋賀県草津市)	佐々木一真、関 俊輔、佐藤敏夫、奥 知子、本橋由香、山内 忍		

Effectiveness of vascular access function assessment by shunt murmur analysis as compared with ultrasonic pulse-echo assessment	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonated water and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
A new method for monitoring blood removal failure through time-frequency analysis of backflow murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuto Moriya, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Usability of numerical computation about mechanism of generating shunt murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Computational fluid dynamics analysis of straight type and high flow type in indwelling needles for hemodialysis -comparison of analysis and experimental results for each type-	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Verification of effectiveness of vascular access function assessment by normalized cross-correlation coefficient from shunt murmur obtained by electronic stethoscope	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Evaluation of post-maintenance misalignment of a pressurization pump in a dialysis patient monitoring device based on vibration measurement and fast fourier transform analysis	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kosuke Sekine, Shinobu Yamauchi, Tomoko Oku, Yuka Motohashi, Toshio Sato
Effect of differing tip shapes of double-lumen catheter on sticking to the vessel wall with system for quantitative assessment of sticking phenomenon	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Construction of chamber for formation of a simulated microcoagulation to determine optimum shape of venous air trap chamber	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Construction of vascular stenosis model with artificial vessels and investigation of a new method for assessment of vascular access function	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunya Ando, Yoshimasa Shine, Yuka Motohashi, Toshio Sato

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE : Oral Session Award」 Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonatedwater and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本人工臓器学会、日本音響学会、日本生体医工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2013年1月1日～2020年12月31日	日本医工学治療学会 評議員

山内 忍 (やまうち しのぶ) 専任講師



出生年：1976（昭和51）年
 在籍：2012（平成24）年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程医用工学専攻
 学位：博士（工学）
 学位論文：血液透析用留置針内の圧力分布測定に基づく側孔の最適化に関する研究
 専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 学内役職等：
 留學：
 資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会, 第16回日本生活支援工学会大会, 日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞
 2017年日本人工臓器学会 第55回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
第2種ME技術実力検定試験合格に向けた学習促進および合格者増加のためのプログラム	2018年4月～	臨床工学技士国家試験および第2種ME技術実力検定試験対策として、主に担当学年のモチベーション向上および実力養成を目的としたプログラムを企画・運営している。毎月1回の模擬試験実施に加え、新たに自己分析シートを導入した。そして、学生自身が作成した模擬試験結果に対する自己分析シートに沿って個別相談を実施し、学習項目の抽出や進捗状況などを把握することで各種資格試験対策を充実させている。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
2019年度は、血液浄化療法など臨床工学技士が活躍する臨床現場で必要となる課題に対する研究を進めることができた。まず、血液透析患者のシャント音の変化を用いた新しいバスキュラーアクセス機能評価方法の検討では、従来は臨床現場で医療従事者が経験的に血管狭窄率とシャント音の音響特性の関係を提唱してきたが、実験的に検証した例はなく、我々が初めて実験上で柔軟なチューブを用いたバスキュラーアクセスモデルを作製することで、その関連性を定量的に明らかにした。また、嚥下音から嚥下機能をスクリーニングする新しい評価方法の検討では、飲食物の違いによって嚥下音が変化することや、嚥下機能が低下した患者に提供する食事形態を適切に設定するための指標づくりなど、より臨床・介護現場のニーズに応える研究を行うことができた。これらの成果は、臨床現場でも役立つ研究成果であり、「医工学治療」に原著論文として投稿し、既に掲載されている。また、各学会でも報告しているように血液浄化療法に関連する医療材料の最適化やモニタリング方法の提案も継続して行っており、メーカーや医療現場が必要とするニーズに応える研究活動を今後も実施していきたい。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Computational Fluid Dynamics Analysis of the Optimal Shape for Side Holes in Indwelling Needles for Hemodialysis: Comparisons of analytical and experimental results obtained for each side hole shape	共著	2019年6月	桐蔭論叢第40号	Tomoko Oku, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	pp.101-107
嚙下音分析に基づく非侵襲的かつ簡便な嚙下機能検査方法の提案ー冷却炭酸水の嚙下機能改善効果に対する定量評価の試みー	共著	2020年3月	医工学治療Vol. 32 No. 1	可児雅也、奥 知子、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三	pp.12-25
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
バスキュラーアクセスの狭窄を模擬した擬似血管モデルにおけるシャント音の発生メカニズムの理論的検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)	中根紀章、佐々木一真、奥 知子、山内 忍、本橋由香、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
電子聴診器で測定した維持透析患者のシャント雑音分析によるバスキュラーアクセスの非侵襲機能評価	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)	関 俊輔、佐々木一真、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、清 千布美、矢嶋博行、坂内 誠、赤松 眞、阿岸鉄三		
嚙下調整食の炭酸強度や温度の違いによる誤嚙防止効果の定量的評価方法	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)	可児雅弥、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
血液凝固発生の抑圧を目的とした血液透析回路の静脈側エアトラップチャンバの最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)	鈴木亮也、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
シャント雑音分析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法の擬似血管狭窄モデルを用いた有効性の検証	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)	佐々木一真、関 俊輔、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象評価システムを用いたカテーテル先端形状の最適化検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)	鈴木博子、本橋由香、奥 知子、山内 忍、佐藤敏夫、阿岸鉄三		
体外循環中の血液吸光度の連続モニタリングによる回路内血液凝固検出方法の基礎検討	2019年6月6～8日	第58回日本生体医工学会大会、沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)	佐藤敏夫、坂元英雄、本橋由香、奥 知子、山内 忍、阿岸鉄三		
嚙下音の時間-周波数解析に基づく嚙下リハビリテーション効果の定量的評価の試み	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会、立命館大学(滋賀県草津市)	可児雅弥、佐藤敏夫、奥 知子、本橋由香、山内 忍		
血液透析患者のシャント雑音解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価法と超音波エコー法との比較検討	2019年9月4日～6日	日本音響学会 2019年秋季研究発表会、立命館大学(滋賀県草津市)	佐々木一真、関 俊輔、佐藤敏夫、奥 知子、本橋由香、山内 忍		
Effectiveness of vascular access function assessment by shunt murmur analysis as compared with ultrasonic pulse-echo assessment	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi		

Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonated water and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
A new method for monitoring blood removal failure through time-frequency analysis of backflow murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuto Moriya, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Usability of numerical computation about mechanism of generating shunt murmur	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Computational fluid dynamics analysis of straight type and high flow type in indwelling needles for hemodialysis -comparison of analysis and experimental results for each type-	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Naoya Shimazaki
Verification of effectiveness of vascular access function assessment by normalized cross-correlation coefficient from shunt murmur obtained by electronic stethoscope	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shunsuke Seki, Kazuma Sasaki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Evaluation of post-maintenance misalignment of a pressurization pump in a dialysis patient monitoring device based on vibration measurement and fast fourier transform analysis	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Kosuke Sekine, Shinobu Yamauchi, Tomoko Oku, Yuka Motohashi, Toshio Sato
Effect of differing tip shapes of double-lumen catheter on sticking to the vessel wall with system for quantitative assessment of sticking phenomenon	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Hiroko Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
Construction of chamber for formation of a simulated microcoagulation to determine optimum shape of venous air trap chamber	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Ryoya Suzuki, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
○講演会・研修会・セミナー講師			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「AWARD OF EXCELLENCE : Oral Session Award」 Quantitative assessment of swallowing reflex induced in swallowing cooled carbonated water and water jelly	2019年11月16日	14th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Tomoko Oku, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会、日本医工学治療学会

宮 坂 力 (みやさか つとむ) 特任教授



出生年 : 1953 (昭和28) 年
 在籍 : 2001 (平成13) 年12月～
 最終学歴 : 東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位 : 工学博士
 学位論文 : 光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野 : 光電気化学、環境エネルギー化学
 前職 : 富士写真フィルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等 : 研究科長 (2006-2009)、研究推進部長 (2009-2012)
 留学 : カナダ・ケベック大学トアリビュール校生物物理学科 (1979～1980)
 資格 : 危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰 : 光化学協会 Special Lectureship Award (2019年7月)
 応用物理学会業績賞 (2019年3月)
 加藤記念賞 (2018年10月)
 クラリベートアナリティクス引用栄誉賞 (2017年9月)
 日本化学会賞 (2017年3月)
 PVSEC Hamakawa賞 (2017年11月)
 日本学術振興会175委員会 イノベティブPV賞 (2013年)
 日本写真学会 学術賞 (2012年5月)
 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)文部科学大臣賞 (2009年3月)
 横浜市ビジネスプランコンテスト・アカデミー賞 (2004年)
 化学技術戦略推進機構 アカデミアショーケース (2002年)

II 研究活動

○2018年度の研究活動概略					
有機無機ペロブスカイト材料を用いる光電変換ならびに太陽電池素子の技術開発に注力する研究活動を行い、大学院工学研究科博士課程の学生の指導、外部研究資金による研究プロジェクトに参画する博士研究員の指導を行った。科研費研究において基盤研究Bの課題「有機金属ペロブスカイトのメソ構造体ハイブリッド化による物質変換と高機能化」ならびに科学技術推進機構 (JST) -ALCAのプロジェクトにおいて「有機無機ペロブスカイトを用いる塗布型太陽電池の高効率化開発」の研究課題を終了して、最終報告を提出した。一方で、JAXAとの共同研究プロジェクトとして「宇宙環境へ向けた高効率・低コスト・軽量薄膜ペロブスカイト太陽電池デバイスの高耐久化開発」を推進した。これらの研究成果を国際学会の招待講演において多数報告するとともに、原著論文ならびに総説をおよそ20件の学術雑誌に出版した。また、国際交流においてはJSPSの二国間交流共同研究事業において、ロシアのサンクトペテルスブルク大学、イタリアの研究機関CNRとの交流研究を実施し、若手研究者の出張派遣を通じて共同研究を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
ペロブスカイト太陽電池の躍進	単著	2019年6月	金属, 2019, 89	宮坂 力	46-52
ペロブスカイト太陽電池の発見の背景と学際研究の推進	単著	2019年7月10日	応用物理, 2019, 88	宮坂 力	432-436
常識を超えるペロブスカイト太陽電池の躍進*	単著	2019年11月20日	成形加工, 2019, 31	宮坂 力	456-457

(学術論文)					
Bilayer chlorophyll derivatives as efficient hole-transporting layers for perovskite solar cells	共著	2019年6月12日	Mater. Chem. Front., 3	N. Li, C. Dall'Agnese, W. Zhao, S. Duan, G. Chen, S. Sasaki, H. Tamiaki, Y. Sanehira, T. Miyasaka and X. -F. Wang	2357-2362
Surface-modified metallic Ti3C2Tx MXene as electron transport layer for planar heterojunction perovskite solar cells	共著	2019年9月16日	Adv. Funct. Mater., 29, 46	L. Yang, C. Dall'Agnese, Y. Dall'Agnese, G. Chen, Y. Gao, Y. Sanehira, A. K. Jena, X. -Feng Wang, Y. Gogotsi, and T. Miyasaka	1905694, 1-8
Photomultiplier visible light detection by halide perovskite nanoparticles hybridized with an organo eu complex	共著	2019年9月19日	J. Phys. Chem. Lett., 10	A. Ishii, A. K. Jena, and T. Miyasaka	5935-5942
Benzodithiophene-thienopyrroledione-thienothiophene-based random copolymeric hole transporting material for perovskite solar cell	共著	2019年9月13日	Chem. Engineering J., 382	V. S. Murugesan, R. Michael, A. K. Jena, J. -W. Kang, N. H. Kim, H. Segawa, T. Miyasaka and J. H. Lee	122830
Perovskite Solar Cells: Can We Go Organic - Free, Lead - Free, and Dopant - Free?	共著	2019年10月7日	Adv. Energy Mater.	T. Miyasaka, A. Kulkarni, G. M. Kim, S. Oez, and A. K. Jena	1902500
Proton irradiation tolerance of high-efficiency perovskite absorbers for space applications	共著	2019年10月27日	J. Phys. Chem. Lett., 10	S. Kanaya, G. M. Kim, M. Ikegami, T. Miyasaka, K. Suzuki, Y. Miyazawa, H. Toyota, K. Osonoe, T. Yamamoto and K. Hirose	6990-6995
Tetrahydrofuran as an oxygen donor additive to enhance stability and reproducibility of perovskite solar cells fabricated in high relative humidity (50%) atmosphere	共著	2019年11月22日	Energy Technology	B. Chaudhary, A. Kulkarni, A. K. Jena, M. Ikegami, and T. Miyasaka	1900990
Investigating the growth of CH3NH3PbI3 thin films on RF-Sputtered NiOx for inverted planar perovskite solar cells: effect of CH3NH3+ halide additives versus CH3NH3+ halide vapor annealing	共著	2019年12月20日	Adv. Mater. Interfaces	N. Pant, A. Kulkarni, M. Yanagida, Y. Shirai, T. Miyasaka, and K. Miyano	1901748, 1-10
MACl - assisted ge doping of Pb - Hybrid perovskite: A universal route to stabilize high perovskite solar cells	共著	2020年1月12日	Adv. Energy Mat.	G. M. Kim, A. Ishii, and T. Miyasaka	1903299

Femto- to microsecond dynamics of excited electrons in a quadruple cation perovskite	共著	2020年1月31日	ACS Energy Letters, 5	E. Jung, K. Budzinauskas, S. Oez, F. Uenlue, H. Kuhn, J. Wagner, D. Grabowski, B. Klingebiel, M. Cherasse, J. Dong, P. Aversa, P. Vivo, T. Kirchartz, T. Miyasaka, P. H. M. van Loosdrecht, L. Perfetti, and S. Mathur	785-792
Single-phase brookite TiO ₂ nanoparticle bridge enhances the stability of perovskite solar cells	共著	2020年2月10日	Sustainable Energy Fuels, 4	Md. Shahiduzzaman, A. Kulkarni, S. Visal, L. Wang, M. Nakano, M. Karakawa, K. Takahashi, S. Umezu, A. Masuda, S. Iwamori, M. Isomura, T. Miyasaka, K. Tomita and T. Taima	2009-2017
Low-temperature synthesized Nb-doped TiO ₂ electron transport layer enabling high-efficiency perovskite solar cells by band alignment tuning	共著	2020年3月9日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 12	Y. Sanehira, N. Shibayama, Y. Numata, M. Ikegami, and T. Miyasaka	15175-15182
Lead(II) propionate additive and a dopant-free polymer hole transport material for CsPbI ₂ Br perovskite solar cells	共著	2020年3月24日	ACS Energy Lett., 5	S. Oez, A. K. Jena, A. Kulkarni, K. Mouri, T. Yokoyama, I. Takei, F. Uenlue, S. Mathur, and T. Miyasaka	1292-1299
Sensitized Yb ³⁺ luminescence in CsPbCl ₃ film for highly efficient near - infrared light - emitting diodes	共著	2020年1月21日	Advanced Science, 7	A. Ishii, and T. Miyasaka	1903142
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Present status and next important challenge of perovskite photovoltaics towards industrialization	2019年4月23日	MRS Spring Meeting 2018, Phoenix Convention Center, Phoenix, USA (国際会議 invited talk)	T. Miyasaka		
Focusing key directions of perovskite photovoltaic R&Ds towards industrialization	2019年5月13日	11th International Conference on Hybrid and Organic Photovoltaics (HOPV), Rome, Italy (国際会議 invited key note lecture)	T. Miyasaka		

Stabilizing perovskite solar cells with MA-free/all inorganic absorbers and dopant-free carrier transporters	2019年6月20日	The 8th Sungkyun International Solar Forum (SISF 2018), Korea (国際会議 invited talk)	T. Miyasaka
Current progress and next challenge of perovskite photovoltaics towards industrialization	2019年6月22日	The 7th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Materials and Related Nanotechnologies (EM-NANO 2019), Nagano, Japan (国際会議 invited key note lecture)	T. Miyasaka
Performance deterioration and stability Issues with organic-inorganic hybrid and all-inorganic perovskite solar cells	2019年6月26日	10th International Conference on Materials for Advanced Technologies (ICMAT-NHSC), Singapore	A. K. Jena, T. Miyasaka
Next directions of compositional engineering in perovskite photovoltaics towards industrialization	2019年6月26日	10th International Conference on Materials for Advanced Technologies (ICMAT-NHSC), Singapore (国際会議 invited talk)	T. Miyasaka
Progress of lead halide perovskite solar cells and next directions of research with all inorganic perovskites	2019年9月2日	The 16th International Conference on the Coordination and Organometallic Chemistry of Germanium, Tin and Lead (ICCOG-GTL16), Saitama, Japan (国際会議 invited plenary lecture)	T. Miyasaka
ハライドペロブスカイトを用いる太陽電池の高効率化と耐久性開発	2019年10月9-11日	第38回電子材料シンポジウム (EMS)、THE KASHIHARA	宮坂 力
Progress and Future Perspectives of Photovoltaics Based on Organic Inorganic Halide Perovskites	2019年9月12日	2019年光化学討論会、名古屋大学東山キャンパス (JPA Special Lectureship Award 2019)	宮坂 力
ペロブスカイト太陽電池の電子輸送層に向けたスズ酸塩薄膜の合成	2019年9月19日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	實平 義隆、沼田 陽平、池上 和志、宮坂 力
音響エネルギー式インクジェット法による有機無機ペロブスカイト結晶層の成膜	2019年9月20日	第80回応用物理学会秋季学術講演会、北海道大学	塚本 絢穂、石河 睦生、遠藤 聡人、安井 伸太郎、池上 和志、宮坂 力
Highly sensitive photodetector based on a metal complex hybridized structure with perovskite nanoparticles	2019年12月12日	Materials Research Meetings (MRM) 2019, Yokohama, Japan	A. Ishii, , A. K. JENA, and T. Miyasaka

Progress of lead halide perovskite solar cells and next directions of research by compositional engineering	2019年12月12日	Materials Research Meetings (MRM) 2019, Yokohama, Japan (国際会議 invited talk)	T. Miyasaka
Highly efficient near-Infrared luminescence of Yb(III) doped perovskite thin films for light-emitting device applications	2020年1月21日	Asia-Pacific International Conference on Perovskite, Organic Photovoltaics and Optoelectronics (IPEROP) 2020, Tsukuba, Japan	A. Ishii and T. Miyasaka
Next generation of perovskite PV with all-inorganic absorbers and dopant-free hole transporters	2020年1月21日	Asia-Pacific International Conference on Perovskite, Organic Photovoltaics and Optoelectronics (IPEROP) 2020, Tsukuba, Japan (国際会議 invited talk)	T. Miyasaka
(ポスター) Brookite TiO ₂ nanoparticle bridge boosts the stability of perovskite solar cells	2020年1月22日	Asia-Pacific International Conference on Perovskite, Organic Photovoltaics and Optoelectronics (IPEROP) 2020, Tsukuba, Japan	Md. Shahiduzzaman, A. Kulkarni, M. Nakano, M. Karakawa, K. Takahashi, S. Umezu, A. Masuda, S. Iwamori, M. Isomura, K. Tomita, T. Miyasaka, and T. Taima
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月 (西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
理工の応用化学科から発展した光発電の研究	2019年7月6日	早稲田大学応用科学会第33回交流会講演会	早稲田大学・57号館2階201教室
有機無機ペロブスカイト太陽電池の創製と高効率化	2019年12月16日	人工光合成化学プロセス技術研究組合 (ARPCHEM) 全体会議	東京大学農学部 弥生講堂・一条ホール
ペロブスカイト太陽電池ならびに周辺素子の最新技術・動向と産業化の展望	2019年12月19日	サイエンス・テクノロジーセミナー	東京・大田区蒲田 大田区産業プラザ

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
JPA Special Lectureship Award 2019	2019年9月12日	2019年光化学討論会	宮坂 力
第52回市村学術賞功績賞	2020年3月24日	公益財団法人 市村清新技術財団	宮坂 力
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
JAXA探索ハブ研究プロジェクト、「宇宙環境へ向けた高効率・低コスト・軽量薄膜ペロブスカイト太陽電池デバイスの高耐久化開発」に関する共同研究	2017年～現在	科学技術振興機構(JST)-JAXA共同研究プロジェクト	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
研究最前線「軽くて曲がる太陽電池」	2019年5月16日(朝刊)	読売新聞	
「光センサー、1ボルトで2900倍増幅」	2019年10月16日	日経産業新聞	

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

佐藤 豊 (さとう ゆたか) 教授



出生年 : 1962 (昭和37) 年
 在籍 : 2016 (平成28) 年4月～
 最終学歴 : 横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了
 学位 : 教育学修士
 学位論文 : 「高等学校における野外教育プログラムの効果及び評価について(横浜国立大学:教修第1930号)」(修士論文)
 専門分野 : 体育科教育学、スポーツ教育学、野外教育学
 前職 : 文部科学省スポーツ青少年局 教科調査官
 鹿屋体育大学スポーツ人文応用社会科学系教授
 学内役職等 : 教職センター長、スポーツ教育学科学科長
 留学 :
 資格 : 高等学校(保健体育)専修教員免許状
 中学校(保健体育)一種教員免許状
 学校心理士(学校心理士認定運営機構第72333号)
 非常勤講師 : 福岡教育大学、国士舘大学
 受賞・表彰 : 2018東アジアスポーツ教育学会ポスター発表最優秀賞
 体づくり運動アプリの小学校体育での導入効果(セカンド)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
単元構造図方式によるユニットプラン作成ツールを用いたグループワークによる演習授業	2009～現在	学習指導に際しての俯瞰力および観点別学習評価理解のための演習ツールを開発し、大学、現職教員研修で実施、改良を図っている。
体づくり運動授業用アプリを用いたICT活用の効果的授業の模擬授業演習	2012～現在	一斉指導、個別指導、学習評価を踏まえたアプリを開発し、モデル校における研究成果を学会等で公表した。
単元計画、模擬授業、中学校授業演習、ビデオ省察の繰り返しによる実践的指導力の育成カリキュラム	2013～現在	教育実習前の実践的指導力育成のためのカリキュラムを開発し、大学紀要で成果を公表した。保健体育実践演習Ⅱ、Ⅲ
大学版単元構造図の開発と、資質・能力評価シートの開発	2013～現在	カリキュラムポリシーに基づく15時間のユニットプラン(観点別学習評価計画)と効率的・効果的な評価シートの開発
スマート・コーチ(ソフトバンク)、体づくり運動アプリ(体ラボ)と共同した遠隔地部活動支援システム	2018～現在	教員の多忙化、外部指導者不足の中学校、高等学校の支援システムとして、横浜市内中学校において、動画ソフト及び体力づくりソフトを活用して、大学教授監修のもと大学生が遠隔地から支援する部活動指導について研究

2. 作成した教科書、教材、参考書		
目指そう、保健体育教師	2015～	杉山重利 佐藤豊 園山和夫編著 朝日出版 2015
楽しい体育理論の授業をつくろう	2017～	佐藤豊 編著
平成29年版 小学校学習指導要領改訂のポイント	2016～	楽しい体育の授業plus 明治図書編 執筆担当
平成29年版 中学校新学習指導要領の展開(保健体育)	2016～	佐藤豊編著 明治図書出版
平成30年版 高等学校学習指導要領改訂のポイント(保健体育)	2017～	佐藤豊編著 明治図書出版
中学校学習指導要領解説(保健体育)	2018～	文部科学省、解説作成協力者
高等学校学習指導要領解説(保健体育)	2019～	文部科学省、解説作成協力者
学校における水泳事故防止必携	2018～	独立行政法人日本スポーツ振興センター 執筆 https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/suiei2018/suiei2018_0.pdf
学校屋外プールにおける熱中症対策	2019～	独立行政法人日本スポーツ振興センター 執筆 https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/H30nettyuusyoolPamphlet/h30nettyuusyool.pdf
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
令和元年度全国都道府県・指定都市教育委員会学校体育担当指導主事研究協議会講師	2019. 08. 28	独立行政法人教員市営機構本部におい文部科学省主催、全国都道府県・指定都市教育委員会学校体育担当指導主事に対して、「新学習指導要領に基づく指導と評価」について講演を行った。
平成31年度体力向上マネジメント指導者養成研修 講師	2019. 06. 19	独立行政法人 教職員支援機構 つくば中央研修センター主催の事業において、保健体育のカリキュラム・マネジメントについて講演を行った。
令和元年度第58回九州地区学校体育研究発表大会	2019. 10. 23	高等学校部会(久留米シティプラザ)において、公開授業の指導講評及び講演を行った。
日本アンチドーピング機構 スポーツの価値を基盤とした授業づくりワークショップ	2020. 2. 1	国立スポーツ科学センターにおいて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたスポーツの価値を基盤とした教育についての講義及びスポーツの価値を基盤とした授業体験(体育理論)、ワークショップを開催した。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略

2019年度は、教員採用率の向上に向けて、「実践的指導力」育成に向けた近隣小中高との連携による模擬授業の実践、神奈川県内教育委員会等との連携等に尽力した。また、29、30年度学習指導要領の改訂に伴い、中学校、高等学校保健体育の改訂協力者として教育課程の基準作成に携わった。研究面では、日本体育学会、日本体育科教育学会、東アジアスポーツ教育学会(韓国)において研究成果の公表や招待講演及び大学研究紀要等を通じて論文を公開した。また、全国23カ所において、延べ1200名の現職教員、大学教員、教育委員会事務局との協働ワークショップを通じて、学習指導要領理解のための単元構造図作成、カリキュラム・マネジメント、知識構造化等新たな研修用ツールの開発を行った。さらに、韓国ソウル大学、シンガポール工科大学への体育科教育への訪問を通して、諸外国大学教員養成でのワークショップや体育科教育の現状調査を行った。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
小学校・中学校 新指導要録前文・解説と通知表の作成	共著	2019. 8	教育開発研究所	教育開発研究所編	pp52-53 pp66-67
ワンダブル・スポーツ2020-2022	編著	2019. 12	新学社	佐藤豊 編著	全336
(学術論文)					
スポーツ健康政策学部研究論文 2018年台湾における体育・保健体育科教育の現状	共著	2019. 6	桐蔭論叢40号	佐藤 豊, 青木 哲也, 三田部 勇, 四方田 健二, 木原 慎介, 清田 美紀, 佐藤 若, 岩崎 敬, 後藤 晃伸	p65-76
『学校管理下(体育活動中)における水泳事故(溺水)を防ぐために』 https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/2019seminarbooklet/2019seminarbooklet_6_kanazawa.pdf	単著	2019. 8	学校でのスポーツ事故を防ぐためにセミナー配布資料	佐藤 豊	p53-54
中学校における「ダンス」領域を手がかりにした教科「保健体育」と特別活動「体育大会」の接続に関する取組事例	共著	2019. 11	鹿屋体育大学学術研究紀要57号	梶ちかこ、佐藤豊、金高宏文	p59-67
大学教育における単元構造図を用いた授業設計方法の提案—体育系大学における「ダンス」の実技授業を例にして—	共著	2019. 11	鹿屋体育大学学術研究紀要57号	梶ちかこ、佐藤豊、金高宏文	p17-28
体育の学習評価を考える：資質・能力の3つの柱と学習評価：九州体育・保健体育ネットワーク研究会2019ファイナルin福岡	共著	2019. 12	桐蔭論叢41号	佐藤豊、高橋修一、石川泰成	p47-54
2019年における韓国体育科・保健体育科教員養成及び現職教員研修の動向	共著	2020. 3	桐蔭スポーツ科学3号	佐藤 豊, 本多 壮太郎, 木原 慎介, 浜田 幸史, 四方田 健二, 清田 美紀	p29-34
主体的・対話的で深い学びの実現に向けたスポーツの価値を基盤とした教育 https://www.school.playtruejapan.org/workshop/3547	単著	2020. 3	日本アンチドーピング機構スポーツの価値を基盤とした授業づくりワークショップ報告書2020	佐藤 豊	P9-19
『学校管理下(体育活動中)における水泳事故(溺水)を防ぐために』 https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/2019seikahoukokusyo/2019seikahoukokusyo_7_kanazawa.pdf	単著	2020. 3	学校でのスポーツ事故を防ぐために成果報告書	佐藤 豊	p122-128
日本体育科教育学会第24回大会企画ラウンドテーブル報告 体育科教育学研究	共著	2020. 3	日本体育科教育学会	佐藤 豊、友添秀則、吉野聡)、本多壮太郎、石川康成、高橋修一、大越正大、清田美紀、木原慎介、梶ちか子	p61

新学習指導要領理解のためのワークショップツールの開発：—授業設計力を高めるためのアプローチ	共著	2020. 3	体育科教育学研究	佐藤 豊、友添秀則、吉野聡)、本多壮太郎、石川康成、高橋修一、大越正大、清田美紀、木原慎介、梶ちか子	p71
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
新学習指導要領理解のためのワークショップツールの開発(授業設計力を高めるためのアプローチ) ワークショップ	2019. 7. 7	第24回体育科教育学会 ラウンドテーブル(日本女子大学)	佐藤 豊、友添秀則、吉野聡)、本多壮太郎、石川康成、高橋修一、大越正大、清田美紀、木原慎介、梶ちか子		
Overview and Issues of the 2017-2018 Courses of Study in PE in Japan Competency-based Curriculum 招待講演	2019. 8. 20	2019 韓国体育学会、体育科教育セッション(国立ソウル大学)	Yutaka Sato		
日本体育学会スポーツ社会学領域シンポジウム「学校教育におけるオリンピック・パラリンピックレガシーを問う」シンポジウム	2019. 9. 11	日本体育学会第70回大会(慶応大学)	佐藤 豊		
教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発③単元構想力を高めるワークショップツールごとの研修効果の検討(口頭発表)	2019. 9. 12	日本体育学会第70回大会(慶応大学)	佐藤豊、友添秀則、高橋修一、吉野聡、本多壮太郎、石川康成、高橋修一、日野克博、梶ちか子		
11教-12-ロ-55 中学校における「ダンス」領域における教科「保健体育」と特別活動「体育大会」の接続に関する取組事例	2019. 9. 12	日本体育学会第70回大会(慶応大学)	梶ちか子、佐藤豊、金高宏文		
The 2019 International Conference for the 8th East Asian Alliance of Sport Pedagogy Oral Presentation Chair:	2019. 9. 22	The 2019 International Conference for the 8th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (wasada)	【Room5 : 403】 22 September, 2019 13:30~14:40		
日本スポーツ教育学会 シンポジウム「共生社会の実現に向けたスポーツのあり方を問う」 司会	2019. 9. 23	日本スポーツ教育学会第39回国際大会(早稲田大学)	パネリスト 菊 幸一、田中暢子、山口 香		
学校でのスポーツ事故を防ぐために学校管理下(体育活動中)における水泳事故(溺水)を防ぐために パネリスト	2019. 10. 24	石川県地場産業振興センター(金沢市)	田名部 和裕、五十嵐 隆、北野 孝一、佐藤 豊		
学校でのスポーツ事故を防ぐために学校管理下(体育活動中)における水泳事故(溺水)を防ぐために パネリスト	2019. 11. 12	アバンセ(佐賀市)	田名部 和裕、川原 貴、渡瀬 浩介、佐藤 豊		
多様な学び方が生きる「深い学び」体育公開授業パネリスト	2019. 11. 23	第5回 日本授業UD学会 全国大会(筑波大学附属小学校)	佐藤 豊		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所		
千葉県高等学校保健体育教科主任研修会「新学習指導要領に対応した体育・保健の授業の在り方」	2019. 4. 19	千葉県教育委員会	千葉県総合スポーツセンター(千葉市)		
未来を拓く横浜の教育～社会に開かれた横浜らしい教育課程の創造～体育科、保健体育科におけるカリキュラム・マネジメントの確立	2019. 05. 10	横浜市教育委員会	横浜市健康福祉センター(横浜市)		
平成31年度 足立区立中学校教育研究会保健体育部会研修会「次期中学校学習指導要領の保健体育科における学習評価について」	2019. 06. 12	足立区立中学校教育研究会	足立区立千寿桜堤中学校(足立区)		

福岡県体育研究所 断続研修「」新学習指導要領における指導と評価」	2019. 06. 16	福岡県体育研究所	アクション福岡(福岡市)
令和元年度武道等指導充実・資質向上支援事業 体育授業指導力向上研修会「体育理論の効果的な指導と計画作成について」	2019. 06. 28	山形県教育委員会	山形県総合運動公園(天童市)
今、求められる体育・保健体育の授業づくり	2019. 08. 03	鹿児島県保健体育研究会	鹿児島市立山下小学校(鹿児島市)
令和元(2019)年度運動部活動リスクマネジメント研修会 「運動部活動におけるケガや事故について」	2019. 08. 09	栃木県教育委員会	とちぎ福祉プラザ(宇都宮市)
令和元年度 武道等指導充実・資質向上支援事業 第1回事業推進委員会	2019. 09. 13	長崎県教育委員会	長崎県庁(長崎市)
専門研修(短期研修)講座「体育の学習指導(中・高)」	2019. 10. 09	福岡県体育研究所	アクション福岡(福岡市)
富山県「授業力向上のためのアドバイザー配置事業」 第63回県中学校教育課程研究大会	2019. 10. 16-17	富山県中学校教育研究会	高岡市立福岡中学校 入善町立入善中学校
令和元年度体育・保健体育授業に役立つ研修講座 「体育理論」	2019. 10. 30	神奈川県立体育センター	神奈川県立体育センター(藤沢市)
令和元年度葛飾区立中学校体育研究部研究授業指導講評	2019. 11. 06	葛飾区立中学校教育研究会	葛飾区立桜道中学校(葛飾区)
宮崎県学校体育研究会高等学校部会指導助言	2019. 11. 15	宮崎県学校体育研究連盟	宮崎市総合体育館(宮崎市)
令和元年度鹿児島県高等学校体育部会研究大会 新学習指導要領改訂と高校保健体育への期待	2019. 11. 20	鹿児島県高等学校体育部会	霧島市立国分高等学校(霧島市)
令和元年度香川県中学校高等学校体育経営研修会 新学習指導要領の実施に向けて 「スポーツの多様な楽しみ方と共生の指導の充実」	2020. 01. 29	香川県教育委員会	香川県スポーツセンター(高松市)
平成31年度(2019年度)教育研究員 高等学校 保健体育部会研究発表会 指導助言	2020. 02. 19	東京都教育委員会	都立東村山高等学校(東村山市)
○その他			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
産学官協働によるICTを活用した部活動支援	2019. 9～	ソフトバンク株式会社、横浜市教育委員会	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
シンガポールNanyang Technological Universityにおける情報収集	2019. 6. 23-6. 27	National Sport Institute、National Institute of Education、Naitonal Youth Institute(Nanyang Technological University)	
韓国体育学会における招待講演	2019. 7. 19-7. 21	国立ソウル大学	

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
提言1「ジュニア期からのドーピングを考える」	2019. 9	東京書籍 教室の窓V05, p6-7 保健体育
社会の変化と軌を一にする「学習指導要領改訂」	2019. 3	体育科教育(大修館書店)
コラム;体力向上マネジメント	2019. 8	独立行政法人 教職員支援機構メールマガジン
中学校部活動を遠隔指導 横浜市記者発表を受けて、産学自治体連携について報道	2019. 10. 29	日本経済新聞35面
「スポーツを多様に楽しむ」資質・能力の育成	2020. 3	東京書籍 教室の窓V06, p24-25
(その他特記事項)		
スポーツ庁 鈴木大地長官 JADA(日本アンチドーピング機構) スポーツの価値教育 表敬訪問(2020. 1. 31)		
所属学会・機関・団体等の名称		
Ieasep(国際スポーツ教育学会)、日本体育学会、日本体育科教育学会、日本野外教育学会、日本体操学会、日本学校心理士会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2011年～	毎日新聞社中学校体力づくりコンテスト審査委員	
2012年～	日本スポーツ教育学会理事	
2012年～	富山県中学校教育課程研究大会 授業力向上アドバイザー	
2015年～	日本アンチドーピング機構(JADA) スポーツの価値を基盤とした教育推進協力者	
2017年～	日本スポーツ振興センター スポーツ事故防止対策協議会委員	
2017年～	横浜市教育課程推進委員会アドバイザー (保健体育)	
2017年～	神奈川県立麻生総合高等学校学校評議委員	
2017年～	神奈川県立綾瀬西高等学校学校評議委員	
2018年～	福岡県運動部活動ガイドライン作成委員会、部活動調査研究委員会 (2019～) 座長	
2018年～2019年	国立教育政策研究所中学校保健体育 評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者 (中学校保健体育主査)	
2018年～2019年	横浜市部活動の未来を考える会委員	
2019年～	横浜市学校保健審議会学校安全部会委員	
2019年～	神奈川県体センター学習評価ハンドブック作成アドバイザー	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
九州、北海道・東北、北信越、関西、中国・四国各地区での体育・保健体育に関する小中高、大学・学生による情報交換、ワークショップ (全国27会場での実施) 詳細は下記ホームページ http://kyushunt.b45.coreserver.jp/sns/pages/katudou/k-keikaku.php	2019年5月25日～2020年3月9日	体育・保健体育研究会ネットワーク研究会

谷 本 直 美 (たにもと なおみ) 教授



出生年 : 1960 (昭和35) 年
 在籍 : 2009 (平成21) 年4月～
 最終学歴 : 東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位 : 教育学修士 (東京学芸大学)
 学位論文 : シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野 : 音楽科教育 教師教育
 前職 : 東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等 : キャリア情報センター副センター長 (2013～2015)
 キャリア情報センター副センター長 (2017～2019)
 教職センター副センター長 (2020～)

 留学 :
 資格 : 小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭1種 (音楽) 司書教諭

 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～2019年12月	教科指導法 (音楽) の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱の指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもったうえで模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。2018年度後期は身体表現活動を通じた鑑賞に初めて取り組み、学生授業評価は2018年度前期が4.6/5、後期が4.4/5であった。2019年度前期は児童が音楽劇の登場人物として学生と一緒に歌うなど、それぞれ学生が児童に直接指導する場面を増やしている。後期は前年度の新たな取り組みを継続して実施し、音楽に対する子どもの反応を膨らませてグループごとに身体表現をつくった。
小学校における読み聞かせ体験	2010年6月～2019年7月	ゼミ履修学生 (3年) に子どもたちの前に立つ体験として、読み聞かせの機会を近隣小学校にいただいている。毎年「なぞなぞライオン」を扱い、なぞなぞやしりとりを通して子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする体験をさせ、児童理解と指導体験の機会としている。その発展として7月に行われる同小学校における保護者会主催の全校お楽しみ会にも読み聞かせで有志が参加し、自分達で作品を選び、脚色も加えながら練習を積んで臨んでいる。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
前年度までの科研費研究の内容を継続させて、4事例目のメンティを対象にメンタリング・プログラムを実施する。これまでのプログラム中に行った授業検討会をもとに8月に日本学校音楽教育実践学会にて発表する。その後9月に4事例目のメンティの1回目の授業検討会で実施したグループ交流をモデルケースに共同研究者と「T-cafe」を構想し、11月の日本学校教育実践学会にて発表、年度末に学会誌に投稿する。2月に2回目の授業検討会をT-cafeとして発足させる予定だったがコロナの影響により中止となった。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（学術論文）					
音楽科における授業検討会の在り方について -メンタル・モデルの気づきを促すリフレクシオン-	単著	2020年3月	学校音楽教育実践論集4	谷本直美	133-134頁
芸術教科でつながるカフェ型授業検討会の試み -メンタリング・プログラムからT-cafeの構想へ-	共著	2020年3月10日	学校教育実践ジャーナル3	谷本直美、名達英詔	21-28頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
口頭発表「音楽科における授業検討会の在り方について -メンタル・モデルの気づきを促すリフレクシオン-」	2019年8月17日	日本学校音楽教育実践学会第24回研究発表大会（畿央大学/奈良）			
口頭発表「芸術教科でつながるカフェ型授業検討会の試み -メンタリング・プログラムからT-cafeの構想へ-」	2019年11月30日	日本学校教育実践教育学会第24回研究発表大会（北海道教育大学旭川校/北海道）	谷本直美、名達英詔		
事例提供「音楽科における授業検討会の在り方について」	2020年2月23日	日本学校音楽教育実践学会第11回東京・関東支部例会（文京区立窪町小学校/東京）	谷本直美、松浦将也		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会、日本学校教育実践学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2019年4月～現在	日本学校教育実践学会評議員

林 田 はるみ (はやしだ はるみ) 教授



出生年 : 1966 (昭和41) 年
 在籍 : 2018 (平成30) 年4月～
 最終学歴 : 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了
 学位 : 博士 (スポーツ科学) 人間科学修士
 学位論文 : Influence of menstrual cycle and endurance exercise on stress and inflammatory markers in women (博士論文)
 専門分野 : 応用健康科学, 運動生理学, スポーツ理学療法
 前職 : 常葉大学健康プロデュース学部准教授
 学内役職等 : 国際交流委員, 学生委員, 自己点検評価委員, FD委員, 研究紀要編集委員会, ハラスメント相談員
 留学資格 : ラフバラ大学 (英国) (2012年5月～2013年3月)
 資格 : 理学療法士免許, 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー, 日本スポーツ協会マスター上級コーチ (エアロビック)
 非常勤講師 : 法政大学スポーツ健康学部
 受賞・表彰 : (社)日本理学療法士協会 会長賞 (1986年4月), The Korean Society of Exercise Physiology, Research Award (2010年11月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
地域在住の高齢者に対する運動指導教育の実践	2018年4月～2019年12月	・青葉区在住の高齢者を対象とした健康づくり教室において, 大学生とともに運動指導と体力測定の実践教育を行った。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
エアロビック指導教本第8刷	共著	2019年4月	日本エアロビック連盟	監修: 林田はるみ, 著者: 浅山美樹, 林田はるみほか	共同研究につき抽出不可
○その他					
(産学協同研究)					
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称			
青葉区健康づくり介護予防連絡会、特定健診受診率向上・ウォーキングワーキング	2019年4月～現在に至る	青葉福祉保健センター福祉保健課			
ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究	2019年7月～現在に至る	公益財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金			
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
女性のスポーツ活動による健康障害と酸化ストレス度	2019年4月～2022年3月	基盤研究(C) 学術研究助成基金助成金 (日本学術振興会)			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年4月～現在	(公社) 日本エアロビック連盟 指導専門委員
2010年4月～現在	日本スポーツリハビリテーション学会理事
2011年3月～現在	(公社) 日本エアロビック連盟 普及指導委員
2017年4月～現在	(公社) 日本エアロビック連盟 普及指導委員会委員長

松本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出生年 : 1952 (昭和27) 年
 在籍 : 2008 (平成20) 年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位 : 修士 (体育学)
 学位論文 : 小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ー
 チャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専門分野 : 体育科教育学
 前職 : びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等 : スポーツ健康政策学部学部長 (2016～)
 留学 :
 資格 : 保健体育教諭専修免許 (中学、高校)
 非常勤講師 : 桜美林大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
島根県教育委員会 「幼児期からの運動・体力向上指導者講習会」講師	2019年7月25日	幼小の40名の先生方が参加され、鹿島総合体育館でほぼ3時間半にわたっての実技講習・質疑応答であった。島根NHKが取材に訪れ、講習会の様子がお昼のニュース番組で2分弱に編集したものが流された。地道な取り組みが紹介されて担当の教育委員会の先生方には、一般の方々に対する何よりの活動報告となった。
島根県小学校体育研究会・夏期研修会 授業提案及び解説を担当	2019年7月26日	松江市立鹿島東小学校5年生児童17名を対象に「器械運動・マット運動」の授業を行った。授業後の協議会では主に低学年からの系統的指導についてお話しした。
学校体育研究会・夏期講習会への理事・講師の参加	2019年7月31日～8月2日	参会者160名程の第62回筑波学校体育研究会の運営等に携わった。 【7月31日終日 前日準備会・3本の投稿論文審査】 【8月1日・1日目】 全体の運営等に携わる。ボール運動(ゴール型)の実技指導(午後1時～4時)を担当。 【8月2日・2日目】 6年生の研究授業(眞榮里先生)の参観と授業後の協議会の司会、および、ボール運動・ネット型の講習(元天理大学教授・木下先生)の補助。

千葉県・長生教育研究会での講演	2019年8月5日	千葉県茂原市立豊田小学校で午後1時半より約60分、多目的ホール（空調設備有り）で、80名ほどの先生方に対して、授業づくり・新要領の解説について講演を行った。その後、60名の先生方に熱気に包まれた（流れる汗が止まらない）体育館での実技講習を行った。特筆すべきは、参会者の40%は中学校の先生方であった。内容は、器械運動につながる動き・感覚づくりを主要な内容にし、後転や側方倒立回転の指導へと発展させた。
学校体育・スポーツ事故シンポジウムでシンポジストとして参加	2019年8月24日	跳び箱の傷害事故の現状と対策について、午後2時から午後5時まで、3時間にわたって約100名の参加者があったシンポジウムである。 およそ30分のプレゼン、約1時間にわたる質疑応答であったが、時間が短い・もっと深められたという感想だが、スポーツ法学会（会員のほとんどが弁護士の方々）をはじめ、多様な分野の方々が集まってスポーツ事故について検討したということ自体が大変有意義であった。
八戸市立西白山台小学校・拡大校内研修会での授業と講演	2019年9月3日	午後11時から12時15分まで、2年3組（吉田悟学級・31名）の子どもたちと体づくり運動の授業を行った。吉田先生が心配するくらい元気の良い（落ち着きのない？）子どもたちだったが、集中して授業に取り組んでくれた。 午後、2時間弱の時間をいただいて授業づくり4つの視点・組み合わせ単元・場づくりについてお話をさせていただき、また短い時間だったが質疑応答も設けた。少しは西白山台小の研究にお役にたてたかなとは思う。
中丹教育局「健やかなからだ推進会議」に関わる講師	2019年9月13日	幼稚園・保育園の先生方15名、小学校の先生方45名、合計60名の参加で実施した、主に「体づくり運動」の実技講習会であった。幼小の連携と認識した講習会であったが、小学校の先生が多かった。また、多くの小学校の先生方は、幼稚園での健康・運動領域の内容のために運動量は大きかったことではないと考えておられたが、全員で動く・ペアで交互に動く・リレー形式で手を抜かない等のこともあってかなりの運動量であった。3時間近くの講習を通して、それぞれ取り上げた運動の意味と取り上げ方について先生方の一定の理解を深められたと考えている。
第56回北海道学校体育研究大会釧路大会での講演	2019年10月11日	体育授業づくりについて話をさせていただいたが、小学校1年生（6歳）から中学3年（15歳）という対象の幅広さであり、参会の先生方にとって意味ある話ができただろうかは難しいところであった。ただし、4つの授業（球技・器械運動各2つ）について具体的に話をしたので、その部分では参考になることもあったかと思う。10月中旬にもかかわらず、釧路の最低気温は10度を下回っていた。地域の特性にあった授業づくりの重要性を感じた。
鶴川第二小学校・校内研究会での指導	2019年10月30日	鶴川第二小学校に伺い、五年生・マット運動の授業を参観し、授業後の協議会に参加してきた。なお、日本体育大学の角屋重樹教授、町田市教育委員会・教育長職務代理人の後藤良秀氏も参加された校内研究会であった。単元計画はよく考えられていたが、前時までの学習成果が感じられない（できていることをなぞる）授業だった。具体的な成果と課題についてお話をさせていただいた。
第28回青森県小学校体育科教育研究会での講演	2019年11月7日	青森県全県から先生方が集まった研究大会の最後で、「体育授業で大切にしたいこと」というタイトルで90分時間をいただいてお話をした。八戸市の教育長もご出席されていて、まずまずのお言葉をいただいた。子どもの人間関係の重要性・それが体育の授業で育成可能であることが心に響いたとのことである。

第41回和歌山県学校体育研究大会（東牟婁大会）での講演	2019年11月15日	70分の講演（実質80分）と午後の授業参観であった。 授業は、小学校中学年・高学年・中学・高校の4本があったが、新宮高校の「体づくり運動」の授業を参観した。生徒が主体的に取り組む授業で参考になった。授業づくり・運営に際して、指導された丹羽先生の裏方でのご努力の賜であろう。やはり、教師の授業づくりへの熱意、生徒のことを考えた授業運営が大切であることを再確認した。
新潟学校体育研究会「体育授業アイデア縁日」への参加	2020年1月11日	研究会より依頼され、体づくり運動の実技講習を担当した。 私以外は体育研究会のメンバーの方々が講座を担当され、新潟市内だけでなく長岡市からの参会者もおられた。通常の体育研修会よりも女性教員や若手教員が多く参加していた、活気溢れる研修会であった。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（著書）					
楽しい体育の授業 2019年7月号 「マット運動の指導」提言	単著	2019年6月	明治図書	松本格之祐	1頁
すぐ使える！体育教材30選 小学校低学年	共著	2019年8月15日	学事出版	松本格之祐、木下光正 他	10頁
楽しい体育の授業 2019年12月号 「跳び箱運動の指導」提言	単著	2019年11月	明治図書	松本格之祐	1頁
すぐ使える！体育教材30選 小学校高学年	共著	2019年12月25日	学事出版	松本格之祐、木下光正 他	10頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～現在	研筑波学校体育研究会理事

宮 津 大 蔵 (みやづ だいぞう) 教授



出 生 年 : 1959 (昭和34) 年
 在 籍 : 2009 (平成21) 年4月～
 最 終 学 歴 : 東京学芸大学教育学部卒業
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 国語科教育学
 前 職 : 東京都公立小学校教諭
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 : 東京家政学院大学現代生活学部 (国語科教育)
 淑徳大学人文学部兼担講師 (文章表現論)
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) ソーシャルスキルワークの授業実践開発 (2) みんなと学ぶ小学校国語教科書1～6年 (学校図書) (3) みんなと学ぶ小学校国語教師用指導書1～6年 (学校図書) (4) 学校教科書単元別・到達目標と評価規準 <国語> (5) みんなと学ぶ小学校国語CD教師用指導書音声編 (6) 文部科学省後援事業 日本語検定公式練習問題集改訂版6級 (7) 小学校国語指導資料 新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫 文部科学省	2005年度版～現在	

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
<p>(1) 「読書指導と図書館利用指導」神奈川県総合教育研究センター自己研鑽のための研修講座講師</p> <p>(2) 小田原市教育研究会国語部講演講師「論理性を育てる」</p> <p>(3) 成城学園初等学校初任者研修会講演講師国語「修飾語」</p> <p>(4) 東京都武蔵村山市教育研究会講演講師「アクティブラーニングで読む国語科説明文の授業・学校図書館を活用して」</p> <p>(5) 平成20～27年度「世田谷9年教育」研究課題校「読書力の育成」</p> <p>(6) 神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表会記念講演講師「国語表現力の育成」</p> <p>(7) 平成26・27年度「世田谷9年教育」研究開発校「学校図書館の活用」世田谷区立玉川小学校研究発表会講演講師</p> <p>(8) 静岡県田方地区教育研究会夏季研修会講演講師「新しい国語科の展開と学校図書館」</p> <p>(9) 東京都東村山市教育委員会研究奨励校・東京都言語能力向上拠点校研究校北山小学校研究発表会講演講師「自分の考えをもち、深める児童の育成. ～国語 単元を貫く言語活動を通して～」静岡県伊東市教育研究会講演講師「学習指導要領における国語科指導のポイント」講演講師「正しい日本語の使い方」富山県立山町教育委員会、国立立山自然少年の家静岡県東伊豆地区（熱海市・伊東市）教科等指導リーダーによる国語授業研究会講師神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師</p>		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
<p>日本国語教育学会、日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、図書館情報学会相模原市小中学校PTA連絡協議会家庭教育事業講演会講師「『ヅカメン！お父ちゃんたちの宝塚』にみる子育て術～子どもたちがたくましく育つ親の見守り方～」</p>

亀岡 聖朗 (かめおか せいろう) 教授



出生年 : 1966 (昭和41) 年
 在籍 : 2019 (平成31) 年 4 月～
 最終学歴 : 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了
 学位 : 博士 (心理学)
 学位論文 : 「Built-Environmentに関する環境心理学的研究 -博物館施設を中心として-」 (博士論文)
 専門分野 : 教育心理学 環境心理学 社会心理学
 前職 : 桐生大学医療保健学部栄養学科 教授
 学内役職等 : キャリア情報センター副センター長
 留学 :
 資格 : 中学校教諭 1 種免許状 (社会)
 高等学校教諭 1 種免許状 (社会)
 認定心理士 (第9101号)
 学校心理士 (第235968号)
 非常勤講師 : 日本大学大学院理工学研究科 (環境心理学特論)
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
・ 大人教授業における学生との双方向性を模索した授業実践	平成31年 4 月～ 現在に至る	「教育心理学」 (平成31年 4 月～現在に至る) 「教育心理学 (初等を含む)」 令和元年10月～現在に至る 教職課程の講座で、スポーツ健康政策学部学生を中心として講義した。「青年期の発達」「学習のしくみ」「適応」「教授過程」の4つのテーマで授業内容を組み立てた。教科書として「新 発達と教育の心理学 (福村出版)」を指定した。副教材としてMSパワーポイントで作成した資料をプロジェクターで提示、プリントアウトを資料として配布・提示した。授業では、教育心理学にかかわる実験や調査も紹介し、その一部を学生に体験させて知識の定着に資するように工夫した。また各回の予習用に前の授業回の最後に次回授業にかかわる課題を、復習用にスタディペーパーとリアクションペーパーを用意、授業中に小テストを複数回実施した。さらに、復習用のスタディペーパーとリアクションペーパーに記載された質問について、次回の授業でフィードバックを行った。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
教育心理学の分野では、教職実践演習（養護教諭）における、学生の協同的な学習の様子とその効果に関する質的検討を行っている。「主体的・対話的な深い学び」が重視されるなかで、教職実践演習における学生の協同の学び合いによる能動的思考を刺激する学習の達成の様子について、学会発表（日本応用心理学会）した。また環境心理学・社会心理学の分野では、教育心理学的な関心にも基づき、大学教育における学生のソーシャル・キャピタルの質量と精神的健康との関連について検討を続ける中で、その内容の一部を論文発表（桐蔭スポーツ科学）した。今後もこれらの考察を続ける。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（学術論文）					
ソーシャル・キャピタル認知からみた大学生の人間関係が精神的健康に及ぼす影響（査読付）		2020年2月28日	桐蔭スポーツ科学, 3	亀岡聖朗	11-18頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
（ポスター）教職課程履修学生の能動的学習を活性化させる授業の在り方に関する検討-養護教諭養成課程の実践を例として-	2019年8月25日	日本応用心理学会第86回大会（日本大学商学部/東京都世田谷区）	亀岡聖朗		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、人間・環境学会（MERA）、日本環境心理学会、日本応用心理学会、日本教育心理学会、日本学生相談学会、日本心理臨床学会、日本大学心理学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年11月～現在	日本大学心理学会 運営委員会 運営委員
2019年4月～現在	日本環境心理学会 編集委員会 編集委員／編集委員長
2019年5月～現在	人間・環境学会（MERA） 人間・環境学会誌（MERA Journal）編集委員会 編集委員
2019年11月～現在	日本心理学会 認定心理士資格認定委員会 委員

中野英之 (なかの ひでゆき) 教授



出生年 : 1969年(昭和44年)5月
 在籍 : 2019年4月～
 最終学歴 : 北海道大学大学院地球環境科学研究科地圏環境科学
 専攻博士後期課程修了
 学位 : 博士(地球環境科学) (北海道大学)
 学位論文 : Experimental studies on the metamorphism of
 interstellar organic materials in the solar
 nebula and meteoritic parent bodies
 専門分野 : 理科教育, 地域生活学, 惑星科学
 前職 : 京都教育大学教育学部准教授
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 小学校教諭2種, 中学校・高等学校教諭専修(理
 科),
 高等学校教諭1種(農業), 博物館学芸員,
 学校図書館司書教諭, 神職(権正階)
 非常勤講師 : 京都教育大学大学院教育学研究科,
 京都華頂大学現代家政学部
 受賞・表彰 : 日本地学教育学会教育実践優秀賞(2009年8月)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
小学校理科教員を対象とした地層のはぎ取り標本の作製実習と火山噴火のモデル実験	共著	2019年5月	教師教育学研究, 9	中野英之, 池田顕一郎, 後藤創紀	pp. 64-74
班活動で利用できる卓上プラネタリウム“アマテラス”の開発	共著	2019年8月	科学技術コミュニケーション, 25	塚本胡美, 中野英之, 平川尚毅	pp. 33-47
沖永良部島の星砂を用いた小学校第6学年「土地のつくりと変化」の授業実践	共著	2019年12月	日本サンゴ礁学会誌, 21	山之内里駆, 中野英之, 岩崎秀幸, 森田敏治, 平川尚毅	pp. 25-32
神道の精神を学校現場に取り込み日本人としての誇りと郷土愛を醸成する教育プログラムの開発に関する基礎的研究～神道と理科教育を融合した授業実践を通して～	単著	2019年12月	浪速論叢	中野英之	
生活科の視点に立った放射線の学習展開	単著	2019年2月	人間生活文化研究, 30	中野英之	pp. 92-102
生活科のマップづくりに適した七瀬川上流域	単著	2020年3月	フォーラム理科教育	中野英之	

生活科の理念を天文分野の研究指導に活かす	単著	2020年3月	天文教育	中野英之	
対話と試行錯誤を重視した地学実験分野の教員免許更新講習の試み	共著	2020年3月	教師教育学研究, 10	中野英之, 平川尚毅, 後藤創紀	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
（ポスター）身近な化石の標本セットを100倍面白く使う～化石100点セットを用いたミニ博物館づくり～	2019年12月7日	日本理科教育学会第58回関東支部大会	花家皆, 高橋稜太		
（口頭）地学分野と外国語学習を統合したCLILベース授業の開発	2019年12月7日	日本理科教育学会第58回関東支部大会	平川尚毅		
（口頭）地域住民の知的財産を理科の授業に活かす試み	2019年12月7日	日本理科教育学会第58回関東支部大会	松村祥		
（口頭）ビスマス人工結晶作製の教材化	2019年12月7日	日本理科教育学会第58回関東支部大会	後藤創紀		
（口頭）クラス全員が解説員に！卓上天文教具“アマテラス”の開発	2019年12月7日	日本理科教育学会第58回関東支部大会	塚本胡美, 平川尚毅		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所		
教員免許更新講習「工作・実験を通して身近に感じる宇宙と地球の世界」	2019年8月7日	千葉科学大学免許更新講習			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本惑星科学会、日本地学教育学会、天文教育普及研究会、日本初等教育研究会、日本災害復興学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2020年2月～現在	天文教育普及研究会誌『天文教育』編集委員	
（主な活動内容）		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
福島県伊達市立大石小学校における理科課外授業（理科実験）	2019/7/10-11（全5時間）	
福島県伊達市立大石小学校における理科課外授業（理科実験）	2019/9/2-4日（全8時間）	
京都府木津川市立加茂小学校における理科課外授業（理科実験）	2019/11/5-6日（全8時間）	
京都府木津川市立加茂小学校における理科課外授業（理科実験）	2019/11/20日（全4時間）	
福島県伊達市立大石小学校における理科課外授業（理科実験・スポーツ科学）	2020/2/25・26日（全6時間）	

李 禧 承 (い ひすん) 准教授



出生年 : 1973(昭和48) 年
 在籍 : 2012(平成24) 年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学位 : 博士(教育学)
 学位論文 : 学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究(博士論文)
 専門分野 : 教育工学、教育方法学、教育学
 前職 : 筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 学内役職等 :
 留学 : 筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資格 : 中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非常勤講師 : 筑波大学
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
<p>学校教育におけるアクティブ・ラーニングの議論では「深い学び」の実現のための授業づくりの具体的な手立てが不十分であることを研究の現状として捉えた。そして、「深い学び」を達成する授業づくりの「学習目標」の設定に関する具体的な示唆を得るべく、ブルームの「改訂版タキソノミー」から検討を行った。その結果、アクティブ・ラーニングの議論では「高次の思考過程」に焦点が当てられ、「高次の思考過程」の前提とされる「知識」との関係性に注目されていないことが確認できた。本年度の成果は「筑波大学教育学会」の口頭発表、また「桐蔭論叢」の「原著論文」として発表した。来年度の研究課題としては、「知識」との結びつく「深い学び」の学習目標の設定手法を提示すべく、ブルームの「タキソノミー・テーブル」とGagneの「ID理論」を検討し、特定の教科単元の事例から提案することとする。</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
「深い学び」の授業設計における「学習目標」の設定について	2020年3月7日	筑波大学教育学会第18回大会(筑波大学/茨城県つくば市)	李 禧承

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本教育メディア学会、日本デジタル教科書学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会、筑波教育学会

井口 成明 (いぐち なりあき) 准教授



出生年 : 1962 (昭和37) 年5月28日
 在籍 : 2018 (平成30) 年4月～
 最終学歴 : 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科前期課程修了
 学位 : スポーツ科学修士
 学位論文 : 東京大学教育学部附属中等教育学校における体育授業の試み—生徒が学び合う体育授業の創造—
 専門分野 : 保健体育教育法・安全教育学・野外教育学・水泳指導
 前職 : 東京大学教育学部附属中等教育学校教諭
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 中学校保健体育一種教諭
 高等学校保健体育一種教諭
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 2010年自然活動体験授業実践発表 文部大臣奨励賞受

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
第一学習社「高等学校保健体育」		制作中
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
水泳競技における飛び込みスタートの危険性と安全に配慮した段階的指導法について	2015年～	日本スポーツ振興センター 指導者セミナーで講演
学校プールにおける熱中症の危険性とその対策について	2018～	日本スポーツ振興センター発行、「水泳活動中の事故」で発表
4. その他教育活動上特記すべき事項		
東京都葛飾区、小平市保健体育研究授業助言指導者	2019～	

II 研究活動

○その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
朝日新聞朝刊「水泳における飛び込み事故について」	2019年5月20日	朝日新聞

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本安全教育学会理事、日本体育学会、日本体育科教育学会、日本野外教育学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東京都中学校水泳安全指導講習会	2010～年1回 1月に実施	東京都中学校体育連盟

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年 : 1964 (昭和39) 年
 在籍 : 2008 (平成20) 年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了

 学位 : 修士 (体育科学)
 学位論文 : バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察ー世界トップレベルのセット・オフENSEの傾向ー

 専門分野 : コーチング科学、スポーツ方法学 (バスケットボール)

 前職 : 日本体育大学運動処方研究室研究員
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 : 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター

 受賞・表彰 :

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
WONDERFUL SPORTS 2019-2021 「バスケットボール」	共著	2019-2021	新学社	倉石平、木村和宏	120-137

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、スポーツ方法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年10月～現在	公認バスケットボール上級コーチ

城 田 直 彦 (しろた ただひこ) 准教授



出生年 : 1962 (昭和37) 年
 在籍 : 2015 (平成27) 年4月～
 最終学歴 : 奈良教育大学大学院教育学修士課程修了
 学位 : 教育学修士
 学位論文 : 「数学における「中1ギャップ」の要因に関する考察」(修士論文)
 専門分野 : 数学教育
 前職 : 白鳳女子短期大学
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 小学校専修免許状、中学数学専修、高校数学専修、中学英語2級、幼稚園2級
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
メールを利用した課題提出、フィードバック	2015年4月～現在	講義内に出された課題を、学生はメールで提出。学生のつまずきを次回の授業に生かす。
マイクロティーチングの導入	2015年4月～現在	教師役、児童役を決めて短時間で行う。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
小学校 算数科、中学校 数学科の教科書	2015年～現在	日本文教出版

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
発展的思考・態度を視点とする授業評価モデルの開発と検証：授業の核となる場面からの検討	2019年5月	東北数学教育学会第24回初夏研究会(山形大学)	代表発表者：佐藤学(秋田大学)
発展的思考・態度の育成における授業評価モデルの検討 (口頭発表)	2019年11月	日本数学教育学会 第52回秋期研究大会(東京学芸大学)	代表発表者：佐藤学(秋田大学)
発展的思考・態度の育成における授業評価モデルの検討：観点「子供の反応を知る」の基準の検討 (口頭発表)	2019年11月	東北数学教育学会 第51回年会(岩手大学教育学部)	代表発表者：佐藤学(秋田大学)

○その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「読み解く数学偉人伝 ピタゴラス -その現象には、数学がある-」	2019年5月7日	算数・数学情報誌 ROOT Vol. 24
「読み解く数学偉人伝 フィボナッチ -私の名前のついた数列が自然界で愛されているらしい-」	2019年10月31日	算数・数学情報誌 ROOT Vol. 25

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本数学教育学会、全国数学教育学会、近畿数学教育学会、和算問題教材化研究会

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 准教授



出生年 : 1977 (昭和52) 年
 在籍 : 2006 (平成18) 年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位 : 体育学修士
 学位論文 : 中高年齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野 : 柔道、体力学、健康スポーツ科学
 前職 : 学校法人了徳寺学園職員
 学内役職等 : スポーツ健康政策学部入試広報委員長 柔道部総監督
 留学 :
 資格 : 全日本柔道連盟公認柔道指導者 (A指導員)
 全日本柔道連盟公認審判員 (Aライセンス)
 日本スポーツ協会公認柔道コーチ
 JOCナショナルコーチアカデミー修了
 講道館柔道六段
 非常勤講師 : 麻布大学
 受賞・表彰 : スポーツ功労者顕彰 (文部科学省 : 2015年7月、2016年7月)
 国際競技大会優秀者等表彰 (文部科学省 : 2015年7月)
 横浜市スポーツ功労賞 (横浜市体育協会 : 2011年1月)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
柔道競技中の運動強度の定量化を研究。具体的には競技中の心拍数測定を実施した。特に試合での測定は競技規定上困難であったが、幾つかの問題点を克服し測定に成功。女子選手の傾向や対戦相手の強弱による変化も、今後興味深いテーマとなる。データの蓄積を引き続き行っていく予定。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
中学校柔道授業における戦術学習の提案 (第2報) —授業で使える「技をかけるきっかけ」を用いて—	共著	2019年4月	講道館柔道科学研究紀要第17輯	小澤雄二、清田公保、石橋剛士 坂本道人、大川康隆、廣川充志、中原一	101-112頁
Toe Flexor Muscle Strength and Morphological Characteristics of the Foot in Judo Athletes	共著	2019年4月	Int J Sports Med. 2019 Apr;40(4)	Koyama K, Hirokawa M, Yoshitaka Y, Yamauchi J	pp. 263-268
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表) 柔道競技の運動強度定量プロジェクト ～実際の試合を対象として～	2019年8月	第2回柔道インテリジェンスフォーラム (東京ドームホテル)	廣川充志		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月 (西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
(実技講習派遣・講演) 地方青少年武道練成大会 中央講師	2019年9月	(公財) 日本武道館	島根県武道館		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会 日本健康スポーツ科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2016年11月～現在	全日本柔道連盟 強化委員会 委員
2017年4月～現在	全日本柔道連盟 科学研究部
2019年4月～現在	全日本柔道連盟 女子柔道振興委員会 副委員長
2020年4月～現在	日本武道学会 評議員
2020年4月～現在	横浜市武道安全対策委員会 委員

Ⅳ芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学柔道部監督	2006年4月～2019年10月		
桐蔭横浜大学柔道部総監督（男女）	2019年11月～現在		

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師



出生年 : 1976 (昭和51) 年
在籍 : 2008 (平成20) 年4月～
最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
学位 : 修士 (体育学) ・ 修士 (教育学)
学位論文 : 演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践 (体育学)
心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 -1931-45年の日本における体育的身体論を射程として- (教育学)
専門分野 : スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
前職 : 筑波大学大学院博士課程
学内役職等 :
留学 :
資格 : 中学校教諭専修免許 (保健体育)
高等学校教諭専修免許 (保健体育)
中学校教諭専修免許 (社会)
高等学校教諭専修免許 (地理歴史)
高等学校教諭専修免許 (公民)
柔道初段
非常勤講師 :
受賞・表彰 : 平成23年度第9回茗溪会顕彰

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川体育学会、日本体操学会

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

殖田友子 (うえだ ともこ) 教授



出生年 :
 在籍 : 2014 (平成26) 年4月～
 最終学歴 : 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単
 位取得後退学
 学位 : 修士 (経営学)
 学位論文 :
 専門分野 : スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
 前職 : 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科准教授
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 管理栄養士、健康運動指導士、公認スポーツ栄養士
 非常勤講師 : 神奈川大学人間科学部、神奈川大学国際経営学部
 受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本健康運動指導士会、日本栄養改善学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2010年7月～現在	日本スポーツ栄養学会評議員 (2013年12月日本スポーツ栄養研究会から学会に改組)
2013年4月～現在	大田区体育協会評議員

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 教授



出生年 : 1960 (昭和35) 年
 在籍 : 2004 (平成16) 年7月～
 最終学歴 : 桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位 : 博士 (学術)、修士 (看護学)
 学位論文 : 人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康
 心理学的研究 (博士論文)
 専門分野 : 健康心理学、基礎看護学
 前職 : 広島国際大学看護学部看護学科講師
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 看護師免許、専門健康心理士、健康管理士
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 日本ヒューマ・ケア心理学会第一回学会論文賞 (2011
 年7月)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
AI解析を用いたコトコフ音波形による健康管理指標値の研究におけるデータの分析と検討					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
健康心理学辞典	共著	2019年10月10日	丸善出版	日本健康心理学会編	278-279頁
(総説・論説)					
健康心理学におけるヒューマンケアとは	単著	2019年6月15日	知能と情報 (日本知能情報ファジー学会誌) 31巻3号		91-95頁
(学術論文)					
敷地内全面禁煙の理解を得るためには -2016年の調査における敷地内全面禁煙の印象に対する理由の分析から-	共著	2020年2月28日	桐蔭スポーツ科学第3巻	片山富美代、大北全俊、工藤成史	1-9頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Study on health index value by Korotkoff sound analysis, - Waveform change of Korotkoff sound with aging -	2019年11月24日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering (桐蔭横浜大学/横浜市)	Tsuneyoshi Sugimoto, Fumiyo Katayama, Motoaki Sano, Mai Sugawara		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金 基盤研究 (C)、「AI解析を用いたコトコフ音波形による健康管理指標値の研究」	2018年4月～2021年3月	日本学術振興会			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員
2015年9月～2020年5月	日本ヒューマン・ケア心理学会常任理事・事務局長
2020年6月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会理事・編集委員

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年 : 1961 (昭和36) 年
 在籍 : 2009 (平成21) 年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学体育学部健康学科卒業
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職 : 日立横浜病院
 学内役職等 : スポーツテクノロジー学科長
 スポーツサポートセンター長
 留学 :
 資格 : 日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 JATI認定トレーニング指導者資格
 JPSU認定スポーツトレーナー
 理学療法士、柔道整復師、
 中学1級・高等学校1級教諭免許 (保健体育)
 非常勤講師 : 学校法人花田学園 東京有明医療大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入 (学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象: トレーナーコース、ゼミ専攻者)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
・2021年に延期された2020東京五輪における理学療法サービスにむけて、その内容と人材 (職域) についての検討および具体案の作成。 ・水泳における水泳肩 (スイマーズショルダー) の発生率は、腰痛、膝痛と同様に高い。そこで、肩関節周囲筋の損傷や石灰沈着が生じる身体的・動作的特徴の解明。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
予防に導くスポーツ整形外科-水泳による上肢障害の病態とその予防-	共著	2019年11月	文光堂	成田崇矢、加藤知生	213-218頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
座長： 口述発表 外傷・障害調査セッション	2019年7月20日	第8回日本アスレティックトレーニング学会学術大会	加藤知生
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
動きやすいカラダづくり	2019年6月21日	神奈川スポーツリーダー会	神奈川県立スポーツ会館
東京2020オリンピック水泳会場における フィジカルセラピストの準備状況	2019年11月23日	日本水泳ドクター・トレーナー会議	ナショナルトレーニングセンター

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本理学療法士協会、日本アスレティックトレーニング学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年9月～現在	日本水泳トレーナー会議 代表（現在）	
2003年3月～現在（2010～）	日本体育協会公認アスレティックトレーナー（連携協議員）	
2007年4月～現在（2013～）	日本水泳連盟医事委員会（副委員長）	
2013年6月～現在（2018～）	日本アスレティックトレーニング学会評議員（兼監査）	
2017年4月～現在	一般社団法人全国スポーツ系大学協議会認定スポーツトレーナー教育・普及委員	
（主な活動内容）		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会活動および保健体育授業（からだづくり）	2008年～（年3回）	横浜市教育委員会 学校運営評議会（2011年～）
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会活動および保健体育授業（からだづくり）	2008年～（年3回）	横浜市教育委員会 学校運営評議会（2011年～）

河 崎 賢 三 (かわさき けんぞう) 教授



出生年 : 1966 (昭和41) 年
 在籍 : 2004 (平成16) 年4月～
 最終学歴 : 島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位 : 医学博士
 学位論文 :
 専門分野 : 整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職 : 島根医科大学文部教官助手
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 材料技術研究協会技術賞 (2007)

II 研究活動

○その他 (雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa
野球肘は防げる	2013年5月～現在 (連載中)	ベースボールマガジン社Hit&Run

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員	
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員	
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員	
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員	
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員	
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員	
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ (医・科学スタッフ、野球)	
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員	
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出生年 : 1964 (昭和39) 年
 在籍 : 1995 (平成7) 年～
 最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位 : 体育学修士
 学位論文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクスの研究

 専門分野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前職 : 山形県教育庁
 学内役職等 : スポーツ健康政策学部長 (2020.4～)
 留学 :
 資格 : 専修免許状 (保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、
 講道館柔道七段

 非常勤講師 : 國學院大學
 受賞・表彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者 (指導者) 表彰 (1999年)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
当該年度は運動方法学に関する研究に注力した。特に数多くの世界トップクラススポーツ選手たち (柔道選手メダリスト) のジュニア時代から蓄積してきたUK心理データを纏めた。過去40年以上に亘って日本のトップ選手たちのUK心理データを所蔵する競技団体は全日本柔道以外にはなく、更には数多くの五輪・世界大会等の金メダリストが含まれる貴重なデータであり、世界的にも希少な研究であると自負している。今後は、本論文を国際学会に発表するべく準備を進めるつもりである。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
柔道競技者における相対年齢効果の影響	共著	2019年4月1日	桐蔭スポーツ科学 第2巻2019	廣川充志、吉鷹幸春、大辻康太	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2014～現在	関東学生柔道連盟 理事長	
2014～現在	全日本学生柔道連盟 理事	
2020年度	日本武道学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本柔道連盟公認審判員 (Aライセンス)	2001年4月1日～現在	
全日本柔道連盟公認指導者 (Aライセンス)	2003年4月1日～現在	

成 田 崇 矢 (なりた たかや) 教授



出 生 年 : 1975 (昭和50) 年6月12日
 在 籍 : 2019 (平成31) 年4月～
 最 終 学 歴 : 早稲田大学スポーツ科学学術院博士後期課程修了
 学 位 : 博士 (スポーツ科学)、修士 (体育学)、学士 (保健
 学 位 論 文 : 「飛込選手の腰痛発生要因の解明 : 予防対策提言にむ
 けて」 (博士論文)
 専 門 分 野 : アスレティックリハビリテーション
 前 職 : 健康科学大学 健康科学部 理学療法学科 教授
 学 内 役 職 等 : 桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツテク
 ノロジー学科 教授
 留 学 : Curtin University (Australia) (2006年11月～2007年
 1月)
 資 格 : 理学療法士、日本体育協会公認アスレティックトレー
 ナー、The Certified Mulligan Concept Practitioner
 (徒手療法国際資格)、日本サッカー協会公認C級コー
 チ、NSCA認定CSCS
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 岩沼市長 感謝状

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツ傷害 予防と治療のための体幹モーターコントロール	共著	2019年7月10日	中外医学社		P134-141
教科書にはない敏腕PTのテクニック 臨床実践 体幹の理学療法	共著	2019年8月23日	文光堂		P71-80
イラスト図解 筋力トレーニング 医・科学的根拠に基づくアプローチ	監修	2019年11月10日	文光堂		P133-144
予防に導くスポーツ整形外科	共著	2019年11月10日	文光堂		P213-218
匠が伝える低侵襲脊椎外科の奥義	共著	2019年12月10日	メディカルビュー社		P88-95
成田崇矢. 脊柱の外傷・障害. 広瀬統一ら編. アスレティックトレーニング学 アスリート支援に必要なクリニカル・エビデンス	共著	2019年12月15日	文光堂		P312-335
長引く腰痛はこうして治せ患者の痛みから見える腰痛の見極め方	共著	2020年2月10日	日本医事新報社		P215 - 220
(総説・論説)					
健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について(平成30年度)	共著	2019年	健康科学大学紀要(15)		105-109
21th FINA DIVING WORLD CUP 2018(中国:武漢)飛込競技帯同報告	単著	2019年	水と健康医学研究会誌21(1)		89-91

硬化した筋の回復を加速させる方策—経口補水液と特殊シューズを用いた戦略的リカ	共著	2019年	日本レーザー治療学会誌 Vol.18 No2		42-47
腰部・体幹機能の臨床的評価とアスレティックトレーニング	単著	2019年	日本アスレティックトレーニング学会誌 第5巻 第1号		13-17
(学術論文)					
Changes in the Linear Relationship between Muscle Contraction Intensity and Muscle Hardness after Rectus Femoris Muscle Strain		2019	Hindawi Case Reports in Orthopedics, Article Volume2019, Article ID 7813217	Takayuki Inami, Takuya Shimizu, Tomoaki Osuga, Takaya Narita, Norikazu Hirose and Mitsuyoshi Murayama	4pages
Changes in muscle hardness after a full marathon appear different even intramuscularly		2019	The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness, 59(6)	Inami T., Nakagawa K., Yonezu T., Fukano M., Higashihara A., Iizuka S., Abe T., Narita T., Murayama M.	1094-1096
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
MUSCLE CONDITION CHANGES DURING A TRAINING CAMP FOR JUNIOR ELITE DIVERS	2019年	ECSS	Inami, T., Narita, T., Yoshimura, A., Yonezu, T., Yamazaki, E., Orikasa, Y., Tezuka, T., Sugiyama, H., Ohtani, M., Hirose, N., Murayama, M		
Regional Differences in Damage among the Hamstring Muscles after a Full Marathon	2019年	ECSS	Ayako Higashihara, Kento Nakagawa, Takayuki Inami, Mako Fukano, Satoru Hashizume, Satoshi Iizuka, Toshihiro Maemichi, Takaya Narita, Norikazu Hirose		
(ポスター) A new evaluating method for low back pain using the manual therapy technique (Pain reduction test)	2019年10月	10th Interdisciplinary World Congress on Low Back and Pelvic pain. アンソワープ	Takaya narita, Kishi Kato, Kenichi Otoshi, Tatuya Misawa, Koji kaneoka		
「飛込選手における腰痛予防のための予防理学療法」	2019年8月	日本予防理学療法学会 第5回サテライト集会「シンポジウムⅡ」(東京都)			
「アスリートの腰痛に対する評価と治療」	2019年11月	第35回東海北陸理学療法学会大会「教育講演」(富山県富山市)			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所		
腰部疾患に対する理学療法 2Dsyコース～評価とアプローチ～in岡山会場	2019年4月6日、7日	リハテックリンクス 講師	岡山県玉野市築港1丁目1-20 玉野総合医療専門学校		
筋・筋膜性腰痛に対する評価と理学療法	2019年4月13-14日	南魚沼リハビリテーション研究会 講師	新潟県南魚沼市		
腰痛運動療法セミナー 基礎理論1	2019年4月20日	日本身体機能研究会 講師	東京都西東京市		
腰痛運動療法セミナー 実技1	2019年4月21日	日本身体機能研究会 講師	東京都千代田区		
腰痛の評価と治療	2019年4月28日	臨床家のための運動器研究会 講師	東京都		
頰椎に対する評価と理学療法	2019年4月29日	臨床家のための運動器研究会 講師	神奈川県川崎市		
頰部疾患に対する評価と理学療法	2019年5月4日	Gene 講師	愛知県名古屋		
頰部疾患に対する理学療法～評価とアプローチ～	2019年5月19日	リハテックリンクス 講師	東京都渋谷区		

仙腸関節に対する評価と理学療法	2019年5月26日	ジャパンライムセミナー 講師	東京都文京区
腰痛運動療法セミナー 基礎理論2「器質的変化に対する運動療法」	2019年6月1日	日本身体機能研究会 講師	東京都西東京市
腰痛運動療法セミナー 実技2「器質的変化に対する運動療法」	2019年6月2日	日本身体機能研究会 講師	東京都渋谷区
腰痛運動療法セミナー 基礎理論4「筋筋膜性腰痛の基本的理解・機能的評価方法」	2019年7月27日	日本身体機能研究会 講師	東京都西東京市
腰痛運動療法セミナー 実技4「筋筋膜性腰痛の基本的理解・機能的評価方法」	2019年7月28日	日本身体機能研究会 講師	東京都渋谷区
腰痛運動療法セミナー 基礎理論2(器質的障害)in鹿児島	2019年8月24日	日本身体機能研究会 講師	鹿児島県鹿児島市
腰痛運動療法セミナー 実技2(器質的障害)in鹿児島	2019年8月25日	日本身体機能研究会 講師	鹿児島県鹿児島市
臨床における脊椎の評価と治療～徒手療法と運動処方理論と実践～	2019年9月1日	NOSPT研修会 講師	長崎県諫早市
腰痛に対するアプローチ～椎間板・仙腸関節由来に関する疼痛について～	2019年9月15日	SESSION 講師	神奈川県横浜市
腰痛運動療法セミナー基礎理論3	2019年9月21日	日本身体機能研究会 講師	東京都西東京市
腰痛運動療法セミナー 実技3	2019年9月22日	日本身体機能研究会 講師	東京都練馬区
仙腸関節障害に対する評価と理学療法	2019年9月28日	リハテックリンクス 講師	東京都渋谷区
腰痛に対するシステムティックな評価とアプローチ	2019年9月29日	SESSION 講師	宮城県仙台市
腰痛運動療法セミナーIN福岡基礎理論4	2019年10月13日	日本身体機能研究会 講師	福岡県博多区石城町
腰痛運動療法セミナーIN福岡 実技4	2019年10月14日	日本身体機能研究会 講師	福岡県博多区石城町
機能的腰痛に対する評価と介入	2019年10月20日	千葉県柔道整復師協会学術講演会・研究発表会 講演	千葉県
理学療法士の立場から見たアスリートの見方	2019年10月23日	岩手スポーツトレーナー勉強会 講演	岩手県
進行期別にみた変形性股関節症に対する理学療法戦略』並びに『機能性腰痛(椎間板性腰痛、椎間関節性腰痛)の病態	2019年10月26日	CIT 講演	沖縄県島尻郡与那原町
腰痛運動療法セミナーIN名古屋 基礎理論1	2019年11月3日	日本身体機能研究会 講師	愛知県清須市
北陸スポーツメディスン01	2019年11月10日	北陸スポーツメディスン01 講師	石川県金沢市
NPO法人 佐久平総合リハビリセンター 健康姿勢指導士研修セミナー	2019年11月24日	健康姿勢指導士研修セミナー講師	東京都豊島区
(公財)日本水泳連盟競技力向上委員会 2019年度公認水泳コーチ3養成 専門科目講習会	2019年11月25日	(公財)日本水泳連盟競技力向上委員会 2019年度公認水泳コーチ3養成 専門科目講習会 講師	東京都新宿区
腰痛を診る際の考え方	2019年11月30日	ジャパンライム 講師	東京都文京区
体幹機能からみた全身評価とコンディショニング	2019年12月1日	第2回スポーツメディスンコンディショニングフォーラム 講師	東京都港区
腰痛に対するシステムな評価と介入	2019年12月7日、8日	LSPセミナー講師	埼玉県さいたま市
「腰痛・肩こりがス～ッと消える」～日常生活で、できる予防・解消ポイント～	2019年12月11日	THP指導者研修会 講師	新潟県新潟市
運動療法セミナー 頸椎編 基礎理論	2019年12月14日	日本身体機能研究会 講師	東京都西東京市
運動療法セミナー 頸椎編 実技	2019年12月15日	日本身体機能研究会 講師	東京都千代田区
頸椎に対する理学療法	2019年12月21日	わたり病院勉強会 講師	福島県福島市

仙腸関節障害の病態と理学療法	2020年1月5日	第17回 西川整形外科リハビリテーション研究会 講師	千葉県佐倉市
腰痛に対する理学療法の考え方	2020年1月11日 - 12日	令和元年度熊本機能病院総合リハビリテーションセンター研修会 講師	熊本県熊本市
下肢疾患の評価・治療	2020年2月15日	聖隷クリストファー大学理学療法学科会卒後研修会 講師	静岡県浜松市
令和元年度第3回和歌山県アスレティックトレーナー連絡協議会研修会	2020年2月11日	令和元年度第3回和歌山県アスレティックトレーナー連絡協議会研修会 講師	和歌山県和歌山市
腰痛に対する機能解剖、姿勢、および動作からみた評価と運動療法～腰部疾患とスポーツ傷害～	2020年2月16日	徳島県理学療法士会主催令和1年度第5回学術研修会 講師	徳島県徳島市
理学療法士の腰痛に対する評価と対応	2020年2月17日	第6回徳島運動器コンディショニングセミナー 講師	徳島県蔵本町
頸椎に対する評価と理学療法	2020年2月23日	PIEGLLO STUDY 講師	長崎県諫早市
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
JSC ハイパフォーマンスセンターTotal Conditioning Research Project	2019年5月～2021年9月	独立行政法人日本スポーツ振興センター 助成金	
新たな画像技術を用いた褥瘡の体幹筋損傷、体幹筋機能回復過程の解明	2019年～2021年	2019年科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
10th Interdisciplinary World Congress on Low Back and Pelvic pain.にてポスター発表	2019年10月27日～31日	ベルギー (アントワープ)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
タマネギで糖尿病、高血圧、耳鳴りが大改善 長生きストレッチ こむら返り	2020年4月号	雑誌 壮快P86 - 87	
(その他特記事項)			
チョイス@病気になったとき:アンコール「徹底解明!見えない腰痛」(NHK, 2019年8月24日)			
チョイス@病気になったとき:「まとめスペシャル」見えない”腰痛”(NHK, 2019年9月28日)			
再放送 チョイス@病気になったとき:「まとめスペシャル」見えない”腰痛”(NHK, 2019年10月4日、2020年4月18日)			
ひるまえほっと:「筋膜セルフケアで美姿勢に」(NHK, 2019年10月3日)			
美と若さの新常識:「ファッションで解決!美スタイルへの特急券」(BSプレミアム, 2019年7月16日)			
美と若さの新常識SP「ファッションで解決!美スタイルへの特急券」(NHK総合, 2019年11月6日)			
チョイス@病気になったとき「肩こり解消の新常識」(NHK総合, 2020年3月7、13、4月17日)			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本理学療法士協会、日本臨床スポーツ医学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本脊椎・脊髄病学会、日本徒手療法学会(活動員)		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2019年6月9日-2021年6月	日本理学療法士協会ガイドライン・用語策定委員会 足関節捻挫作成班班員 内容:ガイドライン作成にあたってのシステムティックレビュー	
2019年度	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
飛込ナショナル合宿(浜松)	2019年5月28日～29日	
飛込ジュニア合宿(大阪)	2019年8月27日～28日	
FINAダイビンググランプリ・スペイン大会 帯同(マドリッド)	2019年6月3日～11日	
2019年FINAダイビングGPマレーシア・シンガポール大会	2019年11月11日～21日	
2019年度 飛込国際大会派遣選手選考会	2020年2月3-9日	

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年 : 1957 (昭和32) 年
 在籍 : 1991 (平成3) 年4月～
 最終学歴 : 東京都立科学技術大学 (現・東京都立大学) 大学院工学研究科博士後期課程
 学位 : 学術博士
 学位論文 : 大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野 : 知能情報処理、感性情報処理
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等 : 学生部副部長 (2012～2016)
 留学 :
 資格 : ITパスポート試験
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生の情報通信技術に関する支援	2011年1月～ (継続中)	日頃より、担当して授業を問わず、学生の情報通信技術 (ICT) やビデオ映像制作などの支援を教員研究室で行っている。たとえば、ゼミ生以外の学生 (2グループ) がビデオ映像の制作のため1カ月程度、栗山研究室の情報機器を利用した。また、ゼミ生以外の学生に対しても「情報処理技術者試験 (ITパスポート試験) 経済産業省主催 国家試験」の勉強の支援を行い、2011年7月試験において合格者 (1名) を輩出した。

II 研究活動

○著書・論文等					
(学術論文)					
コミュニケーションツールとしてのアクティブビデオゲームの可能性について	共著	2020年3月20日	日本知能情報ファジィ学会 第46回ファジィ・ワークショップ講演論文集	栗山裕、山下利之	pp. 53-54
モンゴルの企業ロゴのイメージに関する研究	共著	2020年3月20日	日本知能情報ファジィ学会 第46回ファジィ・ワークショップ講演論文集	山下利之、ダムディンドゥルグーン、工藤芳彰、栗山裕、笠松慶子、石原正規	pp. 59-60

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
電子情報通信学会、人工知能学会、日本ファジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会

小山 桂 史 (こやま けいじ) 准教授



出生年 : 1984(昭和59)年
 在籍 : 2012(平成24)年4月～
 最終学歴 : 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了
 学位 : 博士(スポーツ健康科学)
 学位論文 : Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野 : スポーツバイオメカニクス
 前職 : 順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等 : 入試広報委員長(2018年9月から2020年3月まで)
 留学 :
 資格 : 中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 トレーニング指導者
 非常勤講師 : 首都大学東京客員研究員
 駒澤大学総合教育研究部非常勤講師
 首都大学東京非常勤講師
 受賞・表彰 : 第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本関夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝(2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞(2010.9)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
足部の力発揮機能と跳躍能力の関係性を検討するために、足部筋力(足指把持筋力)、足部形態(アーチ高、足長)、垂直跳びの高さ、リバウンドジャンプの能力(RJ index)、垂直跳び時の地面反力を計測した。その結果、足部筋力は垂直跳びの高さ、RJ indexと正の相関関係を示し、アーチ高はこれらの跳躍変数とは関係しなかった。したがって、足部筋力は高い跳躍を実施するために重要な指標であることが明らかとなった。また足部の力発揮が跳躍高に及ぼす要因を探索するために、中足趾節関節の背屈動作の制限が垂直跳びの高さや立ち幅跳びの飛距離に及ぼす影響を検討した。その結果、中足趾節関節の背屈動作の制限は垂直跳びの高さや立ち幅跳びの飛距離を低下させた。跳躍の離地時では地面から踵が離れて中足趾節関節の背屈に伴ってアーチが上がる。そして中足趾節関節周りの足底腱膜が巻き上げられ、足底腱膜の伸長による力発揮によって足部の力発揮が増幅される。この足部特有の力発揮の増幅機構はウィンドラスメカニズム機構と呼ばれ、中足趾節関節の制限がこの機構を低下させたことが示唆された。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Toe flexor strength is not related to postural stability during static upright standing in healthy young individuals	共著	2019年7月30日	Gait & posture 73	Yamauchi Junichiro, Koyama Keiji	323-327
Importance of toe flexor strength in vertical jump performance	共著	2020年2月26日	Journal of Biomechanics104	Yamauchi Junichiro, Koyama Keiji	109719

Influence of the prophylactic ankle support on the peak power of lower-limb performance	共著	in press	GAZZETTA MEDICA ITALIANA	Yamauchi Junichiro, Koyama Keiji	in press
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
平成31年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究	平成31年4月～令和5年3月予定	ドロップジャンプの足部アーチの機能解明とトレーニング、足部装具開発への実践的応用			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本バイオメカニクス学会，日本体力医学会，日本体育学会，日本トレーニング科学会，日本バレーボール学会，日本靴医学会，日本スポーツ健康科学学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2019年3月～現在	日本スポーツ健康科学学会 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
駒澤大学での生涯学習(健康づくり教室：ジョギングコース)	2016年9月～現在に至る	陸上指導

岡 本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年 : 1973 (昭和48) 年
 在籍 : 2008 (平成20) 年4月～
 最終学歴 : 国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
 学位 : 修士 (武道・スポーツ)
 学位論文 : 異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野 : ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメ
 前職 : 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化
 コーチ
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者ハンドボール
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本バイオメカニクス学会、日本ハンドボール学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
普及育成事業指導者講習会講師 (強化普及アドバイザー)	2020年2月	神奈川県高等学校体育連盟 ハンドボール専門部

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子ハンドボール部監督) 女子第55回全日本学生ハンドボール選手権大会	2019年11月	セキスイハイムスーパーアリーナ宮城県	インカレベスト16

廣瀬立朗 (ひろせ たつろう) 専任講師



出生年 : 1973 (昭和48) 年
 在籍 : 2009 (平成21) 年4月～
 最終学歴 : 東京大学大学院
 学位 : 博士 (学術)
 学位論文 : 力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
 専門分野 : 運動生理学、運動生化学
 前職 : 日本体育大学 助教
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 : 上智大学
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
ラットにおけるニコチンアミドリボシドの摂取が高強度運動にあたる影響を検討するために、ニコチンアミドリボシド摂取下での筋力測定や高速度走行について測定している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツをひらく社会学	共著	2019年11月10日	嵯峨野書院	今泉 隆裕 (編) , 大野 哲也 (編)	pp. 109-124
(学術論文)					
運動時の水分補給に関する歴史的考察	共著	2019年	日本スポーツ健康科学誌 6(1), 1-11, 2019	星 秋夫, 今泉 隆裕, 廣瀬 立朗, 樫村 修生	pp. 1-11
インナーマッスル・トレーニングの効果の言説について	共著	2019年	日本スポーツ健康科学誌6(1), 27-36, 2019	廣瀬 立朗, 今泉 隆裕	pp. 27-36
JBDFが主催する競技かい参加者のスポーツライフに関する調査2018 報告書	共著	2020年3月31日	日本ボールルームダンス連盟		
エストロゲンは骨格筋損傷の修復に良い影響を及ぼす	共著	2020年	桐蔭スポーツ科学 = Toin sport sciences 3, 19-27, 2020	滝野 彩, 廣瀬 立朗, 桜井 智野風	pp. 19-27
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Estrogen has a positive effect on repair of skeletal muscle injury	2019年7月3日	ECSS Prague	Takino, Hirose, Sakurai		
熱中症予防対策用衣料における遮熱性の検討	2019年8月	第7回日本スポーツ健康科学学会	浅間優、星秋夫、廣瀬立朗、樫村修生、藤下有道、大園一磨、陸田秀之		
熱中症予防対策としての日傘の効果について	2019年8月	第7回日本スポーツ健康科学学会	星秋夫、廣瀬立朗、樫村修生		
日本人男女におけるジュニア期のスポーツ実施状況	2020年3月23日	日本コーチング学会第31回大会	勝亦陽一、廣瀬 立朗、桜井智野風		

ボールルームダンス実施者のスポーツライフに関する調査	2020年3月	第173回日本体力医学会関東地方大会	坂手誠治、星秋夫、勝亦陽一、小山圭史、桜井智野風、島崎あかね、関根豊子、廣瀬立郎
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
筋肥大とトレーニング	2019年4月14日	NSCAジャパン	桐蔭横浜大学
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ECSS Prague	2019年7月3日	ECSS Prague	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会 physiology 日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2018年～現在	JBDF科学委員会
2019年～現在	日本健康科学学会理事
2019年	第7回日本健康科学学会大会事務局

Ⅳ芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
2019年世界マスターズウエイトリフティング選手権M45：81kg級代表	2019年	カナダ	
全日本マスターズウエイトリフティング選手権M45：81kg級 優勝	2019年	宮崎県宮崎市	優勝
関東ウエイトリフティング選手権マスターズM45：81kg級優勝	2019年5月	栃木県	優勝
東京都マスターズウエイトリフティング選手権M45：81kg級優勝	2019年12月	東京都	優勝
2020年世界マスターズウエイトリフティング選手権M45：81kg級代表	2020年	アメリカ	

渡辺 啓太 (わたなべ けいた) 専任講師



出生年 : 1983 (昭和58) 年
 在籍 : 2018年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻修了
 学位 : 体育学修士
 学位論文 : バレーボールのプレーの評価 指標に関する一考察
 専門分野 : スポーツ情報戦略、高度競技マネジメント、スポーツイノベーション
 前職 : 専修大学ネットワーク情報学部 客員教授
 学内役職等 : 女子バレーボール部 部長
 留学 : NOVARA、ITALY (2010年1月～3月)
 資格 : 日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー修了
 日本オリンピック委員会International Sports Leader Academy 修了
 日本バレーボール協会アナリスト育成インストラクター
 日本スポーツ協会 バレーボールコーチ4
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : SQUARE ENIX Award、Best Paper Award on Human-Robot Interaction、専修大学学長賞、筑波大学大学院人間総合科学研究科長賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
ライブ型アセスメントによる学習効果測定を導入	2019年9月～	授業回ごとに学生の理解度確認のため、ライブ型オンラインアセスメントを導入し、丁寧な学習効果測定を行った。

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
バーチャルリアリティによる効果的練習方法の開発に関する研究。 バレーボールのゲーム分析に関する研究。 バレーボール競技にボールが及ぼす影響に関する研究。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『なるほど最新スポーツ科学入門』	共著	2020年2月	化学同人	伊東浩司 (編)、吉田孝久 (編)、青木和浩 (編)、渡辺啓太、他	143-152頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
国際シンポジウム招待講演「ICTやデータを活用したアスリートサポートのアプローチ」	2019年12月	早稲田大学スーパーグローバル創生支援事業健康スポーツ科学拠点/ICT・ロボット工学拠点	渡辺啓太
○その他			
(その他特記事項)			
ジャパネット杯春の高校バレー（第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会）テレビ中継解説			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、情報処理学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本バレーボール学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2011年9月～現在	日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー講師
2014年6月～現在	一般社団法人日本スポーツアナリスト協会代表理事
2014年11月～現在	スポーツアナリティクスジャパン実行委員会実行委員長
2015年8月～現在	総務省「スポーツ×ICT」ワーキンググループおよび「スポーツデータ利活用」タスクフォースメンバー
2015年12月～現在	JSAA Analytics Challenge Cup(旧スポーツアナリティクス甲子園) 審査員
2017年4月～現在	日本バレーボール協会 ハイパフォーマンス戦略担当
2017年9月～現在	日本オリンピック委員会選手強化本部情報・医・科学専門部会 情報・科学サポート部門メンバー
2017年10月～現在	日本バレーボール協会 TOKYO2020対策プロジェクト プロジェクトリーダー
2018年2月～現在	日本バレーボール協会 ユニバーシアード日本代表女子バレーボールチームアドバイザー
2018年9月～現在	スポーツビジネス産業展 アドバイザリーコミッティーメンバー
2019年7月～現在	JSAAアナリスト養成キャンプ スクールマスター
2020年2月～現在	日本オリンピック委員会 選手強化本部中長期計画 テクノロジー/データ ワーキンググループメンバー

今泉 隆裕 (いまいずみ たかひろ) 教授



出生年：1975（昭和50）年
 在籍：2008（平成20）年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
 単位修得退学
 学位：修士（文学）
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教員専修免許状（国語）
 高等学校教員専修免許状（国語）
 博物館学芸員資格
 非常勤講師：法政大学非常勤講師（日本文学と文化Ⅰ、日本文学と文化Ⅱ）
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
能楽鑑賞多言語字幕サービス能サポ（株式会社 檜書店） 能のあらすじ・みどころ〈船橋〉解説	2019年～	能楽鑑賞の”見える化”を目指したサポートシステム。多言語での解説で海外でも活用される。 〈船橋〉以外に、〈皇帝〉ほか十数曲担当、順次公開予定。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
今泉隆裕・大野哲也編『スポーツをひらく社会学』（嵯峨野書院）	2019年11月1日	「はじめに」、第一部第三章「第5章 オリンピック〈芸術競技〉〈芸術展示〉〈文化プログラム〉／東京大会とミュンヘン大会の〈芸術展示〉」執筆。今泉隆裕・大野哲也編著、共著者：宮本孝二、長崎励朗、今泉隆裕、小山桂史、廣瀬立朗、星秋夫、田原範子、岩谷洋史、阿部利洋、伊地知紀子、大野哲也、古村学、石田あゆう、中村律子、浦輝大、木島由晶

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「御社上の儀」解説	単著	2019年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		14頁
能「田村」解説	単著	2019年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		14 - 15頁
能「羽衣」解説	単著	2019年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		15 - 18頁

能「草薙」解説	単著	2019年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		19頁
狂言「太刀奪」解説	単著	2019年5月	奈良観光協会、奈良能主催薪御能パンフレット		18 - 19頁
(学術論文)					
「運動時の水分補給に関する歴史的考察」(査読付)	共著	2019年10月	日本スポーツ健康科学学会、日本スポーツ学会誌Vol. 6, No1	星秋夫、今泉隆裕、廣瀬立朗、櫻村修生	1-11頁
「インナーマッスル・トレーニングの効果の言説について」(査読付)	共著	2019年10月	日本スポーツ健康科学学会、日本スポーツ学会誌Vol. 6, No1	廣瀬立朗、今泉隆裕	27-36頁
「スポーツとハンティング／殺生の愉悦」	単独	2019年5月	Sportsmedicine2019(209号)、ブックハウスHD		50 - 51頁
「弁慶とダンベル／ダンベル雑談」	単独	2019年6月	Sportsmedicine2019(210号)、ブックハウスHD		48 - 49頁
「川上哲治と霊柩車／スポーツと俗信」	単独	2019年8月	Sportsmedicine2019(212号)、ブックハウスHD		32 - 33頁
「アマチュアリズムと人力車、禁車会」	単独	2019年9月	Sportsmedicine2019(213号)、ブックハウスHD		32 - 33頁
「オリンピックと国旗・国歌／日の丸・君が代」	単独	2019年10月	Sportsmedicine2019(214号)、ブックハウスHD		46 - 47頁
「守護神から一信徒／双葉山の戦中戦後」	単独	2019年11月	Sportsmedicine2019(215号)、ブックハウスHD		50 - 51頁
「宗教とスポーツ／強化と教化 部活と宗教団体」	単独	2019年12月	Sportsmedicine2019(216号)、ブックハウスHD		50 - 51頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名		開催場所	
薪御能入門講座「御能を楽しむ、奈良で楽しむ」(主催：奈良市観光協会、於：奈良県文化会館 会議室)※中止	2019年5月6日			金春穂高(金春流・シテ方)・今泉隆裕	
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
「西郷信綱旧蔵和書(和書には書簡を含む)の文庫化」(課題番号：20K00304)研究代表	2020年4月～2022年3月	日本学術振興会学術研究助成基金助成 基盤研究(C)			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出生年 : 1954 (昭和29) 年
 在籍 : 1989 (平成元) 年4月～
 最終学歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学位 : 文学修士
 学位論文 : A Study on Macbeth
 専門分野 : 英語英文学、英語教育、時事英語
 前職 : 静岡大学助教授
 学内役職等 : 桐蔭英語村名誉村長、外国語センター委員、国際交流センター委員、学務委員会委員、学生委員会委員
 留学 :
 資格 : 中学教員1級、高校教員1級免許
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 市川三喜賞 (津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
外国語特別活動の英語教材	2013年～現在	外国語特別活動 (英語) の教材は、市販の教材だけではうまく授業展開できないため、殆ど手作り教材である。
技術英語特論の教材	2019年～現在	本学の学生の習熟度及びニーズに合った理科系英語のアカデミック・ライティング用の教材
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
小学校英語教育の実践について	2019年12月4日	新潟市立黒埼南小学校教員研修

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
(1) 小学校での英語教科化に向けて、新学習指導要領と小学校英語指導法の研究 (2) クリストファー・マーロウの戯曲研究			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
桐蔭英語村：小学生から大学生・社会人まで利用する学園内のグローバル環境	2019年6月9日	グローバル人材育成教育学会 (東京都英語村 Tokyo Global Gateway)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会、語学教育研究所、PENの会 (にいがた小学校英語教育研究会)

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等

特別支援学級での外国語活動及び外国語指導補助	2019年9月24日	新潟市立女池小学校	新潟市立女池小学校特別支援学級（スマイル学級）で、3年生から6年生までの授業を支援。
小学校6年生の外国語授業と特別支援学級での外国語活動・外国語指導補助	2019年12月4日	新潟市立黒埼南小学校	新潟市立黒埼南小学校6年生の外国語授業と特別支援学級で3年生から6年生までの授業を支援。

日 比 野 暢 子 (ひびの のぶこ) 教授



出生年 : 1967 (昭和42) 年
 在籍 : 2013 (平成25) 年～
 最終学歴 : ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位 : 博士 (スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文 : “An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability” (ラフバラ大学2013年)
 専門分野 : スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学
 前職 : 中央大学保健体育研究所 客員研究員
 学内役職等 : 国際交流センター副センター長、学部国際交流委員会委員長、フットサル部顧問、男子バスケットボール部顧問
 留学資格 : ラフバラ大学大学院博士課程・修士課程
 弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許
 非常勤講師 : 中央大学、筑波大学大学院TIAS、ウースター大学スポーツエクササイズ学部名誉教授
 受賞・表彰 : 1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞 (高齢者エアロビックプログラム開発)
 2016年 ウースター大学名誉准教授就任
 2018年 ウースター大学名誉教授就任

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
パラリンピック選手のキャリア育成に関する国際比較研究、パラリンピック選手の競技環境に関する研究、精神障害者スポーツの競技環境に関する国際比較研究を主に行った。特に、キャリア育成については、笹川スポーツ財団より2年かけて研究費を受託し、海外調査も実施できた。障害者スポーツについては、現在、本の出版に向けて準備中である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
精神障害者スポーツの国際化：フットボールの推進事例とともに (特集 精神障害者スポーツと文化)	共著	2020年1月	こころと文化	田中暢子・森谷航・佐々毅	pp. 8-15

パラリンピックの推進からみた共生社会への貢献	単著	2020年6月	スポーツ教育学研究		pp. 79-82
(学術論文)					
精神障害者の競技スポーツ推進と国際化における現状と課題：Dream World Cup Rome 2018 出場国から読み解く	共著	2019年4月	笹川スポーツ財団調査報告書	田中暢子・森谷航・佐々毅	pp. 19-25
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭) 大学フットサルの推進意義に関する一考察：競技環境の側面から	2019年8月	日本体育学会第70回大会（慶応大学/神奈川県横浜市）	森谷航・田中暢子		
(口頭) インクルーシブフットボールにおける健常者と障害者の相互作用：障害者サッカートップアスリートの視点からみた競技力向上の一考察	2019年8月	日本体育学会第70回大会（慶応義塾大学/神奈川県横浜市）	近藤沙耶・田中暢子		
(口頭) ‘The Japanese committee was responsible for the bungling’: an analysis of media based narratives of Japan and the Paralympic Games	2019年9月	British Society of sports history annual conference (Liverpool University, UK)	Verity Postlethwaite, Gyoza Molor, Nobuko Tanaka		
(ポスター) 大学フットサルの競技環境における現状と課題 エリート化の観点からの一考察	2019年12月	日本フットボール学会	森谷航・田中暢子		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所		
学術フォーラム「科学的エビデンスに基づく『スポーツの価値』の普及の在り方」-障害者スポーツから	2019年10月3日	日本学術会議	日本学術会議講堂/東京都		
シンポジウム：共生社会の実現に向けたスポーツのあり方を問う パラリンピック推進の立場から	2019年9月	日本スポーツ教育学会	早稲田大学/東京都		
朝日新聞「第5回障害者スポーツシンポジウム」	2019年9月17日	朝日新聞	有楽町朝日ホール/東京都		
科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会（第24期・第6回）	2019年7月26日	日本学術会議	日本学術会議会議室/東京都		
トークセッション「障害スポーツを理解する」	2019年5月	大田区体育協会	大田区池上会館/大田区		
映画解説：Crazy for Football: The Craziest World Cup	2020年1月	ヨコハマ・フットボール映画祭	横浜開港記念会館		

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
2019年度笹川スポーツ財団研究助成	2019年4月～2020年2月	笹川スポーツ財団研究助成
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
朝日新聞「第5回障害者スポーツシンポジウム」	2019年10月	朝日新聞 (全国版)
読売新聞「スポーツの力」	2019年8月	読売新聞 (全国版 特別面)
(その他特記事項)		
NHK総合首都圏ネタドリ!	2019年4月	研究成果の紹介

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会 (理事)、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会 (理事)、障害学会、日本障害者体育・研究会、日本オリンピックアカデミー (理事) 他	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2011年5月～	神奈川県エアロビック連盟諮問委員会委員長 (現在に至る)
2011年3月～	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー (現在に至る)
2012年4月～	日本スポーツ精神医学会役員理事 (平成28年9月迄、2019年9月より再任 現在に至る)
2014年6月～	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 参与 (現在に至る)
2015年4月～	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 街づくり検討委員会 (現在に至る)
2015年4月～	日本体育スポーツ政策学会理事 (現在に至る)
2016年3月～	一般社団法人日本車椅子バスケットボール連盟理事 (現在に至る)
2016年3月～	一般社団法人日本障がい者サッカー連盟理事 (現在に至る)
2016年6月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会参与 (現在に至る)
2017年3月～	日本体育学会アダプテッドスポーツ科学専門部会評議員 (現在に至る)
2018年3月～	スポーツ庁健康スポーツ課技術審査委員会委員
2018年4月～	独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンス統括人材の育成支援事業推進委員会委員 (現在に至る)
2018年12月～	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会理事 (現在に至る)

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
第29回日本体育スポーツ政策学会学会大会実行委員会副委員長	2019年6月～2020年3月	日本体育スポーツ政策学会
中央競技団体のメンター	2018年4月～2020年3月	日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツ戦略部
ハイパフォーマンス・ワールドコーチ育成プログラムプロジェクト	2018年4月～	日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツ戦略部

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
フットサル部Eggplant (顧問)	2019年8月～		全国学生フットサル選手権大会2位
男子バスケットボール部 (顧問)	2019年12月		関東大学男子バスケットボールリーグ戦3部4位

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年 : 1961 (昭和36) 年
 在籍 : 2012 (平成24) 年～
 最終学歴 : 京都造形芸術大学 (現・京都芸術大学) 大学院芸術研究科博士課程芸術専攻修了
 学位 : 博士 (学術)
 学位論文 : モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸として (博士論文)
 専門分野 : メディア論、表象文化論、日本語教育
 前職 : 大同大学情報学部教授
 学内役職等 : スポーツ健康政策学科長 (2012～2016) 入試・広報センター長 (2013～2019) キャリア情報センター長 (2020～)
 留学籍 : 一般旅行業務取扱主任者 (運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者 (国土交通省)】
 日本語教育能力検定合格
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
メディア論・表象文化論研究に関連して、プロダクト批評 (特に腕時計) と、啓蒙のための一般メディア・商業メディアを通じた発信を強化した。沖縄研究 (表象文化) を引き続き続行中。日本語教育に関しては、公的機関への協力実践を開始した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
研究ノート「腕時計とデザイン」	単著	2019年6月	桐蔭論叢第40号		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月 (西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
ウォッチ業界から見るヴァン クリーフ&アーペル	2019年7月3日	ヴァン クリーフ&アーペル	TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター		
PIAGET×Penトークイベント	2019年10月17日	ピアジェ	ピアジェ 銀座本店		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
(一般紙・全国紙)					
『紳士は緑 エッジ利かせて 時計展示会「バーゼルワールド2019」』	2019年5月17日	読売新聞夕刊			
『女性用腕時計 「ジェンダーレス」 優美な形』	2019年5月29日	読売新聞夕刊			
『深い青 注ぎ込んだ情熱』	2020年5月15日	読売新聞夕刊			
『精巧に刻む装飾華やか 女性用機械式時計 豊富に』	2020年7月10日	読売新聞夕刊			
(一般誌/一般誌+web転載/web掲載)					
『平成時計の覚書——並木浩一の時計文化論』	2019年4月3日	WATCHNAVI (本誌) + WATCHNAVI SALON (web) 学研文化論』			

『天才時計技師が見せる高次の世界 実用の先を行く、F.P. ジュルヌが刻む1 秒の芸術』	2019年4月5日	Precious.jp (小学館)
『時代は変われど受け継がれる意思』 バウハウスの意匠が息づいた「ユンハン ス」から、世界で100本だけのアニバーサ リー・モデルが登場	2019年4月20日	Precious.jp (小学館)
『ふたつの楽しさ、味わうなら超薄型か レクタンギュラーか。』	2019年4月24日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『すでに「名品」が確約されたパテック フィリップの新作「カラトラバ・ウィー クリー・カレンダー」』	2019年5月7日	Precious.jp (小学館)
『来年のGWを思うと、筆者の心が浮き立 つ理由——並木浩一の時計文化論』	2019年5月12日	WATCHNAVI (本誌) + WATCHNAVI SALON (web) 学研
『優美な舞踊のように腕の中で月が躍る エルメスの新作』	2019年5月20日	Precious.jp (小学館)
『絶妙な色づかいは青文字盤で味わう か、グレーで味わうか。』	2019年5月22日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『誕生50周年記念モデルは169本限定！— —モナコ 1969-1979 リミテッドモデル』 By 並木浩一	2019年5月25日	GQ JAPAN (コンデナスト ジャパン)
『パーゼルワールド2019、目利き+編集 部が選んだイチ押し時計！②シャネルと ブライトリング』	2019年5月26日	GQ JAPAN (コンデナスト ジャパン)
『空を愛した男の記憶はIWCのパイロツ ト・ウォッチに継承——並木浩一の時計 文化論』	2020年6月4日	WATCHNAVI (本誌) + WATCHNAVI SALON (web) 学研
『水面に映し出される絶景のごとく美し い！ブランドの真髄が込められた複雑機 構の美と技の境界線』	2019年6月5日	Precious.jp (小学館)
『月の裏側を描く最新を選ぶか、月面に 降りた不動の古典か。』	2019年6月5日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『歴史的モデルに捧げる麗しきオマー ージュ』	2019年6月6日	MEN'S Precious (メンズ プレシヤス) 2019年夏号 (小学館)
『さりげない気遣いができる紳士の手元 には、オメガの時計が良く似合う！』	2019年6月20日	Precious.jp (小学館)
『イッセイ ミヤケ ウォッチ、機械式を 搭載したメカニカルな計器。』	2019年6月17日	PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『ヘリテージなダイバーズ、回転ベゼル は外側がいいか内側か。』	2019年6月19日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『ダイバーズウォッチに託された 自然 に寄り添う優しい意志』	2019年7月1日	Agora 7月号 (日本航空機内誌)
『天に溶け込む星空のように ふたりの 手元を優しく照らす、ハリー・ウィン ストンの小さな夜空』	2019年7月5日	Precious.jp (小学館)
『上品さがにじみ出る三針か、鏡のよう に輝くクロノグラフか。』	2019年7月10日	GQ JAPAN (コンデナスト ジャパン)
『フルモデルチェンジした21世紀のアイ ゴンウォッチ、シャネル「J12」が放つ圧 倒的存在感』	2019年7月22日	Precious.jp (小学館)
『平成から令和に。筆者が思うこと—— 並木浩一の時計文化論』	2019年7月22日	WATCHNAVI (本誌) + WATCHNAVI SALON (web) 学研
『華やかな輝きで袖口を飾るか、あえて 漆黒で気配を消すか。』	2019年7月24日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『タイムアップ予告機能が選別の基準？ ——ジャーナリストが選ぶ極私的G- SHOCK』	2019年7月26日	GQ JAPAN (コンデナスト ジャパン)

『時計ジャーナリストの並木浩一がおすすめのタグ・ホイヤー カレラを選んだ。』	2019年7月31日	GQ JAPAN (コンデナスト ジャパン)
『「時計を越えた価値を与えてくれる存在」様々なメンズ媒体紙でも活躍する時計ジャーナリストの並木浩一氏が語る腕時計の真の魅力とは。』	2019年8月6日	"MONDO ALFA (アルファロメオ社webマガジン) https://www.alfaromeo-jp.com/mondoalfa/
『実はドレッシーなダイバーズか、タフなドレスで行くか。』	2019年8月7日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『自社製ムーブを味わい尽くすなら、クラシックかモダンか。』	2019年8月21日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『時を超え魅力を競う、レジェンドモデルと最新クロノグラフ』	2019年9月4日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『素材違いの黒とアイボリーで迷う、アイコンックなデザイン』	2019年9月20日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『中国・上海でベールを脱いだオリスの雄姿』	2019年9月27日	Precious.jp (小学館)
『定量化できない美意識がひそむ青の彩色』	2019年10月4日	MEN'S Precious (メンズ プレシヤス) 2019年秋号 (小学館)
『【ピアジェとゴールドの秘密を解く】講義②: セレブやアーティストと時計の華やかな関係。』	2019年10月8日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『ランボルギーニの疾走感か、ピレリのレガシーを纏うか。』	2019年10月9日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『人類の未来を創るバイオニアたちを支援する「ロレックス賞」とは?』	2019年10月11日	PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『“故あって大型”を選ぶなら、洗練のドレスかタフなパイロットか。』	2019年10月23日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『目を奪うのは“岩手山パターン”の黒か、初の“雪白ブルー”か』	2019年11月6日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『時計ジャーナリストが選ぶ——極私的“ラグスポ、時計”』	2019年11月11日	GQ JAPAN (コンデナスト ジャパン)
『あなたはどのお店を覗きますか? こだわりの店主たちが待つ、仮想時計店へ、ようこそ。【海洋時計専門店NAMIKI】 並木浩一』	2019年11月15日	Pen本誌 (CCCメディアハウス)
『高貴な伝統色の存在感を、目で楽しむか耳で味わうか。』	2019年11月20日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『時計ジャーナリスト・並木浩一氏がおすすめる、注目の腕時計7選』	2019年11月29日	"MONDO ALFA (アルファロメオ社webマガジン) https://www.alfaromeo-jp.com/mondoalfa/
『A WISH LIST <ORIS>』	2019年12月1日	Agora12月号(日本航空機内誌)
『遺さなければと天がおもう本物』	2019年12月6日	MEN'S Precious (メンズ プレシヤス) 2020年冬号 (小学館)
『メカ好きの心を満たすのは、マットなセラミックか輝くSSか。』	2019年12月4日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)
『【Precious WATCH AWARD 2019: 審査員個人賞】』	2019年12月17日	Precious.jp+MEN'S Precious (メンズ プレシヤス) 2020年冬号 (小学館)
『文字盤に使われている珪瑯とエナメルの違いを見極める——並木浩一の時計文化論』	2019年12月13日	WATCHNAVI (本誌) + WATCHNAVI SALON (web) 学研
『文字盤に使われている珪瑯とエナメルの違いを見極める——並木浩一の時計文化論』	2019年12月18日	Pen (本誌) + PEN ONLINE (CCCメディアハウス)

『誇り高き伝説ウォッチ』	2020年1月1日	スカイワード1月号（日本航空機内誌）
『トノウを活かす、細身の永久カレンダーと黒のカーボン』	2020年1月20日	Pen（本誌）＋PEN ONLINE（CCCメディアハウス）
『テイラードに合わせたいベストウォッチ——ティファニー 1837 メイカーズ』	2020年2月2日	GQ JAPAN（コンデナスト ジャパン）
『好対照を描く、機械式のレガシーとデザイナーズの前衛。』	2020年2月13日	Pen（本誌）＋PEN ONLINE（CCCメディアハウス）
『時計の名品や名デザインを呼び覚ましてくれる「インスパイア」——並木浩一の時計文化論』	2020年2月21日	WATCHNAVI（本誌）＋WATCHNAVI SALON（web）学研
『とりどりの色に表れる、古きよきミネルバの褪せない魅力。』	2020年2月26日	Pen（本誌）＋PEN ONLINE（CCCメディアハウス）
『クルマで言えば、同エンジンで片やサルーン、片やSUVの感覚。』	2020年3月11日	Pen（本誌）＋PEN ONLINE（CCCメディアハウス）
『丸形でも角形スケルトンでも、ぐっと引き立つ“ベージュゴールド”』	2020年3月27日	Pen（本誌）＋PEN ONLINE（CCCメディアハウス）

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会、デジタルアーカイブ学会、沖縄文化協会、沖縄映画研究会、日本語教育学会、放送批評懇談会、教育システム情報学会、日本出版学会、表象文化論学会		
（主な活動内容）		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
Precious WATCH AWARD 2019：審査員・授賞式プレゼンター	2019年12月5日	主催：小学館

吉 田 毅 (よしだ たけし) 教授



出生年 : 1963 (昭和38) 年
 在籍 : 2017 (平成29) 年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院体育研究科修士課程修了
 学位 : 博士 (体育科学)
 学位論文 : 競技者の青年期における困難克服プロセスに関する社会学的研究—主体的社会化論を手がかりに—
 専門分野 : スポーツ社会学
 前職 : 常葉大学健康プロデュース学部教授
 学内役職等 : スポーツ健康政策学科学科長
 留資格 :
 留資格 : 高等学校教諭一級普通免許 (保健体育)
 留資格 : 中学校教諭一級普通免許 (保健体育)
 非常勤講師 : 専修大学
 受賞・表彰 : 日本体育学会 学会賞 (2013年)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
2019年度から、科研費による「被災した地域スポーツクラブにおけるレジリエンスの担い手のライフヒストリー分析」に着手した (～2021年度)。この研究は前回 (2014～2016年度) の科研費による「東日本大震災で被災した地域スポーツ界の復興要因に関する社会学的研究」を発展させることを意図しており、いわば上記復興要因の深層について検討を加えるものである。2019年度は計画通り、東日本大震災の被災地、宮城県における被災した地域スポーツクラブ2つ (社会人クラブ及びスポーツ少年団) を対象にフィールドワーク (現地調査) を重ねた。この成果は2020年度中に論文にまとめる予定である。また、2019年度は前回の科研費による上記研究の成果を論文にまとめた (「桐蔭論叢」に掲載)。他にも、数年に亘って継続している「地域スポーツクラブ (ないし団体) の持続要因に関する研究」ならびに「被災地の復興・レジリエンスに関する複合的研究」として、宮城県におけるフィールドワークや、復興ないし防災・減災に関連するイベント等に参加した。長年の課題である「アスリートのキャリア形成問題」についても、特に次なる課題を導出すべく検討を重ねた。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
シンポジウム「学校教育におけるオリンピック・パラリンピックレガシーを問う」 (体育社会学専門領域) のコーディネータ及び座長を務めた。	2019年9月11日	日本体育学会第70回大会 (慶應義塾大学/横浜市)	吉田 毅
研究発表2題 (体育社会学専門領域) の座長を務めた。	2019年9月12日	日本体育学会第70回大会 (慶應義塾大学/横浜市)	吉田 毅
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「被災した地域スポーツクラブにおけるレジリエンスの担い手のライフヒストリー分析」 (研究代表者)	2019年4月～2022年3月	科学研究費補助金 (日本学術振興会)	
(その他特記事項)			
「体育学研究」 (日本体育学会) の投稿論文の査読を依頼され実施した (2編)。			
「コーチング学研究」 (日本コーチング学会) の投稿論文の査読を依頼され実施した (1編)。			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本社会学会	
2018年10月～現在	神奈川県立スポーツ施設指定管理者評価委員会委員長
2019年6月～現在	日本体育学会体育社会学専門領域研究委員

齋藤 れい (さいとう れい) 准教授



出生年 : 1974 (昭和49) 年
 在籍 : 2019 (平成31) 年4月～
 最終学歴 : 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了
 学位 : 博士 (スポーツ科学)
 学位論文 : スポーツ観戦における経験価値尺度 (EVSSC) の開発
 専門分野 : スポーツマーケティング、スポーツマネジメント、スポーツビジネス論
 前職 : 早稲田大学スポーツ科学部スポーツ科学科非常勤講師
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
授業内容のインターネット上での公開	2010年4月～	各大学のオンラインシステムを有効活用し、連絡事項のメール配信、課題やレポート等のリマインド、授業内配布資料やレジュメ等の公開を行っている。
ワールドカフェ方式を用いたグループワークの実施	2014年4月～	大教室における150人規模の学生を対象にアクティブラーニングを実施するにあたり、ワールドカフェ方式を用いてグループワークを行っている。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
競技ドッジボールの国内普及と強化ならびに国際化に向けての提言 (第28回大会アイデアコンペ論文・査読付き)	共著	2020年1月	スポーツ産業学研究, VOL. 30, No. 1	齋藤 れい, 佐藤 昂省, 伊藤 祐平, 桑原 大空, 粕谷 岬, 江越 昇也, 高橋 大成, 中野 佑哉, 立石 雄大	121-124頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
妊婦や子育て期女性と乳幼児が利用しやすい水中運動 (たとえばアクアビクス) 環境づくりに関する提言	2016年7月	第25回日本スポーツ産業学会, 順天堂大学, 東京	齋藤れい, 大高聡		
競技ドッジボールの国内普及と強化ならびに国際化に向けての提言 (第28回大会アイデアコンペポスター発表)	2019年7月	第28回日本スポーツ産業学会, 日本体育大学, 東京	齋藤 れい, 佐藤 昂省, 伊藤 祐平, 桑原 大空, 粕谷 岬, 江越 昇也, 高橋 大成, 中野 佑哉, 立石 雄大		

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「入賞」 (競技ドッジボールの国内普及と強化並びに国際化にむけての提案)	2019年7月	日本スポーツ産業学会第28回大会企画コンペ実施要項「アイデアコンペ「競技団体のさらなる発展に向けたアイデアを提案しよう」	齋藤れい、他ゼミ生一同
「一次審査通過」 新型コロナの影響による運動不足解消のための動画配信ポータルサイトに関する提言	2020年8月	日本スポーツ産業学会第29回大会企画アイデアコンペ「スポーツ界が新型コロナウイルス感染症に対応するためのアイデア」	齋藤れい、他ゼミ生一同
「一次審査通過」 新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった大会の代替大会実施とスポーツ推薦の提言	2020年8月	日本スポーツ産業学会第29回大会企画アイデアコンペ「スポーツ界が新型コロナウイルス感染症に対応するためのアイデア」	齋藤れい、他ゼミ生一同

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会, 日本スポーツマネジメント学会, 日本スポーツ産業学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
女子サッカーなでしこリーグ第2部 大和シルフィードにおけるSNSマーケティングインターン及び実践	2020年6月から	女子サッカーなでしこリーグ第2部 大和シルフィード

福 浦 一 男 (ふくうら かずお) 准教授



出生年 : 1967年 (昭和42) 年
 在籍 : 2017年 (平成29) 年4月～
 最終学歴 : 京都大学大学院文学研究科博士後期課程所定の研究指導認定退学
 学位 : 博士 (文学)
 学位論文 : 「北タイ、チェンマイの霊媒集団とその宗教実践」
 専門分野 : 比較社会学・文化人類学
 前職 : 滋賀医科大学非常勤講師
 学内役職等 :
 留学 : チェンマイ大学 (タイ)
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>2019年度は、北タイの伝統的な宗教実践者の諸事例を通して民衆の文化実践における「創造性」とその可能性を考察するこれまでの調査・研究 (JSPS科研費17K03280) を統合する作業に従事した。</p> <p>7月にはタイ、バンコクにおける国際学会The 2019 AAS-in-ASIA Conferenceにてパネルのオーガナイザー、チェア、プレゼンターとして参加し、発表した。ここでは東南アジア大陸部に位置する北タイの上座部仏教僧たちの儀礼実践とその重要性について議論した。11月にはフランス、パリの社会科学高等研究院 (EHESS) における国際ワークショップWorkshop on ‘Relocating Mainland Southeast Asia in Spirit Possession Studies’ に招待され、研究発表を実施した。さらに、2020年度に開催されるThe 2020 AAS-in-ASIA Conferenceにおいてもパネルのオーガナイザー、チェア、プレゼンターの任に当たることとなった。</p> <p>2020年度からは新たな研究がスタートする (JSPS科研費20K12458)。これまでの研究成果をさらに国内外に発信すると共に、新たな研究プロジェクトに邁進していく所存である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「梅屋 潔著『福音を説くウイッチ——ウガンダ・パドラにおける「災因論」の民族誌』」	単著	2020年2月1日	『ソシオロジ』第64巻3号 (197号)		148-152頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「現代社会と『再=呪術化』——東南アジア、タイの事例より」	2019年6月2日	関西社会学会第70回大会、於関西学院大学			
Resurrecting Lan Na Religiosity: Monks and Mediums in Chiang Mai, Northern Thailand	2019年7月1日	The 2019 AAS-in-ASIA Conference, Held in Bangkok, Thailand			
Ontology, Historicity, and ‘Multiple Modernities’: Examples of Spirit Worship and Mediumship in Chiangmai, Northern Thailand	2019年11月29日	Workshop on ‘Relocating Mainland Southeast Asia in Spirit Possession Studies’ at the Centre Asie du Sud-Est (EHESS) in Paris, France			

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
日本学術振興会	2017年4月～2020年3月	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 課題番号:17K03280 平成29年度 基盤研究(C) 北タイ、チェンマイの霊媒術と憑依文化の再編に関する人類学的研究
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Workshop on 'Relocating Mainland Southeast Asia in Spirit Possession Studies'	2019年11月26日～12月1日	Centre Asie du Sud-Est (EHESS) (フランス)
The 2019 AAS-in-ASIA Conference	2019年6月29日～7月6日	Thammasat University (タイ)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本文化人類学会、日本社会学会、日本宗教学会、関西社会学会、Asian Studies Association of Australia

小笠原 一彰 (おがさわら かずあき) 専任講師



出生年 : 1972(昭和47)年
在籍 : 2014(平成26)年4月～
最終学歴 : 横浜国立大学大学院教育学研究科健康・スポーツ系教育専攻
学位 : 修士(教育学)
学位論文 : 競泳選手のクリティカル・スイム・スピードの決定
専門分野 : コーチング学、トレーニング科学、運動生理学
前職 : 桐蔭学園中高社会科教員(専門:日本史)
学内役職等 :
留学 :
資格 : 中高社会科教員1種免許(地理歴史)
非常勤講師 : 早稲田大学スポーツ科学部(2015～現在)
受賞・表彰 : 早稲田大学体育名誉賞(1993)、神奈川県水泳連盟特別功労賞(2012)

I 教育活動

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1995年4月～現在	神奈川県水泳連盟強化委員
2000年4月～現在	神奈川県高校体育連盟水泳専門部常任委員

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 専任講師



出生年 : 1983 (昭和58) 年
 在籍 : 2012 (平成24) 年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士
 前期課程修了
 学位 : 修士 (体育科学)
 学位論文 : スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の
 指導場面に着目して－
 専門分野 : スポーツ哲学、バレーボール
 前職 : 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 (助手)
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 国際バレーボール連盟公認コーチ資格 (レベルII)
 公益財団法人日本バレーボール協会公認講師
 財団法人日本スポーツ協会バレーボールコーチ 4
 中学校・高等学校教諭専修免許状 (保健体育)
 中学校・高等学校教諭 1 種免許状 (保健体育)
 実用フランス語技能検定 3 級
 自然体験活動指導者 (自然体験活動リーダー)
 バルシューレジャパン公認バルシューレ指導者C級

 非常勤講師 : 日本工学院八王子専門学校
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
バレーボール、バレーボールコーチング論、バレーボール指導法、アウトドア実習Ⅰ、アウトドア実習Ⅱ	2019年4月1日	授業用の教材として学生配布用資料を作成

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
運動部活動の暴力問題に関する研究：桐蔭論叢第40号、桐蔭論叢第42号 バレーボールに関する研究：桐蔭スポーツ科学第3巻					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
運動部活動における暴力問題	単著	2019年6月	桐蔭論叢第40号		77 - 84頁
体罰に関する研究	単著	2020年6月	桐蔭論叢第42号		101 - 108頁
世界トップレベルチームのクイック攻撃技術に関する研究－アメリカ選手と日本選手の比較－	共著	2020年2月	桐蔭スポーツ科学第3巻2020	吉田康成・西博史・佐藤国正	35 - 43頁

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本体育・スポーツ哲学学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本野外教育学会、日本オリンピックアカデミー、日本オリンピック委員会、日本バレーボール協会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2017年～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ）：バレーボール競技	
2017年～現在	日本バレーボール協会アンチ・ドーピング委員会主事	
（主な活動内容）		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
FIVBビーチバレーボールワールドツアー 2019 4-star 東京大会実行委員医事担当	2019年7月24日～28日	国際バレーボール連盟・日本バレーボール協会

田 中 宏 和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年 : 1977 (昭和52) 年
 在籍 : 2008 (平成20) 年4月～
 最終学歴 : 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程 単位取得後退学
 学位 : 修士 (体育科学)
 学位論文 : 戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体育政策」から「スポーツ政策」への転換－
 専門分野 : スポーツ行政学、スポーツ政策学
 前職 : 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 中学校教諭専修免許 (保健体育)
 : 高等学校教諭専修免許 (保健体育)
 非常勤講師 : 東洋大学、東京有明医療大学
 受賞・表彰 :

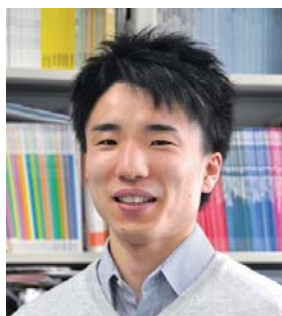
I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
映像を用いた実技授業	2008年4月～現在	実技科目 (剣道・剣道指導法・剣道コーチング論) において、習得すべき技術を映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。
レポートによる種目特性の習得	2008年4月～現在	実技科目 (剣道・剣道指導法) において実技技能以外の種目特性の習得のためレポートの作成等の工夫を行っている
映像を用いた授業	2014年4月～現在	地域スポーツ経営論において地域スポーツの現状を把握するために映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

尾 山 裕 介 (おやま ゆうすけ) 助教



出 生 年 : 1989 (平成1) 年
 在 籍 : 2018年 (平成30) 年4月～
 最 終 学 歴 : 新潟大学大学院現代社会文化研究科人間形成研究専攻
 修了
 学 位 : 博士 (学術)
 学 位 論 文 : 中高齢者を対象とした転倒予防に基づく動的姿勢制御
 能力の評価法の確立
 専 門 分 野 : 応用健康科学、測定評価学、健康づくり
 前 職 : 医療法人宮仁会 猫山宮尾病院事務部健康づくり課
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 健康運動指導士、温泉利用指導者、2級フィットネスク
 ラブ・マネジメント技能士、高等学校教諭専修免許
 (保健体育)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 日本体育学会測定評価専門分科会優秀発表賞 (2013年8
 月、2015年8月)、日本体育測定評価学会優秀発表賞
 (2016年3月)

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>高齢者の転倒予防を目的とした動的姿勢制御能力(足踏み動作)について研究を進めた。それらの成果を日本スポーツ健康科学学会(8月)、日本体育学会(9月)、日本体力医学会(9月)で発表した。今後は、縦断的調査によって転倒や疾患との関連や歩行能力との関連について検討し、足踏み動作による運動機能の評価法の確立を目指す。また、これまで行ってきた青葉区との連携事業(ウォーキングイベントの企画・運営)に基づいて作成したウォーキングマップについて論文化した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
片脚の変形性膝関節症および膝痛が足踏み動作における床反力の左右差の関係	共著	2019年6月	体力科学68巻3号	尾山裕介、村山敏夫、太田玉紀	215-221頁
地域資源を活用したウォーキングマップの作成—横浜市青葉区の事例—	共著	2019年10月	文理シナジー23巻2号	尾山裕介、吉田勝光	171-178頁
不安定傾斜板上の立位姿勢保持能力における信頼性	共著	2020年3月	体育測定評価研究19巻	尾山裕介、村山敏夫、太田玉紀	39-46頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭) 地域との連携事業におけるウォーキングマップ製作	2019年5月	第46回文理シナジー学会令和元年度春の大会(筑波大学東京キャンパス文京校舎/東京都文京区)	尾山裕介、吉田勝光		
(口頭) 足踏み動作能力は歩行能力の代替となりうるか—量的および質的評価から—	2019年8月	日本スポーツ健康科学学会第7回大会(桐蔭横浜大学/神奈川県横浜市)	尾山裕介、亀岡雅紀、坂口雄介、村山敏夫		
(ポスター) 女性高齢者における足踏み動作を用いた転倒リスクの評価—転倒群と非転倒群の比較—	2019年9月	日本体育学会第70回大会(慶応義塾大学/神奈川県横浜市)	尾山裕介、亀岡雅紀、坂口雄介、村山敏夫		

(ポスター) 時間経過に伴う足踏み動作の変化—足踏みの動作開始時に着目して—	2019年9月	第73回日本体力医学会大会 (つくば国際会議場/茨城県つくば市)	尾山裕介、亀岡雅紀、坂口雄介、村山敏夫、原光希、太田玉紀
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
みらいづくり大学あおば魅力ガイド講座	2019年7月6日	横浜市青葉区	青葉区役所(横浜市)
専門家から学ぶ!正しいウォーキング講座!	2019年9月26日	大場地域ケアプラザ	大場みすずが丘地区センター(横浜市)
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
バランス評価機器の開発ならびに運動機能分析装置を使用した研究	2020年4月～	株式会社タニタ、新潟大学	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
敏捷性と平衡性を複合した転倒回避能力の評価法と運動実践プログラムの提案	2020年4月～2022年3月	科学研究費補助金	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
あおば健康スタイル正しいフォームで効果的に歩こう!	2019年7月	広報よこはま	
青葉健康ウォーキング	2019年10月	cocotizu青葉区	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会 日本体力医学会 日本体育測定評価学会 日本健康支援学会 地域デザイン学会 文理シナジー学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015年4月～現在	地域デザイン学会 温泉文化フォーラム 運営委員	
2019年4月～現在	日本健康運動指導士会神奈川県支部 理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大学生と巡る青葉パラウォーク(ウォーキングイベントの企画・運営)	2019年5月26日	横浜市青葉区福祉保健課
奈良・すみよし台地区 体力測定会	2019年5月28日、2020年1月21日	奈良地区社会福祉協議会(横浜市青葉区)
健康フェスティバル(体力チェックのブースを出展)	2019年11月3日	横浜市青葉区福祉保健課
桐蔭横浜大学の学生と歩く冬の寺家ふるさと村から青葉台へ(ウォーキングイベントの企画・運営)	2019年12月8日	横浜市青葉区福祉保健課
高齢者を対象とした運動教室	2019年4月～	各種サークル、サロン

溝上 慎一 (みぞかみ しんいち) 学長



出生年 : 1970 (昭和45) 年
 在籍 : 2018年9月～
 最終学歴 : 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程 教育心理学専攻修了
 学位 : 京都大学博士 (教育学) 学位取得
 学位論文 : 青年の自己感情とそれを規定する自己の諸相—青年の内在的視点と固有の文脈を考慮して—
 専門分野 : 心理学 (現代青年期、自己・アイデンティティ形成、自己の分権化) と教育実践研究 (学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジションなど)。
 前職 : 京都大学高等教育研究開発推進センター 教授/教育アセスメント室長 (教育学研究科兼任)
 学内役職等 : 学校法人桐蔭学園 理事長/トランジションセンター 所長・桐蔭横浜大学学長
 留学資格 : オランダ・ナイメーヘン大学・在外研究員 (2000年)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 日本青年心理学会学会賞 論文名「自己形成を促進させる自己形成モードの研究」

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	编者・共著者名	該当頁
(著書)					
「未来を語る高校」が生き残る 鼎談 研究者が語る高校教育のこれから	共著	2019年6月14日	学事出版	中原淳 (監修) 松村灯・渡邊優子 (編) 日本教育研究イノベーションセンター (編集協力) 安彦忠彦・田中義郎・溝上慎一	pp. 78-95.
(学術論文)					
大学生のリーダーシップ自己効力感に関する研究—時間的・空間的展望に着目して—	共著	2019年	日本リーダーシップ学会論文集, 2, 23-30.	武田佳子・溝上慎一	
授業内の他者との関係に対する認識がアクティブラーニング型授業における外化に及ぼす影響	共著	2019年	大学教育学会誌, 41(1), 88-96.	本田周二・紺田広明・三保紀裕・山田嘉徳・森朋子・溝上慎一	
高校1年生のジョブシャドウイングへの参加がキャリア意識に与える影響	共著	2019年9月30日	キャリアデザイン研究, 15, 151-160.	一蝶亮・登本洋子・溝上慎一	
高校のリーダーシップ経験が大学生のリーダーシップ自己効力感に与える影響	共著	2020年2月1日	日本リーダーシップ学会論文集, 3, 15-21.	武田佳子・溝口侑・溝上慎一	

青年期・成人期初期におけるアイデンティティの発達傾向と人生満足感の関連－大規模横断調査に基づく検討－	共著	2020年3月20日	発達心理学研究, 31(1), 26-36.	畑野快・杉村和美・中間玲子・溝上慎一・都筑学	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
高校・大学のリーダーシップ経験が、レジリエンス・リーダーシップ自己効力感に与える影響について		2019年6月1日	大学教育学会第41回発表要旨収録, 230-231（玉川大学）	武田佳子・溝口侑・溝上慎一	
リーダーシップ経験の自己評価と困難度が大学生のリーダーシップ自己効力感に与える影響について		2019年8月21日	第2回未来のマナビフェス2019ポスター発表（工学院大学）	武田佳子・溝口侑・溝上慎一	
総合的な探究の時間における探究の各過程の手法の理解		2019年8月25日	日本教育情報学会第35回年会（岡山理科大学）	登本洋子・溝上慎一・堀田龍也	
困難なリーダーシップ経験の達成が、リーダーシップ自己効力感へ与える影響について		2019年8月31日	JLA 第4回研究講演会論文集, 9-10.（工学院大学）	武田佳子・溝口侑・溝上慎一	
主体的な学修態度と学習時間が学修成果に及ぼす複合的影響		2019年9月8日	日本教育工学会2019年秋季全国大会（名古屋国際会議場）	畑野快・溝上慎一	
大会企画シンポジウム「地域を探究する生徒－アクティブラーニングの現在地を越えて－」		2019年9月11日	日本心理学会第83回大会（立命館大学）	溝上慎一	
ロールモデルを求める理由とその類型－モデルがない大学生の分析－		2019年12月22日	日本青年心理学会第27回大会（東京工芸大学）	溝口侑・溝上慎一	
青年期「発達」に対する「自己成長」の視座		2019年12月22日	日本青年心理学会第27回大会（東京工芸大学）	溝上慎一	
国際交流委員会シンポジウム「研究を国際的に展開・発信する意義と課題－若者の社会移行を例に－」指定討論		2019年12月22日	日本青年心理学会第27回大会（東京工芸大学）	溝上慎一	
大学のリーダーシップ自己効力感が入社1年目のキャリア形成に与える影響について		2020年3月18日	第26回大学教育研究フォーラム発表論文集, 53（京都大学）	武田佳子・溝口侑・溝上慎一	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所	
「主体的・対話的で深い学びのための授業づくりの実践的なポイント－生徒の資質・能力を育成するために－」		2019年5月9日	福井県教育委員会講演		
「トランジションリレー－児童生徒の学びと成長のために－」		2019年5月22日	埼玉県立総合教育センター研修会講師		
「あらためてアクティブラーニング型授業に向けて」		2019年5月23日	花園学園全体研修会講演		
すべての保護者たちに贈る「これからの教育」講演会「伸び悩む学生、社会人になってとまどう若者－今、大学や職場で何が起きているのか？－」		2019年5月24日	Mismo（神奈川県川崎市新百合ヶ丘地域）主催		
「今、なぜ「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業が求められているのか？」		2019年6月3日	群馬県立高崎北高等学校授業改善研修講師		

「アクティブラーニング型授業への転換と生徒の学びと成長」	2019年6月11日	育英西中学校・高等学校講演会	
「これからの学校教育で大事だと思うこと」	2019年6月12日	NPO法人青春基地イベントゲスト	
「大学での学び、さらには仕事・社会へのトランジションを見据えたアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）」	2019年6月8日	New Education Expo 2019（東京会場）講演	
「大学での学び、さらには仕事・社会へのトランジションを見据えたアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）」	2019年6月14日	New Education Expo 2019（大阪会場）講演	
「高等学校での学びと成長－「高い志」の将来的な実現に向けて－」	2019年6月20日	静岡県立沼津東高等学校校内研修会講演	
「アクティブラーニングを経験して入学する高校生を大学は受け止められるか？－2030年（以降）の社会を見据えて－」	2019年6月28日	早稲田大学大学総合研究センター主催講師	
「高校から、大学・社会へのトランジションを目指した高大接続改革－ふだんの授業改善の考え方や方法等について－」	2019年7月2日	茨城県教育研修センター講演	
「アクティブラーナーを育てる教員集団を育てるには」	2019年7月6日	やまゆりの会（神奈川県立学校女性管理職の会）講演	
「今、大学や職場で何が起きているのか？－将来を見据えて、これからの子どもの教育や子育てを考える－」	2019年7月17日	桐蔭学園トランジションセンター主催保護者向け教育講演会	
「学校から仕事・社会へのトランジションを見据えたアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）と外化」	2019年7月22日	埼玉県立総合教育センター研修講師	
「アサーティブプログラムから示唆される高大連携と教学マネジメント－大学生になってからでは遅い－」	2019年7月27日	追手門学院大学アサーティブシンポジウム基調講演	
「学生の学びと成長を促す授業と組織改革－トランジション調査から見る教育の課題と対策－」	2019年7月28日	IRフォーラム（大学コンソーシアム京都・リアセック主催）基調講演	
「アクティブ・ラーニング施策から見る高等教育の世界」	2019年8月1日	大正大学チューター養成講座講師	
「トランジションを見据えた総合的な探究の時間－SSHやSGH、課題研究とは目指すものが異なることを理解する－」	2019年8月2日	第14回神奈川大学高大連携協議会フォーラム基調講演	
「学校と仕事・社会をつなぐ「トランジション」の学びフォーラム講演「学びと成長をアセスメントするIR（Institutional Research）の展開－中等教育段階の教育の質保障とアカウンタビリティの構築のに向けて－」	2019年8月4日	桐蔭学園トランジションセンター主催	
アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット2019（京都）パネリスト	2019年8月5日	文部科学省主催	
「ようこそ リーダー育英塾へ！」 「トランジション・レクチャー」ほか	2019年8月17～19日	公益財団法人電通育英会主催 2019年度リーダー育英塾 監修	
「みんなではぐくむ学びの未来」	2019年8月21日	未来へのマナビフェス2018 実行委員長・オープニングセッション	

「今、大学や職場で何が起きているのか？ー将来を見据えて、これからの子どもの教育や子育てを考えるー」	2019年9月3日	桐蔭学園主催お子様をお持ちのすべての方対象教育講演会	
「「全員」の学びに向かう力を育てる主体的・対話的で深い学び/資質・能力の育成を目指して」	2019年9月4日	(京都府南丹市立)園部小学校校内授業研究会講評	
「アクティブラーニング(外化)と社員教育」	2019年9月6日	福岡中小企業経営者協会講演	
「トランジションに向けた学生の学びと成長ー社会で活躍するためにー」	2019年9月18日	武蔵野大学全学FDSD研修会講師	
「社会に関わり、社会を変える学校教育を指して」	2019年9月21日	日本ソーシャル・イノベーション学会2019年夏季セミナー講演	
「自己と他者の観点から見た学習ー「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね」をどう見るかー」	2019年9月23日	アクティブラーニング実践フォーラム2019特別講演	
「学校から仕事・社会へのトランジションを見据えたアクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)」	2019年9月27日	神奈川県深沢高等学校講演会	
「将来を見据えてこれからの子どもの教育や子育てを考える」	2019年10月2日	帝塚山学院中学校高等学校	
「自己形成の心理学ーさまざまな私のぶつかりをどう調整して、成長に繋げるかー」	2019年10月10日	桐蔭学園トランジションセンターOPEN記念講座	
「アクティブラーニングの必要性とその実現に向けてー生徒の身体性をいかにアクティブにするかー」	2019年10月15日	開星中学校・高等学校公開教育研究会講師	
「2030年以降の社会を生き抜く中高生の資質・能力を育てる」	2019年10月26日	NPOまちと学校のみらい主催フォーラム講演	
「大学生の学びと成長を支援するために」	2019年10月28日	全国大学生協連学びと成長事業協議会講演	
「学習定着に繋げるアクティブラーニング型授業を目指してー「自己調整型」の主体的な学習までアプローチできれば実現は難しいー」	2019年11月8日	花園学園AL型授業実践研究会記念講演	
「アクティブラーニング型授業の基本形」	2019年11月12日	富士市立高等学校アクティブラーニング授業研究会講師	
「見直される多様な正課外活動の意義とその支援方策」講演	2019年11月15日	学生支援相談に関する研究会(NPO法人学生文化創造主催)	
「学校から仕事・社会へのトランジションに向けたアクティブラーニング型授業ー大学生になってからでは遅いー」	2019年11月16日	東北大学第42回情報リテラシー連続セミナー講師	
「主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践ーこれまでの授業をふり返ってー」	2019年11月19日	南丹市立園部中学校研究発表会記念講演	
「高校2年生から大学4年生まで生徒はどう変わったか？ー高大接続改革、資質・能力の育成の意義をデータから見るー」	2019年11月23日	「学校と社会をつなぐ調査」第4回調査分析結果報告&シンポジウム講演	
「個性の観点から見る「深い学び」を拡張する」	2019年11月24日	第5回授業UD学会全国大会提言	
「共通理解と個性ー深い学びに繋げて」	2019年11月25日	神奈川県立百合ヶ丘高等学校研究授業講評・講義	

「探究型社会における学びと学校経験－ 学者と経営者の観点から－」	2019年11月29日	東京都立高等学校長実践研 究会講演会	
「教育改革の視座から探究的な学習と学 校図書館を考える」	2019年11月30日	公開シンポジウム「教育改 革のための学校図書館」コ メント報告	慶應義塾大学三田キャンパス
「手応えを感じるアクティブラーニング 授業とするために－知識理解の定着と自 己の成長に向けて－」	2019年12月3日	静岡県立浜松湖南高等学校 校内研修講師	
株式会社ビタミンママ主催「2020年か らの学習指導要領を知る」アクティブラ ーニング体験ワークショップ「子どもた ちに何が求められているのか」	2019年12月6日	株式会社ビタミンママ	
「アクティブラーニングにおける外化 (個性) で児童生徒の発達・人生が見え る」	2019年12月7日	日本人間教育学会第5回大 会講演	
「トランジションをと資質・能力/ウェル ビーイングを見据えたアクティブラー ニング・探究的な学習の発展」	2019年12月18日	宮城県仙台第三高等学校 SSH中間報告会・授業づく りプロジェクトフォーラム 基調講演	
「トランジションに向けたアクティブ ラーニング授業への転換－外化を通して 生徒を育てる－」	2019年12月25日	神奈川県立保土ヶ谷高等学 校研修会講師	
「将来を見据えて子どもの教育を考え る」	2020年1月10日	横浜市立荏田西小学校保護 者向け講演会	
「乳幼児期からの人の発達をふまえてア クティブラーニングを理解する」	2020年1月11日	東京都高等学校アクティ ブ・ラーニング型授業研究 会第2回講演会・協議会	
「探究的学びと高大接続」	2020年1月13日	NPO学校支援協議会主催シ ンポジウム パネリスト	
「アクティブラーニングにおける基本形 －高大接続をにらんで学生を育てる大学 に－」	2020年1月15日	神奈川県立保健福祉大学FD 研修会講師	
「人生100年時代をどう生きるか－充実し たセカンドライフとは－」	2020年1月25日	横浜市都筑区民活動セン ター主催 大人の学級2019 公開講座	
「習得・活用・探究の学習観とアクティ ブラーニング－直接経験を超越して直接経 験に戻るために－」	2020年1月28日	静岡都市立高等学校合同研 修会講師	
「トランジションに向けたアクティブ ラーニング型授業への転換－枠を押さえ て枠を超える－」	2020年1月29日	静岡県立大学看護学部・全 学FD講演会講師	
「探究的学習者を育てる理論と実践」	2020年2月4日	島根大学現職教員研修講師	
「青年期の自己・アイデンティティ形 成」	2020年2月10-12 日	京都大学大学院教育学研究 科(学部共用) 集中講義	
「先を見据えて、今育てるべきところ、 非認知能力を育てる」	2020年2月5日	一般社団法人ダヴィンチマ スターズ主催	
「アクティブラーニング(外化)を通し て生徒を育てる－トランジションの実現 に向けて－」	2020年2月18日	東京都立成瀬高等学校アク ティブラーニング研修会講 師	
「アクティブラーニング型授業の基本 形」	2020年2月23日	花園中学・高等学校第2回 新任教職員研修会講師	
「教養体育における学生の学びと成長－ トランジションに向けたアクティブラ ーニングの推進－」	2020年3月10日	大学体育指導者養成研修会 (公益財団法人全国大学体 育連合主催) 講師	

○その他		
(産学協同研究)		
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称
大学生調査アドバイザー	2007年～現在	公益財団法人 電通育英会
研究顧問	2018年～現在	学校法人河合塾教育研究開発本部
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
学生エンゲージメントを高める教授・学習環境に関する総合的研究	2018年4月～2021年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会) 基盤研究(C) 分担
高校生の深い学びのメカニズムの解明と理論化—高大接続研究の観点から—研究課題	2018年4月～2023年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会) 基盤研究(B) 分担
高大接続・トランジションを見据えた高校IRとカリキュラムアセスメントの開発	2019年4月～2023年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会) 基盤研究(B) 代表
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
深い学びに隠されたメッセージ—体育における言語活動—	2019年4月	体育科教育
アクティブラーニングの新篇章(下)—協働の力は育っているか—	2019年4月1日	教育新聞
心からアクティブになるアクティブラーニング(鼎談)	2019年4月	医学界新聞
Book Review:溝上慎一著『大学生白書2018—いまの大学教育では学生を変えられない—』<著者からの紹介>	2019年5月	『IDE(現代の高等教育)』No.610, 2019年5月号
アクティブ・ラーニングの視点で学びを深める—何が新しく求められているのか—	2019年5月1日	『教育展望』第65巻第4号
人物風土記 溝上慎一さん 日本の教育向上させたい	2019年6月	タウンニュース(横浜市青葉区版) No.1262
アクティブ・ラーニングや主体的・対話的で深い学びのそもそも論、今求められること	2019年7月	全国公立学校教頭会編『学校運営』No.696
大学生を大化けさせることは難しい。しかし「成長」させることはできる—教学マネジメントと関連づけて—	2019年7月	『IDE(現代の高等教育)』No.612, 2019年7月号
(特別インタビュー) みんなではぐくむ学びの未来—「未来の学びフェス2019—2030年の学びをデザインする」開催にあたって—	2019年8月1日	『月刊高校教育』第52巻第9号
「探究のプロセス」を考える—探究活動の実践を通して—	2019年9月4日	神奈川新聞
桐蔭学園の教育改革 トランジションセンターを中心に生涯学習を—長年の研究に裏打ちされた教育—	2019年10月8日	教育学術新聞

ICTを活用すればこそそのアクティブラーニングを目指して	2019年10月10日	三省堂『教育最前線』第5号
桐蔭学園「気づき」を体験—一般向け講座を開講中—	2019年10月24日号	タウンニュース（横浜市青葉区版）
大学教育「質の改善必要」93%—「学修成果の可視化」最多	2019年11月8日	読売新聞
学校改革がここまで求められる理由（コラム「学校と社会をつなぎ直す」①）	2020年1月16日号	タウンニュース（横浜市青葉区・都筑区版）
社会で生きる個性を育てる（コラム「学校と社会をつなぎ直す」②）	2020年2月13日号	タウンニュース（横浜市青葉区・都筑区版）
「高大接続改革」どう進める—「1点刻み」が公平なのか—	2020年2月19日号	読売新聞
自ら学び続ける人材を育てる	2020年3月1日号	リバネス出版『教育応援』Vol. 45
外化としてのアクティブラーニング（コラム「学校と社会をつなぎ直す」③）	2020年3月12日号	タウンニュース（横浜市青葉区・都筑区版）
新学習指導要領 変わる小学校教育（下）—「主体的・対話的」実践 意味出し合い 深い学び—	2020年3月31日	産経新聞

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本教育心理学会，日本青年心理学会，日本発達心理学会，大学教育学会，日本キャリアデザイン学会，日本教育工学会，SRA，ISRI，日本授業UD学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年～現在	大学教育学会理事
2006年～現在	日本青年心理学会理事
2007年～現在	電通育英会大学生調査アドバイザー
2012年～現在	Journal of Adolescence, Editorial Board委員
2014年～現在	京都市立西京高等学校SGH運営指導委員
2017年～現在	龍谷大学経済学部 授業内ピアサポーター有識者会議 委員
2018年～現在	文部科学省 生涯学習政策局「社会人の学びの情報アクセス改善に向けた実践研究」審査委員
2018年～現在	学校法人河合塾教育研究開発本部研究顧問
2018年～現在	立命館守山高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員
2018年～現在	三省堂教科書（国語・英語）編集協力委員
2019年～現在	大正大学外部評価委員

森 朋子 (もり ともこ) 教授 (2020年度 新任教員)



出生年 :
 在籍 : 2020年4月～
 最終学歴 : 大阪大学言語文化研究科博士後期課程
 学位 : 博士 (言語文化学)
 学位論文 : 初年次教育のエスノグラフィー
 専門分野 : 学習研究, 学習理論, 質的研究, 大学における教学マネジメント研究
 前職 : 関西大学教育推進部教授
 学内役職等 : 副学長、教育研究開発機構長、学務部長
 留学資格 : ケルン大学哲学部 (ドイツ)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
What カリキュラム・マネジメントとは何かを学ぶ 学校全体での「水平的学習」の推進に向け、学校教育目標の構造化を	単著	2019年6月	View21. 高校版 2019(2)		6-9頁
(学術論文)					
授業内の他者との関係に対する認識がアクティブラーニング型授業における外化に及ぼす影響	共著	2019年5月	大学教育学会誌41巻1号	本田 周二、紺田 広明、三保 紀裕、山田 嘉徳、森 朋子、溝上 慎一	88-96頁
ラウンドテーブル報告 質的研究を考える : 学生、教員、職員の学びと成長を捉える学習研究の手法として	共著	2020年1月	大学教育学会誌41巻2号	森 朋子、山田 嘉徳、上島 洋佑	57-61頁
大人数授業におけるアクティブラーニングとしてのジグソー法の導入	共著	2020年5月	工学教育68巻3号	片山 昇、高木 優香、金 冑男、本田 周二、森 朋子	2-7頁

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
未来を予測し学生の主体性を高める フィードフォワード型教学IRのシステム 構築	2018年6月～2021年3月	挑戦的研究(萌芽)
高校生の深い学びのメカニズムの解明と 理論化ー高大接続研究の観点からー	2018年4月～2023年3月	基盤研究(B)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本教育心理学会、日本教育工学会、日本認知科学会、日本教育学会、大学教育学会、初年次教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2018年～2019年	文部科学省中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会臨時委員
2014年～	文部科学省大学教育再生加速プログラム (AP) 委員
2017年～	広島大学高等教育研究開発センター研究員
2017年～	兵庫県立加古川東高等学校SSH運営委員
2019年～	島根県立松江東高等学校「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」運営委員

武田佳子 (たけだ よしこ) 准教授 (2020年度 新任教員)



出生年 : 1962 (昭和37) 年
 在籍 : 2018 (平成30) 年6月～
 最終学歴 : 京都大学大学院教育学研究科修士課程修了
 学位 : 教育学 (修士)
 学位論文 : 大学生のリーダーシップ自己効力感に関する研究－時間と社会性の関係に着目して－
 専門分野 : 教育学 (高等教育)
 前職 : 株式会社ワオ・コーポレーション
 学内役職等 : 地域連携・生涯学習センター副センター長
 トランジションセンター副所長
 留学 : なし
 資格 : 国家資格キャリアコンサルタント 中学校教員免許1種 (国語) 高等学校教員免許2種 (国語) 秘書技能検定1級 (元 秘書技能検定 準1級面接試験管)
 非常勤講師 : なし
 受賞・表彰 : なし

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>リーダーシップ自己効力感の研究を継続しており、大学四年次と新入社員一年目の縦断調査 (2019年末) を行った。レジリエンス・リフレクションなど先行研究でリーダーシップ自己効力感と相関が高いとされている変数との因果関係を分析した。レジリエンスがリーダーシップ自己効力感に影響を及ぼしていること、リフレクションがリーダーシップ自己効力感に有効であることなどが明らかになり、大学生フォーラム・大学教育学会、リーダーシップ学会で発表。社会人一年目の組織社会化との関連の分析も行い、組織社会化がうまく移行できた場合には、その後のリーダーシップ自己効力感に正の影響を及ぼすことが明らかになった。</p> <p>現在、科研申請中で縦断調査の発展、新卒学生の適応のための大学教育・新卒時の研修などスムーズな接続のための有効な施策を継続して研究していきたい。前回の調査では、入社前後の研修や経験の項目を分析項目に落とし込めなかったため、今回の分析ではそこを明確にしていきたい。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
高校のリーダーシップ経験が大学生のリーダーシップ自己効力感に与える影響 (査読有)		2020年2月1日	日本リーダーシップ学会論文集3号	武田佳子、溝口侑、溝上慎一	15-21頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
高校・大学のリーダーシップ経験が、レジリエンス・リーダーシップ自己効力感に与える影響について	2019年6月1日	大学教育学会第41回発表要旨収録, 230-231 (玉川大学/東京都町田市)	武田佳子・溝口侑・溝上慎一
リーダーシップ自己効力感にリフレクションが与える影響について -大学四年次と入社一年目の縦断調査から-	2020年6月6日	大学教育学会第42回発表要旨収録, 266-267 (オンライン開催)	武田佳子・溝口侑・溝上慎一
(ポスター発表) リーダーシップ経験の自己評価と困難度が大学生のリーダーシップ自己効力感に与える影響について	2019年8月21日	第2回未来のマナビフェス2019 (東京工科大学/東京都)	武田佳子・溝口侑・溝上慎一
(座長) 困難なリーダーシップ経験の達成が、リーダーシップ自己効力感へ与える影響について	2019年8月31日	JLA 第4回研究講演会論文集, 9-10. (工学院大学/東京都)	武田佳子・溝口侑・溝上慎一
大学のリーダーシップ自己効力感が入社1年目のキャリア形成に与える影響について	2020年3月18日	第26回大学教育研究フォーラム発表論文集. 53 (京大大学/京都市 オンライン開催)	武田佳子・溝口侑・溝上慎一

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
学校と地域 【招待講演】	2020年8月20日	横浜市青葉区	青葉区区民活動センター (横浜市青葉区)
「全員に求められる、リーダーシップとはーリーダーシップ自己効力感に着目してー」 【招待講演】	2020年2月22日	第30回愛媛大学法文学部国語国文学会	愛媛大学
「リーダーシップ自己効力感について」 【招待講演】	2019年10月2日	MSTC先進製造科学研究会第2回	東京大学
「全員に求められる、リーダーシップって何？」 【招待講演】	2019年9月26日	特定非営利活動法人まちと学校のみらい	大人の学びの場@FOCAS (横浜市青葉区)
「女性のキャリアについて」 ゲストスピーカー	2016年12月	京都光華女子大学・短期大学部	京都光華女子大学・短期大学部 (京都市)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本キャリアデザイン学会 日本教育工学会 大学教育学会 日本リーダーシップ学会

松井晋作 (まつい しんさく) 専任講師 (2020年度 新任教員)



出生年 : 1984 (昭和59) 年
 在籍 : 2020 (令和2) 年4月
 最終学歴 : 早稲田大学大学院文学研究科史学 (日本史) 専攻修了
 学位 : 修士 (文学)
 学位論文 : 天保初期における長州藩被差別部落について—天保二年一揆を素材として—
 専門分野 : 教育社会学
 前職 : 多摩大学
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
SDGs文化祭の実施	2019年7月～現在に至る	関東地方ESD活動支援センターと連携し、中高生向けのSDGsを学ぶ教育実践プログラム (ESDとGCEDを包含した学び) を開発した

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
ESDとGCEDを包含した学びの実践を、関東地方ESD活動支援センターと共にに行った。 詳細は、次の通り。 https://kanto.esdcenter.jp/sdgs_culture-fes2019-01/

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（学術論文）					
定時制高等学校と工業高等学校におけるアクティブ・ラーニングの授業デザイン-「誰ひとり取り残さない社会」の実現のためのESDの推進を目指して-		2020年3月	アクティブ・ラーニング研究 1(1)	松井晋作・西谷真一・田中駿一	59頁 - 67頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
（口頭発表）日本のユネスコスクールの課題と今後のESD発展への提言	2019年8月	日本ESD学会第二回大会（宮城教育大学／宮城県）			
（口頭発表）学校と仕事・社会をつなぐトランジションとSDGsをとりまく共生社会	2019年11月	関係性の教育学会（文京区民センター／東京都）			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所		
（招待講演）高大接続を意識したSDGsの取り組み	2019年8月	昭和大学現代教育研究所 教育研究公開セミナー 対話する学校～持続可能な研修と知の形成について～	昭和女子大学（東京都）		
（招待講演）高校生のSDGsの学び	2019年8月	神田外語大学SD研修	神田外語大学（千葉県）		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本環境教育学会，日本ESD学会，日本アクティブラーニング学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2018年4月～現在に至る	日本アクティブ・ラーニング学会評価部会長
2019年11月～現在に至る	日本ESD学会調査ワーキンググループ委員

吉田 功 (よしだ いさお) 専任講師 (2020年度 新任教員)



出生年 : 1968 (昭和43) 年
在籍 : 2020 (令和2) 年4月～
最終学歴 : 一橋大学経済学部
学位 : 経済学士
学位論文 :
専門分野 : 公共論、メディア論、歴史社会学、日本現代経済史
前職 : NHK放送文化研究所メディア研究部
学内役職等 :
留資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略

NHK文研フォーラム企画研究など

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本マスコミュニケーション学会、日本オーラルヒストリー学会

大学院 工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本 恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964 (昭和39) 年
 在籍 : 1993 (平成5) 年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
 前職 :
 学内役職等 : 大学院アドミッション委員(2012～)
 留学 :
 資格 : 第一種情報処理技術者
 日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999～)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞
 建設施工と建設機械シンポジウム2014 論文賞
 建設施工と建設機械シンポジウム2017 優秀論文賞
 日本非破壊検査協会 平成30年度学術奨励賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
基礎情報処理	2015年4月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。大学院授業で使用。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「世界中のコンクリート欠陥探査の常識が変わる！？ -最新 非接触音響探査法のすべて-」	2014年9月27日～	学園祭フロンティアセミナーにおける講演、非接触音響探査法に関する最新Topic (参加者、理数科約30名) (2014年より5年連続担当)
4. その他教育活動上特記すべき事項		
「風も無いのに葉っぱが揺れる？」 おもしろ理科教室	2013年～	パラメトリック音源を用いた音響放射圧の実験(2013年より6年連続担当)
「非接触音響探査法に関する研究」 桐蔭高校サイエンスプログラム	2018年～	非接触音響探査法を用いた実験及び研究

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
・農工融合計測 1. 植物映像のゆらぎ解析による作物給水ニーズの推定（基盤C、分担研究者3年目、H28.4-H31.3） ・非破壊計測 1. 非接触音響探査を用いたコンクリートの強度評価に関する研究（基盤C、分担研究者3年目、H29.4-R02.3） 2. マルチロータ型ヘリコプターを用いた非接触音響探査法に関する研究（若手B、協力研究者3年目、H29.4-R02.3） 3. 非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討（国土交通省 建設技術研究開発助成制度H29.8-H31.3） 4. 軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討（合同研究 プロテック㈱ H28.9-H31.8） 5. 音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他作業の指導（東電）（奨学寄付金 佐藤工業㈱ H31.9-H32.9） 6. UAVを用いた音波照射加振による浅層地中探査技術の基礎研究（防衛装備庁、安全保障技術研究、研究代表者2年目、H30.11-R03.3） 7. 耐火煉瓦に対する非接触音響探査法の適用性に関する検討（合同研究、JFEスチール㈱、H30.12-R02.3） ・医用計測 1. AI解析を用いたコロトコフ音波形による健康管理指標値の研究（基盤C、分担研究者2年目、H30.4-R02.3）					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（総説・論説）					
「インフラ検査のための音波照射加振による高速非接触音響探査法 ―マルチトーンバースト波を用いた高速計測と適用例―」	単著	2019年5月1日	建設機械	杉本恒美	24-29頁
「構造物点検のための音波照射加振による遠距離非接触音響探査法 -30mを超える高さの橋梁床板に対する適用性検」	共著	2019年5月25日	建設機械施工, Vol. 70, No. 5	杉本恒美, 歌川紀之, 川上明彦	60-65頁
「非接触音響探査法を用いたアルミハニカムパネルの剥離欠陥検出」	共著	2019年7月1日	非破壊検査Vol. 68, No. 7	杉本恒美, 中川裕, 杉本和子, 小菅信章, 今井済, 木村憲志, 佐藤明良	302-308頁
ドローンからの音波照射加振を用いた外壁の非接触音響探査	共著	2019年9月25日	コンクリート工学, Vol. 57, No. 9	杉本恒美, 杉本和子, 上地樹, 歌川紀之	681-686頁
「建造物の非破壊検査のための音波照射加振を用いた非接触音響探査法」	単著	2019年11月24日	計測と制御, Vol. 58, No. 11	杉本恒美	848-852頁
「非接触音響探査法による地下空洞天井吹付コンクリート欠陥検出技術の開発」	共著	2019年11月24日	検査技術 Vol. 24, No. 12	杉本恒美, 杉本和子, 歌川敬之, 黒田千歳, 森岡宏之, 鶴田滋, 中川貴之, 本田中, 杉崎直人, 山崎隆央	6-16頁
「インフラ検査のための音波照射加振による高速非接触音響探査法」	単著	2019年12月1日	超音波TECHNO, Vol. 31, No. 6	杉本恒美	92-96頁
「非接触音響探査法のための空間スペクトルエントロピーを用いた内部欠陥検出」	共著	2020年4月1日	超音波TECHNO, Vol. 32, No. 2	杉本和子, 杉本恒美	18-23頁
（学術論文）					
「非接触音響探査法を用いた飲料用軟性容器の内容物粘性液体測定に関する研究」	共著	2019年6月1日	日本包装学会誌 Vol. 28, No. 3	川井重弥, 中川裕, 杉本恒美	187-198頁
「非接触音波照射加振を用いた樹脂製キャップとボトル口嵌合特性に関する研究」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢, 第40号	川井重弥, 中川裕, 杉本恒美	137-144頁

「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究—長距離計測の検討(Ⅲ)—」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	上地樹，杉本恒美，歌川紀之，川上明彦	121-128頁
「小松菜を定植した培養土中の音波伝搬速度と体積含水率の検討(Ⅲ)」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	大平武征，杉本恒美，佐野元昭，白川貴志，中川裕，内川千春	129-132頁
「画像解析による植物の葉の固有振動数計測」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	内川千春，杉本恒美，佐野元昭，大平武征，中川裕，白川貴志	115-120頁
「縦挿し型送受信機を用いた土壌中の伝搬速度計測(Ⅳ)」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	白川貴志，大平武征，内川千春，中川裕，佐野元昭，杉本恒美	133-136頁
「映像の矩形分割による葉の固有振動数計測法を用いた植物の水ストレス推定」	共著	2019年6月15日	桐蔭論叢、第40号	佐野元昭、内川千春、大平武征、白川貴志、中川裕、杉本恒美	109-114頁
「外壁検査のための音源搭載型UAVを用いた高速非接触音響探査法」	共著	2019年7月11日	コンクリート工学年次論文集, Vol. 41, No. 1	杉本和子，上地樹，川井重弥	1901-1906頁
「Detection of resonance frequency of both the internal defects of concrete and the laser head of a laser Doppler vibrometer by spatial spectral entropy for noncontact acoustic inspection」	共著	2019年7月3日	Japanese Journal of Applied Physics, Vol. 58, SGG15	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
音源搭載型UAVを用いた非接触音響探査法による外壁検査に関する検討(2)	2019年6月3日	物理探査学会第140回(令和元年度春季)学術講演会(早稲田大学/東京都新宿区)	杉本恒美，杉本和子，上地樹，歌川紀之，黒田千歳		
アルミハニカムパネルに対する非接触音響探査法による欠陥検出	2019年6月6日	2019年度 非破壊検査総合シンポジウム(日本非破壊検査協会・亀戸センター/東京都江東区)	杉本恒美，中川裕，杉本和子，小菅信章，今井済，木村憲志，佐藤明良		
「非接触音響探査法を用いた軟性容器内容物粘度測定に関する研究」	2019年7月12日	日本包装学会第28回年次大会 研究発表会(東京大学/東京都文京区)	川井重弥，中川裕，杉本恒美		
「非接触音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発—地下発電所空洞における長距離計測—」	2019年9月5日	土木学会全国大会第74回年次学術講演会(香川大学/香川県高松市)	上地樹，杉本恒美，歌川紀之，森岡宏之		
非接触音響探査法による外壁調査の効率性向上に関する検討	2019年11月8日	国土技術研究会(RCC文化センター/広島県広島市)	杉本恒美，歌川紀之		
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討—音源搭載型ドローンを用いた外壁点検(2)—」	2019年11月12日	日本非破壊検査協会，令和元年度秋季講演大会(RCC文化センター/広島県広島)	上地樹，杉本恒美，杉本和子，中川裕，歌川紀之，黒田千歳		
Study on noncontact acoustic inspection method for concrete non-destructive inspection -Outer wall tile inspection using sound source mounted drone-	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering (Sophos Hall, Toin Gakuen Academicum B1F)	Itsuki Uechi, Tsuneyoshi Sugimoto		
非接触音響探査法による地下空洞天井部の吹付コンクリート欠陥探査-遠距離からの音波照射加振による叩き点検の代替手法-	2020年2月28日	超音波研究会(東京電機大学/東京都足立区)	杉本恒美，杉本和子，歌川紀之，黒田千歳，森岡宏之，鶴田滋，中川貴之，本田中，杉崎直人，山崎隆央		

非接触音響探査法のための空間スペクトルエントロピーによる共振周波数の識別を用いた欠陥検出,-遠隔30 m からの高架橋床版における実験と解析結果-	2020年2月28日	超音波研究会(東京電機大学/東京都足立区)	杉本和子, 杉本恒美, 歌川紀之, 黒田千歳
コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究 -地下空洞天井部の吹付コンクリートへの適用例-	2020年3月17日	音響学会春季研究発表会(埼玉大学/埼玉県さいたま市)	杉本恒美, 杉本和子, 歌川紀之, 黒田千歳
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -音源搭載型 UAVを用いた外壁検査の効率化に関する検討(9)」	2020年3月17日	音響学会春季研究発表会(埼玉大学/埼玉県さいたま市)	上地樹, 杉本恒美, 杉本和子, 大平武征, 中川裕, 歌川紀之, 黒田千歳
「Noncontact acoustic inspection of outer wall by acoustic irradiation induced vibration from UAV equipped with sound source」	2019年9月5日	2019 International Congress on Ultrasonics (2019ICU)	Tsuneyoshi Sugimoto, Kazuko Sugimoto, Itsuki Uechi, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Noncontact two-dimensional defect detection using identifying each resonance frequency of defective part and LDV by spatial spectral entropy」	2019年9月5日	2019 International Congress on Ultrasonics (2019ICU)	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Defect detection using the identification of resonance frequency by spatial spectral entropy for noncontact acoustic inspection method」	2019年9月13日	2019 International Congress on Acoustics (2019 ICA)	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Outer wall inspection by noncontact acoustic inspection method using sound source mounted type UAV」	2019年9月13日	2019 International Congress on Acoustics (2019 ICA)	Tsuneyoshi Sugimoto, Kazuko Sugimoto, Itsuki Uechi, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Efficiency Improvement of Outer Wall Inspection by Noncontact Acoustic Inspection Method using Sound Source Mounted Type UAV」	2019年10月9日	2019 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS)	Tsuneyoshi Sugimoto, Kazuko Sugimoto, Itsuki Uechi, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Detection and acoustical visualization of internal defects in shotcrete structures by spatial spectral entropy for noncontact acoustic inspection method」	2019年10月9日	2019 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS)	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto, Hiroshi Morioka, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda, Takeyuki Ohdaira
「Efficiency Improvement of Outer Wall Inspection by Noncontact Acoustic Inspection Method using Sound Source Mounted Type UAV」	2019年10月9日	2019 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS)	Tsuneyoshi Sugimoto, Kazuko Sugimoto, Itsuki Uechi, Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda
「Study on health index value by Korotkoff sound analysis, - Waveform change of Korotkoff sound with aging -」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering	Tsuneyoshi Sugimoto, Fumiyo Katayama, Motoaki Sano, Mai Sugawara
「Study on Inspection of Aircraft Parts Using Sound Vibration II」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
「Propagation velocity in soil using Handheld Sound Source and Sensors (V)」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
「Study on thermal deformation inspection of PET bottle cap using noncontact acoustic inspection method」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering	Tomokazu Nagayama, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
「Study on noncontact acoustic inspection for concrete structures - Statistical evaluation of a healthy part of concrete-」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering	Kazuko Sugimoto, Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto

「Evaluation of concrete specimens with different strengths by noncontact acoustic inspection method」	2019年11月16日	14th Toin International Symposium on Biomedical Engineering	Takeyuki Ohdaira , Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto , Motoaki Sano , Itsuki Uechi , Yutaka Nakagawa
「Application of spatial spectral entropy on composite materials for noncontact acoustic inspection」	2019年11月25日	Symposium on Ultrasonics and Electronics 2019 (USE2019)	Kazuko Sugimoto , Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa , Chitose Kuroda
「Efficiency improvement of outer wall inspection using acoustic irradiation induced vibration from UAV」	2019年11月26日	Symposium on Ultrasonics and Electronics 2019 (USE2019)	Tsuneyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto , Itsuki Uechi , Noriyuki Utagawa , Chitose Kuroda
○講演会・研究会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研究会等名	開催場所
「世界中のコンクリート欠陥検査の常識が変わる!? 最新 非接触音響探査法のすべて」	2019年9月23日	2019桐蔭学園フロンティアセミナー	桐蔭学園高等学校（横浜市）
「インフラ点検のための非接触音響探査法について」	2019年11月22日	打音法に関する講演会	川田工業東京本社（東京都北区）
○その他			
（特許申請等）			
特許名	年月日	特許番号	申請者名（共同の場合）
「非接触音響解析システム」	2019年5月21日	特願2019-095500	学校法人桐蔭学園、佐藤工業(株)、東京電力HD、東電設計(株)、(株)東設土木コンサルタント
「ボルトを構造物に設置するために用いられた接着剤の充填率を音波を用いて点検する方法およびそれを行う非接触音響探知システム」	2019年10月25日	特許第6605246号 登録日2019年10月25日 特願2015-145523 出願日2015年07月23日	発明者：杉本恒美、歌川紀之、上地樹、出願人：桐蔭学園、佐藤工業(株)
「非接触検査システム、非接触検査装置および非接触検査方法」	2020年2月12日	特願2020-021473	学校法人桐蔭学園、プロテック株式会社
「音波を用いた強度推定方法および強度推定システム」	2020年3月31日	特許第6684074号 登録日2020年3月31日 特願2015-216803 出願日2015年11月04日	発明者：杉本恒美、杉本和子、河野 豊、西土隆幸、出願人：学校法人桐蔭学園、(株)IHI 検査計測
「非接触音響探査システム」	2020年5月7日	特許第6700054号 登録日2020年5月7日 特願2016-20264 出願日2016年02月04日	発明者：杉本恒美、杉本和子、黒田千歳、歌川紀之、出願人：桐蔭学園、佐藤工業(株)
（表彰・受賞）			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等（共同の場合）
「学術奨励賞」（アルミハニカムパネルに対する非接触音響探査法の適用性検討）	2019年6月7日	(一社)日本非破壊検査協会	杉本恒美，中川裕，杉本和子，小菅信章，今井済，木村憲志，佐藤明良
（産学協同研究）			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
合同研究「軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討」	2016年9月～2019年8月	(株)プロテック 合同研究費1425万円(直接1296万、間接129.6万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導」	2018年6月～2019年5月	佐藤工業(株) 寄付金額108万円(直接97.2万、間接10.8万)	
合同研究「耐火煉瓦に対する非接触音響探査法の適用性に関する検討（合同研究）」	2019年4月～2020年3月	JFEスチール(株) 合同研究費218万円(直接198万、間接19.8万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導」	2019年9月～2020年9月	佐藤工業(株) 寄付金額108万円(直接97.2万、間接10.8万)	

共同研究「非接触音響探査法の軽量部材への適用性の研究」	2019年9月～2020年3月	㈱IHI検査計測 共同研究費121万円(直接110万、間接11万)
合同研究「耐火煉瓦に対する非接触音響探査法の適用性に関する検討(合同研究)」	2020年4月～2021年3月	JFEスチール㈱ 合同研究費169万円(直接154万、間接15.4万)
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
基盤研究(C)「非接触音響探査を用いたコンクリートの強度評価に関する研究」	2017年度～2019年度	文部科学省科研費、研究代表者：大平武征、分担研究者：杉本恒美、杉本和子 約370万円(間接経費111万)
若手研究(B)「マルチロータ型ヘリコプターを用いた非接触音響探査法に関する研究」	2017年度～2019年度	文部科学省科研費、研究代表者：上地樹、協力研究者：杉本恒美、杉本和子 約310万円(間接経費93万)
基盤研究(C)「AI解析を用いたコロトコブ音波形による健康管理指標値の研究」	2018年度～2020年度	文部科学省科研費、研究代表者：片山富美代、分担研究者：杉本恒美 約310万円(間接経費93万)
防衛装備庁 安全保障技術研究、「UAVを用いた音波照射加振による浅層地中探査技術の基礎研究」	2018年度～2020年度	防衛装備庁 安全保障技術研究、研究代表者：杉本恒美、分担研究者：歌川紀之 約1000万円(間接経費300万)×3年
基盤研究(C)「空間スペクトルエントロピーと健全部評価による非接触音響探査法の欠陥検出の検討」	2019年度～2021年度	文部科学省科研費、研究代表者：杉本和子、分担研究者：杉本恒美 約340万円(間接経費102万)
基盤研究(C)「葉の映像の深層学習による植物の水ストレスの推定」	2020年度～2022年度	文部科学省科研費、研究代表者：佐野元昭、分担研究者：杉本恒美 約380万円(間接経費114万)
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
2019 International Congress on Ultrasonics (ICU) および 23rd International Congress on Acoustics (ICA)における口頭発表	2019年9月1日～15日	Vives Campus Bruges(Xaverian street 10, 8200 Brugge, Belgium), Eurogress Aachen(Monheimsallee 48, D-52062 Aachen, Germany)
IEEE International Ultrasonics Symposium 2019 (IUS)における口頭発表	2019年10月5日～19日	SEC Glasgow(Exhibition Way, Glasgow G3 8YW, UK)
(その他特記事項)		
日本非破壊検査協会・令和元年度秋季講演大会・座長 第3会場 オーガナイズドセッション「鉄筋コンクリート構造物の検査・点検のための非破壊試験方法(AE技術適用)」座長を務めた。(2019年11月12日 11:00-12:00)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、電子情報通信学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会、日本コンクリート工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2003年10月～現在	日本音響学会 査読委員
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員
2014年3月1日～現在	日本音響学会 アコースティックイメージング研究委員会 委員
2017年4月～2023年3月	電子情報通信学会 超音波研究会専門委員(任期6年)
2019年3月～現在	日本非破壊検査協会 新素材部門幹事

櫻井 智野風 (さくらい とものぶ) 教授



出生年 : 1966 (昭和41) 年
 在籍 : 2014 (平成26) 年4月～
 最終学歴 : 横浜国立大学大学院教育学研究科保健体育学専攻修了
 学位 : 博士 (運動生理学), 教育学修士
 学位論文 : 「運動による骨格筋損傷とその治癒過程における一酸化窒素の関与」 (博士論文)
 専門分野 : 運動生理学, スポーツ科学, トレーニング科学
 前職 : 東京農業大学 生物産業学部 准教授
 学内役職等 : 大学院スポーツ科学研究科研究科長
 留学 : アメリカ・ウィスコンシン州立大学マディソン校キネシオロジー学部 客員研究員 (1999～2000)
 資格 : 小学校教諭一種免許, 中学校教諭一種免許 (保健体育), 高校学校教諭専修免許 (保健体育), 日本体育協会公認コーチ (陸上競技), 国際陸上競技連盟 レベルI 講師
 非常勤講師 : 青山学院大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学の基礎と発展 (フリースペース)	2002年4月～	運動生理学の教科書として使用.
陸上競技のコーチング学	2020年2月～	陸上競技の指導者育成事業に関する参考書籍として使用

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略
空気中の酸素濃度が筋の損傷や筋肉痛に及ぼす影響を探った。その結果、酸素濃度は筋肉のリカバリーに大きく影響することが分かった。この結果を論文としてまとめ報告した。また継続中のエストロゲンが筋の損傷に及ぼす影響については、雌ラットをモデルとして行った。その結果、エストロゲンは筋の損傷治癒に対して影響を及ぼすことがわかった。このことに関しては国際学会及び論文においても発表済みであり、今後はさらに発展させていきたい。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日（西暦）	発行所、発表雑誌（巻、号数）等の名称	編者・共著者名	該当頁
（著書）					
不調の原因を解消する本	単著	2019年8月	榎出版	桜井智野風	
陸上競技のコーチング学	共著	2020年2月	大修館書店	日本陸上競技学会	194-196頁
（学術論文）					
スポーツタレントを発掘する力・育成する力	単著	2019年9月	体育の科学 Vol. 69		pp. 658-662
エストロゲンは骨格筋損傷の修復に良い影響を及ぼす	共著	2020年2月	桐蔭スポーツ科学 Vol. 3		pp. 19-27
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月（西暦）	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
17β-estradiol has a positive effect on repair of skeletal muscle injury	2019年6月	24th ECSS Congress, PRAGUE/CZECH REPUBLIC	TAKINO A. HIROSE T. SAKURAI T.		
○その他					
（補助金・助成金等）					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
女性アスリートにおける筋痛マネジメントプログラムの開発	2018年～2021年	科学研究費補助金 基盤C			
（海外出張）					
用件	出張期間	出張先			
24th ECSS Congress,	2019年6月2日～7日	PRAGUE/CZECH REPUBLIC			
（雑誌・新聞記事等掲載）					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
『子どものスポーツ新常識』	2019年度	Web雑誌「OCEANS WEB」への連載			
『からだづくりのサイエンス』	2008年度～現在	「北海道の国保」への連載			
（その他特記事項）					
陸上競技の強化・普及を目的としたテレビ出演：日本テレビ・関東学生陸上競技対抗選手権大会解説者（2019年5月）					
グッドスポーツ（NHK）：「フィギアスケートスペシャル：紀平選手特集」4回転ジャンプに関する解説（2019年10月）					
ポルポ（テレビ朝日）：「塩ってそもそも何？」にて解説（2019年10月）					
ポルポ（テレビ朝日）：「階段ってなんで疲れるの？」にて解説（2019年10月）					

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会, 日本体力医学会, 日本トレーニング科学会 (理事), 日本生理学会, 日本臨床生理学会, 日本発育発達学会, 日本生気象学会, 日本健康医学会, 日本宇宙航空環境医学会, 日本陸上競技学会 (理事), 日本スプリント学会, 日本スポーツ健康科学学会 (理事), American College of Sports Medicine (アメリカスポーツ医学会)		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2007年4月～2019年5月	日本トレーニング科学会理事	
2012年4月～現在	日本陸上競技学会理事	
2014年4月～現在	日本生理学会評議員	
2014年4月～現在	日本体力医学会評議員	
2015年4月～2020年3月	日本生気象学会事務局長	
2018年4月～現在	(一社) 日本健康増進学術機構 構成員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国の小学生・中学生指導者対象の陸上競技教室における講師	2014年4月～現在	日本陸上競技連盟指導者育成委員会コミッティーディレクター

澁 倉 崇 行 (しぶくら たかゆき) 教授



出生年 : 1972 (昭和47) 年
在籍 : 2014 (平成26) 年4月～
最終学歴 : 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程 (後期課程) 心理発達科学専攻修了
学位 : 博士 (心理学)
学位論文 : 「高校運動部員の心理的ストレスに関する研究 : 部活動ストレスモデルの構築と介入プログラムの作成」
専門分野 : スポーツ心理学
前職 : 新潟県立大学人間生活学部准教授
学内役職等 :
留学 :
資格 : 中学校・高等学校教諭専修免許状 (保健体育), メンタルトレーニング指導士, アンガーマネジメントファ
非常勤講師 : 国士舘大学, 尚美学園大学
受賞・表彰 : 日本体育学会学会賞 (平成26年度) (共著者)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本教育心理学会, 日本健康心理学会, 日本ストレスマネジメント学会, 日本スポーツ産業学会, 日本コーチング学会



出 生 年 : 1955(昭和30年)
 在 籍 : 2018年4月1日
 最 終 学 歴 : 島根医科大学医学部医学科
 学 位 : 医学博士
 学 位 論 文 : Intraperitoneal in vivo gene therapy to deliver
 al-antitrypsin to the systemic circulation
 専 門 分 野 : 内科学、分子生物学、ゲノム医学、健康医学
 前 職 : 東京医科大学医学部呼吸器内科学分野教授
 学 内 役 職 等 : 大学院スポーツ研究科教授 大学院スポーツ研究科専
 攻長
 留 学 : 米国National Institutes of Health (NIH), National
 Heart Lung and Blood Institute, Pulmonary branchi
 (1991年2月-1993年8月)
 資 格 : 医師、日本内科学会認定医/指導医、日本呼吸器学会呼
 吸器専門医/指導医、日本医師会認定産業医、日本がん
 治療認定医機構認定医/指導医、呼吸機能障害認定指定
 医、東京都難病指定医、厚生労働省医政局長認定臨床
 研修医指導医、厚生労働省医政局長認定緩和ケア
 医、医療系大学間試験実施機構認定共用試験医学系
 OSCE評価者、NIH Completion Certificate of a
 program of collaborative research experience as a
 fellow
 非 常 勤 講 師 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 特任教
 授、東京医科大学医学部呼吸器内科学分野兼任教授
 受 賞 ・ 表 彰 : 日本呼吸器学会学術部会最優秀賞 (2018. 4), Best
 Doctors in Japan (2011-2019), 東京医科大学稲垣教育
 賞(2014, 2011, 2010)、岡本敏肺線維症研究奨励賞
 (2006)、順天堂大学医学部Best Tutor賞(2002),
 Respiratory Molecular Cell Biology研究奨励賞
 (1997, 1995), 免疫Forum賞(1996), 第106回米国医学会
 年次総会Young Investigator Award(1993), 米国
 Fogaty International財団Visiting Scientist
 Fellowship award (1991)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含)		
画像、動画を活用した授業	2019年4月-2020年3月	日常目に触れることない細胞内器官、筋肉の動きなどを動画を使い授業内で解説
2. 作成した教科書、教材、参考書		
健康医学入門、生理学、生活習慣病	2019年4月-2020年3月	各授業で取り上げる内容について、重要事項等については空欄として授業中記入させるように工夫することで 学生の集中力を維持するようにした

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
<p>1) 予後不良な難病である肺線維症の病因解明と治療法の開発の研究 発症原因となる遺伝子異常の探索をおこない小児、成人を含め8種類の遺伝子とその変異20箇所の変異を同定してきた。SFTPA1遺伝子については、ゲノム編集技術でSFTPA1変位モデルマウスを作成し、細胞死の一つnecroptosisによる肺線維症の発症を世界で初めて証明した (JEM2019発表)。また、2018年度から、治療に向けた発症機序に向けた解析のために京都大学医学部と疾患iPS細胞作成を行い、疾患肺細胞への分化またゲノム編集による変異部分の修復研究を行ってきた (複数海外論文準備中)。2). 生活環境で発症する慢性過敏性肺炎の肺線維化に関わる遺伝子とその役割をあきらかにする研究で海外論文準備中3). 新規の線維化のマーカーを明らかにし、海外の学会で発表、論文化をすすめている4) 加齢と運動能力の観点から促進因子と抑制因子についてのgenetic 或いはepigeneticな要素の研究の基盤準備中</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
呼吸器疾患 最新の治療2019-2020	共著	2019年4月	南江堂	片柳慎司、瀬戸口靖弘	453-458
第113回医師国家試験問題解説	単著	2019年4月	メディクメディア	瀬戸口靖弘	1-598
Question Bank2019 呼吸器	単著	2019年4月	メディクメディア	瀬戸口靖弘	1-425
(学術論文)					
A homozygous SFTPA1 mutation drives necroptosis of type II alveolar epithelial cells in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.		2019年12月	Journal of Experimental Medicine 216(12)	59. Takezaki A, Tsukumo SI, Setoguchi Y, Ledford JG, Goto H, Hosomichi K, Uehara H, Nishioka Y, Yasutomo K	pp. 2724-2735
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Serum galectin-3 could be useful biomarker to know progression of pulmonary fibrosis.	2019年11月	APSR International Conference 2019 (ベトナム Hanoi) シンポジスト	Setoguchi Y, Kitagawa S, Katayanagi S, Okamoto T, Miyazaki Y		
Impact of aging on sleep disordered breathing	2019年11月	APSR International Conference 2019 (ベトナム Hanoi) ポスター	Kasagi S, Tomita Y, Takaya H, Setoguchi Y, Narui K		
Prognostic Impacts of Comorbidities in Pulmonary Alveolar Proteinosis: A Nationwide Surveillance in Japan	2019年5月	American Thoracic Society International Conference 2019 (米国 Dallas) パネリスト	Inoue Y, Yamaguchi E, Setoguchi Y, Ichiwata T, Ebina M, Cho K, Tazawa R, Ishii H, Kasai T, Akira K, Arai T, Uchida K, Kida H, Morimoto K, Kitaichi M, Sugimoto C, Nakata K, Katayama K, Takeuchi N, Matsumu A		
呼吸器におけるiPS細胞研究	2019年4月	第59回 日本呼吸器学会学術講演会 (国際会議場 東京)	瀬戸口靖弘 (教育講演)		
ゲノム医学、エピジェネティック制御の観点から見たスポーツ	2019年8月	スポーツ健康科学学会学術総会 (桐蔭横浜大学 横浜市)	瀬戸口靖弘		
肺細胞の生存と死から考える肺線維化の機序：若年成人発症進行性肺線維症	2019年12月	順天堂大学医学部呼吸器内科 臨床病理検討会 (東京)	瀬戸口靖弘		
家族性間質性肺炎の責任遺伝子同定から間質性肺炎の発症機序と治療への展望	2020年2月	京都大学医学部第14回 Keiji-Respir Research Seminar (京都大学医学部 芝蘭会館)	瀬戸口靖弘		

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月（西暦）	依頼先・研修会等名	開催場所
咳と花粉症	2019年5月	中野医師会	中野医師会会館（東京都）
健診結果の見方と考え方	2019年5月	DNP健康講座	DNP社内会議室（新宿区）
脂質異常症	2019年6月	DNP健康講座	DNP社内会議室（新宿区）
日常診療に潜む特発性肺線維症を発見するポイントを考える：早期介入の重要性	2019年6月	青梅 肺線維症研究会	青梅市立病院会議室（青梅市）
季節性インフルエンザを防ぐには	2019年10月	DNP健康講座	DNP社内会議室（新宿区）
掌蹠膿疱症の肺陰影	2019年11月	中野医師会	中野医師会会館（東京都）
睡眠異常	2019年11月	DNP健康講座	DNP社内会議室（新宿区）
肺線維症	2019年12月	城北肺線維症研究会	総合東京病院会議室（中野区）
○その他			
（補助金・助成金等）			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費助成事業（学術振興会）	2017年4月-2020年3月	科学研究補助金基盤研究C（分担研究者）アスパラギン残基の脱アミド化反応による慢性閉塞性肺疾患発症のメカニズムの解明	
厚生科研（厚生労働省）	2017年4月-2020年3月	びまん性肺疾患難病疾病研究補助金（研究協力者）	
科学研究費助成事業（学術振興会）	2015年4月-2019年3月	科学研究補助金基盤研究C（分担研究者）呼吸器誘発肺障害におけるaquaporinの役割	
日本医療研究開発機構（AMED）難治性疾患実用化事業	2016年4月-2020年3月	研究開発費「肺胞蛋白症診療に直結するエビデンス創出研究」分担研究	
日本医療研究開発機構（AMED）再生医療	2016年4月-2021年3月	研究開発費「ヒト疾患特異的iPS細胞を用いた遺伝子研究」研究協力	
（海外出張）			
用件	出張期間	出張先	
APSR International Conference 2019 シンポジスト	2019年11月13日-11月17日	ベトナム Hanoi	
（雑誌・新聞記事等掲載）			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
インフルエンザ対策：湿度を適切に保つ冬の室内、乾燥を防ぐ	2020年1月4日（朝刊）	朝日新聞（全国版）	
インフルエンザ対策：温度と湿度、理想の目安は？ エアコンと加湿器の活用法	2020年1月5日（朝刊）	朝日新聞（全国版）	
新型コロナ感染症：症状ない人の感染「想定外だった」 厚労省、調査拡大へ	2020年1月30日（朝刊）	朝日新聞（全国版）	
新型コロナ感染症：風邪との見分け困難次の脅威は「軽症者の病院殺到」	2020年2月7日（朝刊）	朝日新聞（全国版）	
新型コロナ情報apital：新型肺炎、重症化しやすい人は？ 糖尿病や高血圧ご注意ください	2020年2月12日（朝刊）	朝日新聞（全国版）	

新型コロナ情報：悪化すれば肺炎に免疫力の低下で重症化も	2020年3月9日（朝刊）	朝日新聞（全国版）
新型コロナ情報apital：喫煙者、コロナ致死率高めか 志村さんは4年前から禁煙	2020年3月31日（朝刊）	朝日新聞（全国版）

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本肺癌学会、日本臨床がん治療学会、日本サーファクタント界面医学会、日本遺伝子細胞治療学会、禁煙学会、American thoracici society, European Respiratory Society, Asian Pacific Respiratory Society		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015-現在	Respiratory Investigation Board Member	
2008-現在	日本サーファクタント界面医学界学術誌 編集委員長	
2004-現在	日本呼吸器学会代議員	
2003-現在	日本サーファクタント界面医学界 理事	
2008-現在	日本アレルギー学会 代議員	
2008-現在	日本呼吸器内視鏡学会 国際化委員	
2000-現在	日本内科学会 関東監事	
2008-2019.5	新宿区公害認定審査委員	
2008-2019.5	新宿区公害医療報酬審査委員	
2010-現在	環境省公害認定疑義解釈検討委員	
2000-現在	Young Chest Conference 代表幹事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
生涯教育講座	2019年4月-2019年12月	桐蔭横浜大学生涯教育講座

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出生年 : 1954 (昭和29) 年
 在籍 : 2008 (平成20) 年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学位 : 医学博士 (順天堂大学)、体育学修士 (日本体育大学)
 学位論文 : Effects of swimming and weight loading on bone density and mechanical properties of femoral bone in mice
 専門分野 : 環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前職 : 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
健康科学関連教材冊子の作成	2008年4月～	衛生学・公衆衛生学、健康教育学の教科書として使用
体育・スポーツ科学における調査・研究の方法とその解析	2010年4月～	学部専門演習、修論指導の教材として使用

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略					
我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。2020東京オリンピックの対策については検討課題として取り組んでいる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数) 等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
スポーツをひらく社会学 第2部6章水の文化史	共著	2019年11月	嵯峨野書院	星秋夫	131-152
(総説・論説)					
運動時の水分補給に関する歴史学的考察	共著	2019年10月	日本スポーツ健康科学学会雑誌Vol. 6	星秋夫, 今泉隆裕, 廣瀬立朗, 櫻村修生	1-11
2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける熱中症リスクアセスメントおよびマネジメント	共著	2019年10月	日本スポーツ健康科学学会雑誌Vol. 6	櫻村修生, 星秋夫	13-25

(学術論文)					
大学陸上競技長距離選手における熱中症発生の実態	共著	2019年10月	日本スポーツ健康科学学会雑誌	島崎あかね、樫村修生、星秋夫	55-63
JBDFが主催する競技会参加者のスポーツライフに関する調査2018報告書	共著	2020年3月	公益法人日本ボールルームダンス連盟科学委員会報告書	星秋夫、勝亦陽一、小山桂史、坂手誠治、桜井智野風、島崎あかね、関根豊子、廣瀬立朗	1-41
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
熱中症予防対策用衣料における遮熱性の検討		2019年8月	第7回日本スポーツ健康科学学会(横浜)	浅間優、星秋夫、廣瀬立朗、樫村修生、藤下有路、大園一磨、陸田秀之	
凍死と気象要因の関連性		2019年8月	第7回日本スポーツ健康科学学会(横浜)	河合隆蔵、星秋夫、樫村修生	
高校および大学野球選手における夏季暑熱曝露下練習時の体温調節反応と熱中症発生の実態～高校生と大学生の比較～		2019年8月	第7回日本スポーツ健康科学学会(横浜)	島崎あかね、樫村修生、菊池潤、星秋夫	
遮熱性塗装のヒト空間における温度低減効果		2019年8月	第7回日本スポーツ健康科学学会(横浜)	樫村修生、斎藤雄司、星秋夫	
熱中症予防対策としての日傘の効果について		2019年8月	第7回日本スポーツ健康科学学会(横浜)	星秋夫、廣瀬立朗、樫村修生	
わが国における凍死と気象要因の関連性について		2019年10月	第58回日本生気象学会大会(相模原)	河合隆蔵、星秋夫、樫村修生	
日射のある暑熱環境において遮熱性塗装路面上の空間は熱中症リスクを高める		2019年10月	第58回日本生気象学会大会(相模原)	樫村修生、斎藤雄司、星秋夫	
夏のコミックマーケット来場者の熱中症リスクアセスメント		2019年10月	第58回日本生気象学会大会(相模原)	島崎あかね、樫村修生、登内道彦、星秋夫	
ールームダンス実施者のスポーツライフに関する調査		2020年3月	第1731回日本体力医学会関東地方大会	坂手誠治、星秋夫、勝亦陽一、小山桂史、桜井智野風、島崎あかね、関根豊子、広瀬達朗	
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所	
基礎的な熱中症の発生メカニズム		2019年9月6日	農林水産省・令和1年度農作業安全組織計画・運営研修会	農林水産省	
○その他					
(産学協同研究)					
研究内容		研究期間	協同研究の相手方の名称		
ボールルームダンス選手の特性と技術力向上に関する研究		2018年4月～現在	日本ボールルームダンス連盟		
(補助金・助成金等)					
事業名		事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等		
ボールルームダンス選手の特性と技術力向上に関する研究		2018年4月～現在	日本ボールルームダンス連盟		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～2020年3月	日本生気象学会会長
2013年4月～2019年3月	日本スポーツ健康科学学会会長
2018年4月～現在	日本ボールルームダンス連盟科学委員会委員長
2009年3月～現在	日本生気象学会熱中症予防委員会委員
2009年4月～現在	日本生気象学会理事
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学会理事・評議員
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960 (昭和35) 年
 在 籍 : 2005 (平成17) 年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 電子商取引 (EC)、労働法 (使用者側)
 前 職 : 桐蔭横浜大学客員教授
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2010～)
 留 学 :
 資 格 : 弁護士 (第二東京弁護士会)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
2. 作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの配布	2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した (科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。
4. 法律実務教育に関する特記事項		
研修「企業を危機に陥れる『コンプライアンス＝法令遵守』という誤解～なぜ社内規則を遵守して炎上するのか」	2019年6月	株式会社サイバー・コミュニケーションズ 主催
講演「会社と社長個人の“5大リスク”対策」	2019年7月	日本経営合理化協会 主催
講演「パワハラ防止法が成立！今知っておくべきパワハラの基本とその対策～部下への指導で萎縮しないためのノウハウ」	2019年8月	ココネ株式会社 主催
講演「あらゆる組織に共通するコンプライアンスの本質～法令違反ではないのに何故批判されるのか？」	2019年9月	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 主催
講演「今、次世代リーダーに求められるコンプライアンスの在り方について～真のコンプライアンス経営を理解する」	2019年9月	次世代リーダーズキャンプ 2019 主催
講演「今、勝ち残る企業には何が求められているか」	2019年11月	Siemens Healthineers 主催
研修「今、次世代リーダーに求められている資質と経営の在り方」	2019年11月	RIZAPグループ株式会社 主催

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、 情報ネットワーク法学会、 経営法曹会議、 民事訴訟法学会、 司法アクセス学会、 日本法律家協会会員	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年3月～現在	ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社 監査役
2007年8月～2019年8月	株式会社ケイブ 監査役
2013年6月～現在	株式会社ティーガイア 監査役
2014年6月～2020年6月	学校法人桐蔭学園 理事
2015年3月～現在	株式会社ピアラ 監査役
2015年6月～現在	一般財団法人東京都営交通協力会 理事
2017年4月～現在	株式会社J. SCORE 監査役
2019年8月～2020年8月	株式会社ケイブ社外取締役（監査等委員）

久保利 英明 (くぼり ひであき) 教授



出生年：1944（昭和19）年
 在籍：2015（平成27）年4月～
 最終学歴：東京大学法学部卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：コーポレートガバナンス及びコンプライアンス, M&A, 株主総会運営, 金融商品取引法, 独禁法等企業法務, 知的財産権（特にエンターテインメント・ビジネスや通信・放送ビジネス等）

前職：大宮法科大学院大学教授, 桐蔭法科大学院客員教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士
 （日比谷パーク法律事務所代表/第二東京弁護士会）
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
レジュメの配布	2014年4月～	全ての講義でオリジナルのレジュメを配布し、講義内容に合わせた文献等の資料を用意した。
ゲストスピーカーの招聘	2014年4月～	独自の人脈により、第一線で活躍する方々をゲストとして呼びし、法曹の魅力を伝えた。また、受講者以外にも広く聴講を認め、多くの学生に参加の機会を与えた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
法と経済学会, 租税訴訟学会, 日本法社会学会, 日本内部統制学会, 法とコンピュータ学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2006年9月～現任	金融庁総合政策局（旧名称：総務企画局）参事（法令等遵守調査室顧問）	
2008年6月～現任	農林中央金庫 経営管理委員	
2011年6月～現任	東京証券取引所グループ（現 日本取引所グループ）取締役（社外）	
2014年6月～現任	ソースネクスト株式会社 取締役（社外）	
2017年5月～現任	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク理事	
2018年4月～現任	コインチェック株式会社 取締役（社外）	
（主な活動内容）		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
ロースクールと法曹の未来を創る会 代表	2014年5月～	ロースクールと法曹の未来を創る会
第三者委員会報告書格付け委員会 委員長	2014年4月～	第三者委員会報告書格付け委員会

熊 田 彰 英 (くまだ あきひで) 教授



出生年 : 1969 (昭和44) 年12月25日
 在籍 : 2014 (平成26) 年4月～
 最終学歴 : 京都大学法学部
 学位 : 法学士
 学位論文 :
 専門分野 : 刑事法, 刑事実務, 国際司法, 危機管理・コンプライ
 前職 : 法務省大臣官房秘書課 (検事)
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士 (熊田総合法律事務所)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含 実際の事件・実務を意識した教育)	2014年4月～	毎回、判例・時事問題のほか、自らが実務で担当した事件等について適宜言及し、現在習得しようとしている理論・知識が将来実務においてどのような形で役立つか、また、いかなる場面で必要か、学生が具体的なイメージを持てるよう適宜工夫している。

II 研究活動

○その他 (その他特記事項)
ドラマ「HERO」・「フェイクニュース」・「ケイジとケンジ」・「スイッチ」の監修 (2014年7月～)
ニュース番組でのコメント (2014年7月～)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
平成28年4月～	国際委員会

IV 法律実務に関する活動

会の名称	年月日	場所	内容等
弁護士	2014年4月～現在	熊田総合法律事務所	司法実務

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955 (昭和30) 年
 在 籍 : 2007 (平成19) 年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学法学部
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前 職 : 東京高等裁判所判事
 学 内 役 職 等 : 法科大学院専攻科長
 留 学 :
 資 格 : 弁護士 (中島肇法律事務所)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
少人数での双方向の授業		
2. 作成した教科書、教材、参考書		
裁判実務体系「破産法」「条解民事再生法」		
4. 法律実務教育に関する特記事項		
前職時代は、裁判所書記官研修所教官として、「訴訟法理論と調書理論の交錯」		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2015年～現在	原子力損害と公共政策センター・センター長	
2007年～現在	事業再生研究機構 (理事長・多比羅誠) 会員研究員	
2014年～現在	日本サッカー協会規律委員長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

福井康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年 : 1961 (昭和36) 年
在籍 : 2012 (平成24) 年4月～
最終学歴 : 学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程

学位 : 博士 (法学)
学位論文 : 「国民投票の研究」 (博士論文)
専門分野 : 直接民主制・憲法訴訟・選挙運動規制
前職 : 大官法科大学院教授
学内役職等 : 法務研究科法務専攻長 (2012～2014)
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略

国民投票の比較制度研究を行う。とくに憲法改正国民投票について諸外国の運用実態を比較して、我が国の運用に反映させるための指針を提示することを研究する。その具体的な成果は、2020年12月刊行予定の『憲法改正国民投票』(晃洋書房)に示される予定である。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

比較憲法学会、日本政治学会

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年 : 1972 (昭和47) 年
 在籍 : 2010 (平成22) 年4月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 刑事法、労働法、会社商事関係全般 等
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士 (第二東京弁護士会)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月 (西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
一連のセクハラ事件のその後と、今、改めて、検討すべき課題	2019年4月17日～複数回	財務省	財務省
ハラスメントトラブルを起こさない・拡大化させないためのセクハラ研修	2019年9月5日	内閣府	内閣府
今、改めて考えるセクシュアルハラスメント問題とその対策・危機管理	2019年9月26日	警察庁	警察庁
一連のセクハラ事件のその後と、今、改めて、検討すべき課題	2019年10月10日	金融庁	金融庁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年5月～現在	(株) キーウオーカー 監査役
2007年6月～現在	(株) フェイス 社外監査役
2010年3月～現在	(財) 楠田育英会 (現 (一財) 楠田育英会) 常務理事

IV法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年6月～現在	コロムビアミュージックエンタテインメント（株）（現 日本コロムビア（株）） 監査役
2014年4月～現在	家事調停委員（東京家庭裁判所 所属）
2014年9月～現在	トーセイ・リート投資法人 監督役員
2015年4月～現在	（学） 清泉女子大学 評議員
2015年8月～現在	（株） クオレ・シー・キューブ ハラスメント対策委員会 実行委員長
2016年6月～現在	日通商事（株） 社外監査役
2016年12月～現在	（一財） 軽井沢風越学園設立準備財団 評議員
2017年4月～現在	（学） 東邦大学 非常勤講師
2018年3月～現在	（一社） サーキュラーエコノミー推進機構 監事
2018年10月～現在	財務省 コンプライアンス推進会議 アドバイザー
2019年3月～現在	ライオン（株） 社外取締役
2019年10月～現在	（学） 軽井沢風越学園 評議員
2020年6月～現在	東京中小企業投資育成(株) 社外取締役
2020年6月～現在	極東証券株式会社 社外取締役

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963 (昭和38) 年
在籍 : 2010 (平成22) 年4月～
最終学歴 : 東京大学法学部
学位 :
学位論文 :
専門分野 : 会社法・商法
前職 : 三菱商事株式会社勤務 (1987～1999)
学内役職等 :
留学 :
資格 : 弁護士 (第二東京弁護士会) ・曙綜合法律事務所
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

弓 削 田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



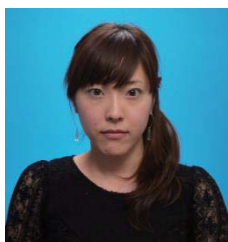
出 生 年 : 1974 (昭和49) 年1月9日
在 籍 : 2010 (平成22) 年4月～
最 終 学 歴 : 明治大学法学部
学 位 : 法学士
学 位 論 文 :
専 門 分 野 : 知的財産法, 企業法務, 広告規制法
前 職 :
学 内 役 職 等 :
留 学 :
資 格 : 弁護士 (2000年登録 小林・弓削田法律事務所)
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク

平 岩 桃 子 (ひらいわ ももこ) 助手



出 生 年 : 1980 (昭和55) 年
在 籍 : 2011 (平成23) 年 1 月～
最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
学 位 : 法務博士
学 位 論 文 :
専 門 分 野 :
前 職 :
学 内 役 職 等 : 法科大学院教育助手
留 学 :
資 格 : 弁護士 (城山タワー法律事務所)
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井理予 (おくい みちよ) 専任講師



出生年 : 1972 (昭和47) 年
 在籍 : 2005 (平成17) 年4月～
 最終学歴 : 広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学位 : 博士 (薬学)
 学位論文 : ダウン症関連領域からクローニングされた *MNB* 遺伝子の発現解析
 専門分野 : 分子生物学、細胞生物学
 前職 : 慶応義塾大学医学部助手
 学内役職等 :
 留学 : St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資格 : 薬剤師免許
 公認スポーツファーマシスト
 非常勤講師 : 国立大学法人電気通信大学
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4. その他教育活動上特記すべき事項		
公認スポーツファーマシスト	2016年4月1日～現在	

II 研究活動

○2019年度の研究活動概略			
昨年までの研究において、PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAとして3種類のmicroRNA (miR-X、miR-Y、miR-Z) を同定した。2019年度は、miR-X、miR-Y、miR-Zのターゲットについて、それぞれsiRNAによる発現抑制を行い、ヒト乳がん細胞株におけるPARP阻害剤感受性について調べた。その結果、転写因子Sの発現抑制により、PARP阻害剤感受性が亢進することが分かった。現在、この転写因子SがPARP阻害剤感受性を亢進するメカニズムについて検討を行っている。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月 (西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター発表) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAの同定と機能解析	2019年12月6日	第42回日本分子生物学会学術総会 (福岡国際会議場、マリンメッセ福岡/福岡県福岡市)	奥井理予、Helen R. Russell、Peter J. McKinnon
(ポスター発表) microRNAを用いたPARP阻害剤併用療法の探索	2020年3月26日	日本薬学会第140年会 (国立京都国際会館他/京都府京都市)	奥井理予、Helen R. Russell、Peter J. McKinnon
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金 基盤研究 (C) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAを用いたTNBC治療法の開発	2018年4月～2021年3月	科学研究費補助金 (日本学術振興会)	